

科目名	会計学入門		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録・計算・整理し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む

11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】章末のまとめ、練習問題は必ず復習すること。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

学習目標に関するレポート・ミニテスト等（20%）、学習目標に基づく期末試験（60%）、通常の授業態度等（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計』 中央経済社

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活と産業		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門選択科目であり、ビジネス領域の科目である。

##### 科目の概要

まず、企業の仕組みを取り上げ、さらに日本企業におけるコーポレートガバナンスをアメリカとの比較で行う。その上で、様々な日本や海外の産業企業を業界ごとに解説する。現状を理解するために、現代史および時事問題についても触れる。

##### 授業の方法

様々な企業、産業を取り上げそれぞれの業界の特徴や課題を浮き彫りにしていく。またいくつかのテーマについてグループに分かれて話し合ったうえで、解決策をプレゼンテーションする。

【グループワーク】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

1. 企業論に関する基礎的な概念を理解することができ、企業・産業が抱えている諸問題について理解することができる。
2. 業界についての基礎的な理解を深めることができる。
3. 広く経済や社会の現状を理解することができる。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「ビジネスと情報に関する基本的理論・概念」

#### 内容

1	ガイダンス
2	株式会社とは何か
3	株式会社のしくみ
4	コーポレートガバナンス
5	日本的経営

6	リスクと企業経営
7	小売業
8	物流
9	製造業
10	製造業が抱える課題
11	IT
12	IT業界と世界
13	日本社会と経営
14	世界経済と経営
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布されたプリントを読む。(各授業に対して45分)

【事後学修】事後に各企業について自ら調べる。(各授業に対して45分)

#### 評価方法および評価の基準

平常点(10%)、グループワーク(30%)、最終のレポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

1年次の科目として時事的な内容から各種の業界について話していきます。時事的なニュースに関心を持つようにして下さい。

科目名	文書作成入門		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHa103		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の学科共通専門科目に属する必修科目である。本科目は、社会のあらゆる分野で基礎となる基本的な情報活用能力を学修する。前期の情報処理演習 で学んだことを基に資格試験に挑戦することができる技術を身に付ける。その成果としてMOS(Microsoft Office Specialist) Word 2016 資格試験のExpertの合格を目指す。

##### 科目の概要

Wordを使って、実際的なビジネス文書の作成方法やWordの高度な活用方法など実践的なスキルを習得し、最終的にはMOS Word 2016 資格試験のExpert資格に合格相当の力を身に着ける。

##### 授業の方法 (ALを含む)

第2回～第6回では、教科書に沿って文書編集を行う。第7回～第15回では、教科書にある模擬試験を解答する。

##### 到達目標

Wordの様々な機能を活用して実践的なビジネス文書を作成することができる。

Wordの持つ高度な機能を知り、必要に応じて利用することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 生活情報学科の主な領域 (ビジネスと情報) に関する実践的な方法を習得できる。

#### 内容

1	ガイダンス (授業の進め方、試験内容の紹介など)
2	文書のオプションと設定の管理(1): 文書とテンプレートの管理
3	文書のオプションと設定の管理(2): 文書の変更管理, 校閲用文書の準備
4	高度な機能を利用した文書のデザイン
5	高度な機能を利用した参考資料の作成
6	ユーザ設定のWord要素の作成

7	学習モードでの模擬試験解答： 模擬試験 1
8	実践モードでの模擬試験解答： 模擬試験 1
9	学習モードでの模擬試験解答： 模擬試験 2
10	実践モードでの模擬試験解答： 模擬試験 2
11	学習モードでの模擬試験解答： 模擬試験 3
12	実践モードでの模擬試験解答： 模擬試験 3
13	学習モードでの模擬試験解答： 模擬試験 4
14	実践モードでの模擬試験解答： 模擬試験 4
15	実践モードでの模擬試験解答： 模擬試験 5

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の次回の演習内容を読み、内容を理解し自分なりに纏めておく。(30分程度)

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。特に、確認問題でできなかったところは、戻って学修しなおしておく。(60分程度)

#### 評価方法および評価の基準

第7回～第14回に実施する模擬試験： 10点×8回=80点，第15回に実施する模擬試験： 20点，の合計点が60点以上を取ったら，文書作成に関する実践的な方法を習得したと判定する。

【フィードバック】授業中に進めた課題の提出物に寄り、各自の理解度を把握し、次回の授業時に個々の学修の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「よくわかるマスター MOS Word 2016 Expert 対策テキスト&問題集」 FOM出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

MOS検定を学内で実施する。教科書にある模擬試験を解くことで、検定合格に必要な知識と技術を身につけることができる。

科目名	データ処理入門		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学科共通専門科目の必修科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための理論・概念や実践方法について学修する。

##### 科目の概要

情報処理演習 で学んだ表計算ソフトウェアの基本的な機能・操作をベースに、テンプレートの作成や校閲の管理、ユーザー定義の表示形式・入力規則・条件付き書式・レイアウトなどの適用、数式を用いた分析、ピボットテーブル・グラフの作成・管理など高度な活用方法を学び、表計算・グラフ作成を目的に応じて効率よく効果的に行うための実践スキルを修得する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら解説した後、総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

##### 到達目標

1. 表計算ソフトウェアの応用的な機能の活用・操作ができる。
2. 表計算ソフトウェアを活用して目的に応じて効率よく効果的に表計算・グラフ作成ができる。
3. 課題解決のための高度なデータ集計及び資料作成ができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2 ビジネスと情報に関する実践方法

#### 内容

1	オリエンテーション
2	ブックのオプションと設定の管理【実技】
3	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (ユーザー定義の表示形式と入力規則)【実技】
4	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (詳細な条件付き書式とフィルター他)【実技】

5	高度な機能を使用した数式の作成（名前付き範囲とオブジェクト定義、関数）【実技】
6	高度な機能を使用した数式の作成（データ分析、ビジネス分析、トラブルシューティング）【実技】
7	高度な機能を使用したグラフやテーブルの作成【実技】
8	学習モードによる演習1 【実技】【ミニテスト】
9	実践モードによる演習1 【実技】【ミニテスト】
10	学習モードによる演習2 【実技】【ミニテスト】
11	実践モードによる演習2 【実技】【ミニテスト】
12	学習モードによる演習3 【実技】【ミニテスト】
13	実践モードによる演習3 【実技】【ミニテスト】
14	総合演習1 【実技】【ミニテスト】
15	総合演習2 【実技】【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。理解が不十分な内容については、質問項目を整理しておく。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り（演習1,2,3は学習・実践両モードの合計）。

1. 表計算ソフトウェアの応用的な機能の活用・操作ができる。

演習1：10% + 演習2：10% + 演習3：10% + 総合演習1：5% + 総合演習2：5%

2. 表計算ソフトウェアを活用して目的に応じて効率よく効果的に表計算・グラフ作成ができる。

演習1：5% + 演習2：5% + 演習3：5% + 総合演習1：5% + 総合演習2：5%

3. 課題解決のための高度なデータ集計及び資料作成ができる。

演習1：5% + 演習2：5% + 演習3：5% + 総合演習1：10% + 総合演習2：10%

演習1,2,3（学習モード/実践モード）：10点×2モード×3回 + 総合演習1,2：20点×2回 = 100点と配点し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 Expert 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	データ処理入門		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHa104		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学科共通専門科目の必修科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための理論・概念や実践方法について学修する。

##### 科目の概要

情報処理演習 で学んだ表計算ソフトウェアの基本的な機能・操作をベースに、テンプレートの作成や校閲の管理、ユーザー定義の表示形式・入力規則・条件付き書式・レイアウトなどの適用、数式を用いた分析、ピボットテーブル・グラフの作成・管理など高度な活用方法を学び、表計算・グラフ作成を目的に応じて効率よく効果的に行うための実践スキルを修得する。

##### 授業の方法（ALを含む）

実技を交えながら解説した後、総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

##### 到達目標

1. 表計算ソフトウェアの応用的な機能の活用・操作ができる。
2. 表計算ソフトウェアを活用して目的に応じて効率よく効果的に表計算・グラフ作成ができる。
3. 課題解決のための高度なデータ集計及び資料作成ができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2 ビジネスと情報に関する実践方法

#### 内容

1	オリエンテーション
2	ブックのオプションと設定の管理【実技】
3	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用（ユーザー定義の表示形式と入力規則）【実技】
4	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用（詳細な条件付き書式とフィルター他）【実技】

5	高度な機能を使用した数式の作成（名前付き範囲とオブジェクト定義、関数）【実技】
6	高度な機能を使用した数式の作成（データ分析、ビジネス分析、トラブルシューティング）【実技】
7	高度な機能を使用したグラフやテーブルの作成【実技】
8	学習モードによる演習1 【実技】【ミニテスト】
9	実践モードによる演習1 【実技】【ミニテスト】
10	学習モードによる演習2 【実技】【ミニテスト】
11	実践モードによる演習2 【実技】【ミニテスト】
12	学習モードによる演習3 【実技】【ミニテスト】
13	実践モードによる演習3 【実技】【ミニテスト】
14	総合演習1 【実技】【ミニテスト】
15	総合演習2 【実技】【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。理解が不十分な内容については、質問項目を整理しておく。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り（演習1,2,3は学習・実践両モードの合計）。

1. 表計算ソフトウェアの応用的な機能の活用・操作ができる。

演習1：10% + 演習2：10% + 演習3：10% + 総合演習1：5% + 総合演習2：5%

2. 表計算ソフトウェアを活用して目的に応じて効率よく効果的に表計算・グラフ作成ができる。

演習1：5% + 演習2：5% + 演習3：5% + 総合演習1：5% + 総合演習2：5%

3. 課題解決のための高度なデータ集計及び資料作成ができる。

演習1：5% + 演習2：5% + 演習3：5% + 総合演習1：10% + 総合演習2：10%

演習1,2,3（学習モード/実践モード）：10点×2モード×3回 + 総合演習1,2：20点×2回 = 100点と配点し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 Expert 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	調査と統計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHa105		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科共通専門科目の2年次必修科目である。

##### 科目の概要

変化の激しい現代社会においては、大量のデータを迅速かつ的確に分析することによって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、社会調査において必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

ネットワーク・フォルダに置かれたExcelシートの課題をダウンロードし、講義を受けながら課題を仕上げ、所定のフォルダに提出する。提出された課題は、次週の授業でフィードバックする。

##### 到達目標

統計調査において必要とされるデータ解析の基礎知識を習得し、説明することができる。 データ解析の基礎知識に基づき、統計調査データをExcelを利用して分析することができる。 統計調査データの性格に応じて、適切なデータ解析ができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2ビジネスと情報に関する実践方法、 -1情報収集、判断、 -3論理的思考

#### 内容

学内ネットワーク・フォルダに置いたExcelシートの課題に取り組みながら、社会調査に必要とされるデータ解析の基礎知識を習得する。

1	度数分布とヒストグラム
2	代表値：平均値、中央値、最頻値
3	歪度と尖度
4	分散と標準偏差
5	偏差値

6	相関係数
7	順位相関
8	回帰分析と重回帰分析
9	平均値の差の検定
10	分散の差の検定
11	カイ2乗検定
12	相関係数の検定、回帰分析と重回帰分析の検定
13	一元配置分散分析と多重比較
14	二元配置分散分析
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当箇所の例題を解く（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業時に出された課題を仕上げる（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

統計調査において必要とされるデータ解析の基礎知識を習得し、説明することができる（平常点10%、筆記試験20%）。データ解析の基礎知識に基づき、統計調査データをExcelを利用して分析することができる（平常点30%、筆記試験20%）。統計調査データの性格に応じて、適切なデータ解析ができる（平常点10%、筆記試験10%）。以上、筆記試験50%、平常点50%として、総合評価60%以上で合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、次週の授業でコメントしてフィードバックする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】羽山 博&できるシリーズ編集部（2015）『できる やさしく学ぶExcel統計入門』インプレス、1,980円＋税

【推薦書】羽山 博（2018）『やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書』インプレス、1,440円＋税

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点未満の場合は再試験を実施する。再試験の実施方法については、Live Campusの授業連絡にて周知する。

科目名	調査と統計		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHa105		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学科共通専門科目の必修科目であり、レポートや卒業研究、社会に出てからの業務等での課題解決に用いるデータ解析の基礎を学修する。

##### 科目の概要

課題解決を目的として、様々なデータから意味のある情報や有用な知見を抽出するデータ解析手法の基礎、主に統計解析について学ぶ。

##### 授業の方法（ALを含む）

各回の授業で実技を交えながら解説した後レポートにより理解の深化・定着を図るとともに、演習を実施して知識・技術と実践的活用能力の修得を目指す。【実技】【レポート（知識）】

##### 到達目標

1. 目的に合わせて適切なデータ解析手法を選択できる
2. 解析結果を正しく解釈できる
3. 基本的なデータ解析手法を課題解決に応用できる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 情報収集・判断      -3 論理的思考

#### 内容

1	データの種類と基本的な集計
2	度数分布表とヒストグラム【実技】【レポート（知識）】
3	基本統計量（平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差）【実技】【レポート（知識）】
4	確率変数と確率分布【実技】【レポート（知識）】
5	代表的な確率分布【実技】【レポート（知識）】

6	母集団と標本、正規母集団の母平均・母分散の推定【実技】【レポート(知識)】
7	正規母集団の母平均・母分散の検定【実技】【レポート(知識)】
8	演習 【レポート(知識)】
9	母比率の推定・検定【実技】【レポート(知識)】
10	母分散の比の推定・検定【実技】【レポート(知識)】
11	母平均の差の推定・検定【実技】【レポート(知識)】
12	散布図と相関係数【実技】【レポート(知識)】
13	回帰分析【実技】【レポート(知識)】
14	クロス集計と独立性の検定【実技】【レポート(知識)】
15	まとめ・演習 【レポート(知識)】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の資料を見直し、理解が不十分な場合は質問項目を整理しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】課題を通して理解を深める。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 目的に合わせて適切なデータ解析手法を選択できる  
レポート課題：21% + 演習：2% + 演習：2%
2. 解析結果を正しく解釈できる  
レポート課題：21% + 演習：2% + 演習：2%
3. 基本的なデータ解析手法を課題解決に応用できる  
レポート課題：30% + 演習：10% + 演習：10%

レポート課題：6点×12回+演習：14点×2回 = 100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題について翌週以降の授業でコメント、解説

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	調査と統計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHa105		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科共通専門科目の2年次必修科目である。

##### 科目の概要

変化の激しい現代社会においては、大量のデータを迅速かつ的確に分析することによって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、社会調査において必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

ネットワーク・フォルダに置かれたExcelシートの課題をダウンロードし、講義を受けながら課題を仕上げ、所定のフォルダに提出する。提出された課題は、次週の授業でフィードバックする。

##### 到達目標

統計調査において必要とされるデータ解析の基礎知識を習得し、説明することができる。 データ解析の基礎知識に基づき、統計調査データをExcelを利用して分析することができる。 統計調査データの性格に応じて、適切なデータ解析ができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2ビジネスと情報に関する実践方法、 -1情報収集、判断、 -3論理的思考

#### 内容

学内ネットワーク・フォルダに置いたExcelシートの課題に取り組みながら、社会調査に必要とされるデータ解析の基礎知識を習得する。

1	度数分布とヒストグラム
2	代表値：平均値、中央値、最頻値
3	歪度と尖度
4	分散と標準偏差
5	偏差値

6	相関係数
7	順位相関
8	回帰分析と重回帰分析
9	平均値の差の検定
10	分散の差の検定
11	カイ2乗検定
12	相関係数の検定、回帰分析と重回帰分析の検定
13	一元配置分散分析と多重比較
14	二元配置分散分析
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当箇所の例題を解く（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業時に出された課題を仕上げる（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

統計調査において必要とされるデータ解析の基礎知識を習得し、説明することができる（平常点10%、筆記試験20%）。データ解析の基礎知識に基づき、統計調査データをExcelを利用して分析することができる（平常点30%、筆記試験20%）。統計調査データの性格に応じて、適切なデータ解析ができる（平常点10%、筆記試験10%）。以上、筆記試験50%、平常点50%として、総合評価60%以上で合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、次週の授業でコメントしてフィードバックする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】羽山 博&できるシリーズ編集部（2015）『できる やさしく学ぶExcel統計入門』インプレス、1,980円＋税

【推薦書】羽山 博（2018）『やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書』インプレス、1,440円＋税

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点未満の場合は再試験を実施する。再試験の実施方法については、Live Campusの授業連絡にて周知する。



科目名	ビジネス入門		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHa106		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学科共通専門科目の必修科目として、ビジネスに必要な基礎を学ぶ入門科目です。この科目をベースとして、2年生後期より受講する経済・経営、生活、マーケティング、会計等に関する各分野の専門科目を理解する為の基礎編です。

##### 科目の概要

ビジネスとは何か、人々は何を目標として行動し意思決定するのか、取引の基本や、ビジネスではどんな課題に直面するのか、そして会社についての基礎知識も学びます。ビジネス社会で良くつかわれる用語や概念も学び、また課題を解決するグループディスカッションも行います。

##### 授業の方法 (ALを含む)

講義を中心とし、後半にはグループに分かれてディスカッションを行う。【グループワー ク】【討議・討論】

##### 到達目標

ビジネス社会や企業についての基礎知識を習得できる。

授業を通じて、理解力、コミュニケーション力、課題への対応力も向上できます。

卒業後の進路においても役立つようにできる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 1 「ビジネスと情報に関する基本的理論・概念」

#### 内容

1	ビジネスとは何か
2	会社の仕組み
3	ステークホルダー
4	資金調達

5	労働者から見たビジネス
6	ビジネスとリスク 1
7	ビジネスとリスク 2
8	ビジネスとリスク 3
9	グループワーク 1
10	グループワーク 2
11	グループワーク 3
12	プレゼンテーション 1
13	プレゼンテーション 2
14	まとめ 1
15	まとめ 2

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前にテーマを与えていくので、自分で調べておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加姿勢20点、最終テスト40点、プレゼンテーション40点を目安とし、ビジネスに関する基礎を理解することをテストで評価する。また、プレゼンテーションでは、グループワークでの参加、プレゼンテーション全体の能力を図る。そのうえで、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で使うプリントを必要に応じて都度配布する。

【推薦書】参考書は授業開始時に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ビジネスについて包括的に扱うので、他の授業との関係を意識して学習すること。

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHa107		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無。

#### 実務経験および科目との関連性

無。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

私たちは様々な形でコミュニケーションをしながら人と関わりを持っている。コミュニケーションを通じて、私たちは特定の社会を形成・維持して社会の中で生活している。コミュニケーション技法を身につけていくことは、社会に出ていくための第一歩といえる。

##### 科目の概要

前半ではコミュニケーションとプレゼンテーションに関する基礎的な知識と能力を身につける。後半からは前半で身につけた知識と能力を背景に、より高度なコミュニケーションとプレゼンテーションを実際に行いながら、さまざまな応用知識やスキルを獲得していく。

##### 授業の方法（ALを含む）

前半は講義を中心とし、様々なプレゼンテーションを見たり、技術を学ぶ。後半はグループに分かれテーマについてディスカッションしたうえで、プレゼンテーションを行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

思考力のほか論理を組み立てて的確に伝える論理力を身につけることができる。

表現力などの基礎力をペアワークやグループワークを通じて身につけることができる。

グループワークで他の人と共同で作業する力を身につけることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

###### 知識、技能

3 専門教育で習得した理論・方法を、実際の問題解決に活用していく方法を身につける。

4 専門教育で習得した理論・方法を用いて、自らテーマを設定し、課題を抽出・解決し結論を導き、論理的に表現できる。

###### 思考力、判断力、表現力

1 実社会における問題に対し正確に情報を集め、判断できる能力を身につプロマ・ポリシ 学科の主な領域(ビジネスと情報)に関する基本的な理論や概念を理解できる。

## 内容

1	オリエンテーション
2	自己紹介からコミュニケーションへ
3	コミュニケーション・スキル
4	非言語的コミュニケーション
5	アイデアを生み出す技術
6	プレゼンテーションの構造
7	主張の裏付けかた
8	文章とプレゼンテーションの相似性 中間試験
9	意見の形成と主張
10	時系列の叙述
11	ものごとの説明
12	ビジネス・トークにおける説得の論理
13	ディスカッションの基礎知識と実践
14	ディベートの基礎知識と実践
15	まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の授業で指示された課題に取り組む。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業で配布されたプリントなどで復習する。（各授業に対して45分）

## 評価方法および評価の基準

授業への参加姿勢40%、中間テスト30%、期末テスト30%として総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。

【推薦書】授業中に指示する。

【参考図書】授業中に指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極性が身につけられるようにしてください。

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	松本 晃子、込江 雅彦		
ナンバリング	KHa107		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無。

#### 実務経験および科目との関連性

無。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科必修科目として、「ビジネス社会を推進するための判断力、意思決定力を育成する」ことを目標としている。私たちは様々な形でコミュニケーションをしながら人と関わりを持っている。コミュニケーションを通じて、私たちは特定の社会を形成・維持して社会の中で生活している。コミュニケーション技法を身につけていくことは、社会に出ていくための第一歩といえる。

##### 科目の概要

前半ではコミュニケーションとプレゼンテーションに関する基礎的な知識と能力を身につける。後半からは前半で身につけた知識と能力を背景に、より高度なコミュニケーションとプレゼンテーションを実際に行いながら、さまざまな応用知識やスキルを獲得していく。

##### 授業の方法 (ALを含む)

前半は講義を中心とし、様々なプレゼンテーションを見たり、技術を学ぶ。後半はグループに分かれテーマについてディスカッションしたうえで、プレゼンテーションを行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

1. 思考力のほか論理を組み立てて的確に伝える論理力や表現力などを身につけることができる。
2. ペアワークやグループワークで他者の意見を聞き、自分の意見を他者に伝えることができる。
3. プレゼンテーションする能力を身につけることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 4 「課題設定・抽出・解決、論理的表現」 - 2 「柔軟性、行動判断」 - 1 「興味・関心、主体性」

#### 内容

1	オリエンテーション
2	自己紹介からコミュニケーションへ
3	コミュニケーション・スキル

4	非言語的コミュニケーション
5	アイデアを生み出す技術
6	プレゼンテーションの構造
7	主張の裏付けかた
8	文章とプレゼンテーションの相似性 中間試験
9	意見の形成と主張
10	時系列の叙述
11	ものごとの説明
12	ビジネス・トークにおける説得の論理
13	ディスカッションの基礎知識と実践
14	ディベートの基礎知識と実践
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の授業で指示された課題に取り組む。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業で配布されたプリントなどで復習する。（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加姿勢40%、中間テスト30%、期末テスト30%として総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。

【推薦書】授業中に指示する。

【参考図書】授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極性が身につけられるようにしてください。

科目名	企業概論		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHb208		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

有り

#### 実務経験および科目との関連性

総合会社において貿易取引実務、子会社経営、ファンド運営等の40年近い経験を有す。本講義では、企業の成り立ち、企業の成長、拡大から国際化、グローバル化の外形的、質的变化を具体的に説明する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

経済活動の主役である企業の活動を理解する為の基礎である。本科目で基礎知識を得た上で、企業経営入門を受講していただきたい。

経済主体として政府、家計と並ぶ企業をその成り立ち、仕組み、責任と言った多方面からの考察により、基本的な理念、概念を理解する事に加え、実社会における問題把握の力をつける事を旨とする。

##### 科目の概要

企業の形態から入り、企業統治、資本市場、競争原理等基本的な断面を学び、更に現代企業が直面するeビジネス、M&A、地域経済との関係までを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む) 授業は、配布する資料での講義形式で行う。

##### 到達目標

1. 企業の成立条件が理解できるようになる。
2. 現代における企業の経済活動並びに国際化という意味を理解出来る。
3. 企業の社会的責任と言ふことの意味並びに社会意識の変遷が理解できたる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1興味・関心・主体性

#### 内容

1	ガイダンス
2	企業の形態
3	企業統治と資本市場
4	企業の社会的な責任
5	企業の競争
6	企業集団と系列
7	企業のサプライヤー管理
8	企業のマネージメント・コントロール・システム
9	企業の人的資源管理
10	企業の成長とイノベーション
11	企業のeビジネス、eコマース
12	企業の国際化
13	企業のM&A 敵対的買収の視点から
14	企業と地域経済
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の熟読（45年分）

【事後学修】配布資料とノートにより授業内容の復習を行う（45年分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への取組姿勢40%で、筆記試験の結果を60%を目安として、合計得点60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関 智弘・中条 良美 編著 （専門基礎ライブラリー） 現代企業論 実教出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ビジネス経済学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHb209		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門科目であり、経済学の基礎を学習する。

##### 科目の概要

経済学の基礎的概念と考え方を学習し、現実の経済問題について考察できるように講義する。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義を中心とし、適宜課題を与えてグループでディスカッションして発表する。【グループワーク】【討議・討論】

##### 到達目標

- 1．経済学の基礎を理解することができる。
- 2．日本経済の現状を理解することができる。
- 3．世界経済の現状を理解することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 1 「ビジネスと情報に関する基本的理論・概念」
- － 2 「ビジネスと情報に関する実践方法」
- － 3 「問題解決への活用」

#### 内容

1	ガイダンス
2	経済学とは何か

3	ミクロ経済学 1 : 需要と供給
4	ミクロ経済学 2 : 市場の失敗
5	マクロ経済学 1 : ケインズ経済学
6	マクロ経済学 2 : 財政政策と金融政策
7	金融危機と金融政策
8	財政政策と財政赤字
9	自然災害と経済
10	ゲーム理論と行動経済学
11	日本経済とグローバル化
12	社会保障改革
13	スポーツと経済
14	日本経済の過去、現状、未来
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】配布されたプリントを読むこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】プリント、ノート、および参考文献の指定箇所を読み復習すること。（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

毎回の課題(30%)と学期末レポート(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

経済学の基礎を理解すること。日本経済の基礎を理解すること。世界経済の基礎を理解すること。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定なし。

【推薦書】『スティグリッツ 入門経済学 第4版』東洋経済新報社

【参考図書】授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

経済や経営に関するニュースに関心を持ってください。

科目名	国際地域学入門		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHb210		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

『有』

#### 実務経験および科目との関連性

この授業で取り上げる地域構造、すなわちEU並びにASEANに関しては、EU域内への駐在経験と、両地域への長年にわたる貿易実務を通じた理解を基盤とした授業となっている。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

企業概論や企業経営入門で盛んに取り上げられる、企業の国際化あるいはグローバル化の基盤となる国際関係を学ぶ。

##### 科目の概要

第二次世界大戦後の国際協調の仕組みとしての国際連合と複雑化する地域構造の関係を学び、日本を取り巻く東アジアの主要国の現状を理解する。

授業の方法は、配布資料を基にした講義で行う。

##### 到達目標

国際連合の目指したものと、その限界を理解する事ができる。

現実的な社会・経済問題の解決主体として現れた地域構造を理解する事ができる。

東アジアの地域構造の中の日本と日本に影響を及ぼす主要国の現状を理解することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念 -2ビジネスと情報に関する実践方法

#### 内容

1	ガイダンス	国際地域学について
2		国際地域学の構造
3		国際社会の構造
4	国際社会の研究	グローバルガバナンス
5	国際社会の研究	国際的相互依存
6	国際社会の研究	経済開発と援助
7	東アジアの国際関係	戦争の影響
8	東アジアの国際関係	地域統合
9	東アジアの国際関係	経済発展

10	国別	政治と外交	中国
11	国別	政治と外交	中国
12	国別	政治と外交	韓国
13	国別	政治と外交	ロシア
14	国別	政治と外交	米国（アジア政策）
15	まとめ		

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】配布資料の熟読（45分）

【事後学修】配布資料と自分のノートの突き合わせによる知識の整理・確認（45分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への取り組み姿勢と期末筆記試験の合計で評価する。取り組み姿勢を40%、筆記試験を60%の配点として総合展60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無し 資料を授業にて配布する。

【推薦書】曾村保信 地政学入門 中公新書、猪口孝 監修 国際地域学の展開 赤石書店

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	企業経営入門		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHb211		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

総合商社にて国際取引、子会社運営（会社法上の株式会社運営）ガバナンスや諸規定管理を経験。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

企業概論で学んだ企業の外面からは見えにくい企業経営に関し、基本的な知識を押さえた上で現代企業経営特有の経営課題（コンプライアンス、CSR等）と企業の持続的発展を考え、企業関係の講義の纏めとなる。

##### 科目の概要

企業を経営するという事は、資金手当てから営業戦略、海外戦略、人事、ガバナンス、コンプライアンスと多方面に亘ります。これらを動かす株式会社の仕組みとそれを守るガバナンスまた企業の持続的発展を可能たらしめるコンプライアンスと社会的責任の重要性を実例を交えながら学ぶ。

##### 授業の方法 配布資料を使った講義形式

##### 到達目標

現代企業の形態の太宗を占める株式会社の成立・発展過程が理科できる。

企業の国際化及びグローバル経営とは何かを理解できる。

現代企業経営における特徴的な側面であるCSRについて、その成立の社会的な背景を理解できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念 -2ビジネスと情報に関する実践方法 -1情報収集・判断

内容	
1	ガイダンス
2	企業の種類、特に株式会社について。
3	株式会社の組織と仕組み。
4	株式会社の経営 戦略
5	株式会社の経営 決算、監査、株主総会
6	株式会社の経営 企業ガバナンス
7	株式会社の経営 コンプライアンス
8	株式会社の経営 経営戦略
9	株式会社の経営 経営の国際化
10	事例に学ぶ(オムロン) 企業ガバナンス
11	事例に学ぶ(味の素) コンプライアンス
12	事例に学ぶ(資生堂) コンプライアンス
13	事例に学ぶ (JR東) 社会貢献活動
14	総括
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書に事前に45分以上目を通しておくこと。

【事後学修】講義の配布資料と自分のノートを突き合わせ講義内容を確認する(45分)。

#### 評価方法および評価の基準

授業への取組姿勢40%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著 企業論 第3版 有斐閣アルマ

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	グローバルビジネス論		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング	KHb212		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### < 科目の性格 >

本科目は、生活情報学科のビジネス (経済・経営、産業・企業) に関連し、企業経営および企業のグローバル化に関する理論および実態の習得を基礎とし、実践的な意思決定能力と問題解決能力の獲得を目的とする。

##### < 科目の概要 >

企業のグローバル化が生じた理由および企業経営の変遷を概説し、グローバル社会で働く意義を理解させる。授業はケース・スタディ - で検証する方法を採る。具体的に解説することで就職で役立つよう導く。

##### < 授業の方法 (ALを含む) >

講義後半に小テストを実施して、個々の理解度の確認と補足説明を行う。【討議・討論】【ミニテスト】

##### 到達目標 >

- 1 世界のグローバル化の潮流および国際経営の必要性を理解する
- 2 企業社会でのグローバルな人材としてのセンスを身につけ、就職先決定へのヒントを得る
- 3 人間はなぜ働き、企業は成長しなければならないかを理解する
- 4 異文化経営の問題、とくに日本的経営の特徴について深く理解する
- 5 B0ビジネスを例にグローバル化による経済格差 (貧困層) の解決策を考える

## ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- 2 ビジネスと情報に関する実践方法
- 1 情報収集、判断

## 内容

授業は講義を基本に、事例を提示して質疑応答によりディスカッション方式をとり、問題解決能力を深めていく。

1	企業とは何か。経営とは何か。 -夢を実現させる方法- （事例：東京ディズニーリゾート）
2	経営学の誕生とその必要性 -経営学を学ぶ意味- （事例：ハーバード大学）
3	国際企業に至るまでのプロセスとその戦略 -日本発のコンビニ- （事例：セブンイレブン）
4	日本企業の国際化戦略1 -この世にないモノを創造する- （事例：ソニー）
5	日本企業の国際化戦略2 -人間はなぜ働くのか- （事例：ホンダ）
6	日本企業の国際化戦略3 -デザインが命- （事例：日産）
7	日本企業のグローバル戦略 -協働の強さ- （事例：トヨタ、富士通）
8	日本的経営の原理とその海外移転 -日本人はなぜコンパが好きなのか-
9	米国経営学の系譜 -人間はなぜサボるのか、そしてやる気を起こすには-
10	米国巨大企業のグローバル戦略 -No.1になるとなぜ得なのか- （事例：GE）
11	米国巨大グローバルIT企業の実態 -カリスマ経営者の夢- （事例：アップル）
12	起業経営とグローバル・ボーンカンパニー -会社を創る意義- （事例：HP、グーグル）
13	グローバルリーダーの条件 -家族の父親と母親、そして経営者、政治家に共通するものとは-
14	グローバル・サービス産業 -航空業界の将来、CAはどうなるの?- （事例：日本航空）
15	総括 グローバル格差社会とBOPビジネス -世界の貧困層をどう救うか-（住友化学）

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次週授業で講義する該当項目を経営書で確認する。（30分）経済記事（日本経済新聞）などを日々読む習慣をもつとともに疑問点をまとめておく。（15分）（計 45分）

【事後学修】授業内容を復習後、より深く理解するために推薦書などを参考に読む。同時に「将来の自分のキャリア形成」との関連で疑問点を準備し、まとめておく。（計 1時間）

## 評価方法および評価の基準

学修目標に関するレポート（40点）、質疑応答を含む討論への参加度および出席票裏に課す小テスト（60点）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑を解説し、学習理解を深めるようにする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤茂夫編、笠原伸一郎ほか著『経営入門 -よい経営の創り方、よい経営の学び方』（学文社）、笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』（中央経済社：電子版）

【推薦書】笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』（中央経済社）、江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（同文館出版）335.5/R 【参考図書】ジェフリー・ジョーンズ著『ビューティビジネス』（中央経済社）日経新聞、その他授業中に指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	起業論		
担当教員名	見吉 英彦		
ナンバリング	KHb213		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、人間生活学部 生活情報学科のビジネスコース専門科目であり、科目の難易度は「初中級レベル」である。

##### 科目の概要

起業における基本的な考え方、重要な理論やフレームワークと共に、企業のライフステージごとにおける重要な問題や課題についても総括的に学修する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、課題レポートや事例に基づいたディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行う。なお、教材や課題は、Live Campusで提示する。【グループワーク】【討議・討論】【ケースメソッド】

##### 到達目標

- 1: 起業論の基本概念や理論について説明することができる。
- 2: 自らが起業することを想定し、デザイン思考に基づいて課題を発見できる。
- 3: グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 1 情報収集、判断
- 1 興味・関心、主体性
- 3 課題発見

#### 内容

1	起業とは、起業家とは、企業家とは
2	起業家・企業家とイノベーション
3	起業家・企業家が果たす役割
4	企業のライフステージ
5	事業機会の認識と事業コンセプト
6	デザイン思考とは
7	リーン・スタートアップ

8	ビジネスモデルキャンバス
9	ケース分析(1) ビジネスモデルキャンバスを用いた分析【グループワーク】【ディスカッション】【ケースメソッド】
10	企業の成長期(1) M & A
11	企業の成長期(2) 強い組織とは
12	長寿企業の凄さとは
13	様々な起業家
14	エフェクチュエーション
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回【事前準備】授業計画で示された用語に関して各自で調べ、内容を整理しまとめておく。(60分)

【事後学修】Live Campusに提示した課題レポートを作成する。(60分)

2~14回【事前準備】該当する教科書の章、または参考資料を読み、内容を整理しまとめておく。(60分)

【事後学修】Live Campusに提示した課題レポートを作成する。(60分)

15回【事前準備】1~14回までに学んだ内容を復習し、理解できている点と理解できていない点を明らかにしておく。

(60分)

【事後学修】授業の総まとめの内容を、A4用紙2枚にまとめておく。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

1: 起業論の基本概念や理論について説明することができる。

(授業内ディスカッション: 5% レポート: 10% 筆記試験: 35%)

2: 自らが起業することを想定し、デザイン思考に基づいて課題を発見できる。

(授業内ディスカッション: 5% レポート: 15% 筆記試験: 10%)

3: グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

(授業内ディスカッション: 10% レポート: 5% 筆記試験: 5%)

評価の比率(授業内ディスカッション: 20% レポート: 30% 筆記試験: 50%)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『1からのアントレプレナーシップ』、山田幸三・江島由裕編著、碩学舎

授業では、教科書の内容を基にしたパワーポイントを使用する。レジュメは授業用フォルダに格納するので、各自プリントするか、ノートパソコンを授業時に持参すること。その他、参考資料などは、必要に応じて授業内で紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ファッションビジネス論		
担当教員名			
ナンバリング	KHb214		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

身近で関心の高いファッション分野について、ビジネスシステムの観点から把握していくことで、この構造問題を捉えていく。

#### 科目の概要

ファッションビジネスにおいては、多様な消費者のニーズに合わせた多品種少量生産の商品開発、それに伴う製造調整・流通在庫投資を厳しくコントロールしていくという、高度な需給整合システムが求められるようになっている。講義では、日本と欧米のファッションマーケットを比較分析し、ビジネスの最前線の事例研究などから、栄枯盛衰の激しいファッションブランドの戦略や製造メカニズムを把握する。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

流行という要素が非常に大きいファッション業界においての厳しいビジネスから、店舗経営の知識を獲得していく。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

ファッションやインテリア業界を目指す学生に、ビジネスの実例を製造工程から解説し、ディスカッション形式で学びを深めていく。

1	アパレル産業とは 授業の概略解説
2	商売の起源 流通業の歴史

3	繊維の表示と素材
4	日本の百貨店の仕入れ構造 百貨店の歴史と日本独自の委託取引
5	S P A と価格 流通構造と価格設定のメカニズム - ユニクロの事例
6	トレンドはなぜつくれるか 流行色のメカニズム
7	世界の巨大アパレル スウェーデン「H&M」スペイン「インディテックス」米国「GAP」
8	繊維産業の川上から川下構造 岡山県のジーンズ製造業の事例
9	流通構造の変化 ショッピングセンターと従来型小売業
10	ファーマルウェア業界 メンズ・レディースフォーマルアパレルとルール
11	ネット通販 ネット通販の急成長と今後
12	インテリア業界 インテリア・雑貨ショップとホームセンター
13	セレクトショップ 「こだわり」と「つながり」で消費者に訴える
14	これからのアパレル 新しいアパレル形態の潮流
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業計画に示された「学術用語」について、簡単に調べ、A4・1枚にまとめておくこと（各授業に対して30分）。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと（各授業に対して30分）。

#### 評価方法および評価の基準

期末試験70% 小テスト30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない 毎回プリント配布

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ビジネスと法律		
担当教員名	牧野 高志		
ナンバリング	KHb215		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性質

本科目は、教育課程における「ビジネスコース専門科目」の「経営・経済」に関する選択必修科目として位置づけられる。

#### 科目の概要

金融業・不動産業・各種販売サービス業などのビジネスの場面を想定し、関連する法律と問題解決法について学び、ビジネス社会を生きるための法的な教養を身につける。そのために、民法（債権、物権、担保物権）、消費者法、会社法、民事訴訟法の基礎的な知識を身に付ける。そして、その知識を前提として、ビジネスにおいて使用される契約書作成技術等も身に付ける。

#### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心に行い、そこで習得した知識を前提に契約書作成等も行う。【実技】【レポート (知識)】

#### 到達目標

ビジネスにおいて必要な法律知識を身に付け、それを説明することができる。また、実務における実践力も身に付け、それを表現することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 マネジメントの基礎知識の修得
- 1 興味・関心、主体性

#### 内容

この授業は講義を基本に、質疑応答の時間、フィードバックの時間を取り入れ、学びを深めてゆく。

#### ガイダンス

ビジネスにおける法律と契約書の役割

売買契約

契約書作成（売買契約書）【実技】

金銭消費貸借契約

契約書作成（金銭消費貸借契約書）【実技】

賃貸借契約

契約書作成（賃貸借契約書）【実技】

消費者契約法

景品表示法

特定商取引法

契約書作成（総合）【実技】【レポート(知識)】

会社法（株式会社）

民事紛争

総評

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業中に指示した資料の該当箇所を事前に読み、自分なりに内容を整理しておく。(各授業に対して2時間)

【事後学修】授業で扱った範囲や理解できなかった部分についての復習をする。(各授業に対して2時間)

#### 評価方法および評価の基準

法律知識習得については筆記試験(50%)、実務における実践力の表現については講義中指示する課題(30%)、授業態度等(20%)、とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

レジュメを配布する。

【参考図書】

講義において適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	国際ビジネスコミュニケーション		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング	KHb216		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### < 科目の性格 >

本科目は、生活情報学科のビジネス（経済・経営、産業・企業）に関連し、企業経営のグローバル化におけるコミュニケーションの実態と問題点を学び、そのコミュニケーション能力の獲得と問題解決能力を実践的に習得することを目的とする。

< 科目の概要 > 本講では、多数の事例をあげて、グローバルビジネスおよびグローバルコミュニケーションの基礎をわかりやすく解説する。とくにサービス・ホスピタリティー分野を中心に観光、航空業界を含む事例によってコミュニケーションビジネスの問題点とその方向性を検討し、就職に役立つよう導いていく。

##### < 授業の方法（ALを含む） >

講義後半に小テストを実施し、個々の理解度の確認と補足説明を行う。同時に質疑応答も行う。【討議・討論】【ミニテスト】

##### 到達目標 >

- 1 世界のグローバル化の潮流およびグローバルビジネスの必要性を理解することができる。
- 2 協働して働く意味と企業内でのコミュニケーションの問題を理解することができる。
- 3 異文化経営の問題、とくに国際コミュニケーションビジネスについて深く理解することができる。

## ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- 1 情報収集、判断
- 1 興味・関心、主体性

## 内容

授業は講義を基本に、事例を提示して質疑応答によりディスカッション方式をとり、問題解決能力を深めていく。

1	企業とは何か。経営とは何か。 -夢を実現させる方法- （事例：ディズニーランド）
2	経営学の系譜 -人間はなぜサボるのか、そしてやる気を起こすには-
3	経営学における人間関係 -職場でのいじめはなぜ起きる- （事例：日産自動車）
4	企業におけるコミュニケーション能力の意義 （事例：セブンイレブン）
5	異文化コミュニケーション -日本的経営の原理、日本人はなぜコンパが好きなのか-
6	異文化コミュニケーション -日本的経営の海外移転- （事例：トヨタ自動車）
7	異文化コミュニケーション -協働の強さ- （事例：富士通）
8	リーダーシップ -家族の父親と母親、そして経営者、政治家に共通するもの-
9	グローバルリーダー -No.1になるとなぜ得なのか- （事例：GE）
10	カリスマ的リーダーシップ -巨大グローバルIT企業の夢- （事例：アップル）
11	グローバルリーダーの条件 -人が喜ぶ方向に導く- （事例：ユニバーサルスタジオジャパン）
12	リーダーシップとコミュニケーション -人間はなぜ働くのか- （事例：ホンダ）
13	グローバル・サービスの将来 -航空業界の将来、CAはどうなるの?- （事例：日本航空）
14	グローバル格差社会とBOPビジネス -世界の貧困層をどう救うか-（住友化学、ユニクロ）
15	総括 国際ビジネスコミュニケーションとホスピタリティー

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次週授業で講義する該当項目を経営書で確認する。（30分）経済記事（日本経済新聞）などを日々読む習慣をもつとともに疑問点をまとめておく。（15分）（計 45分）

【事後学修】授業内容を復習後、より深く理解するために推薦書などを参考に読む。同時に「将来の自分のキャリア形成」との関連で疑問点を準備し、まとめておく。（計 1時間）

## 評価方法および評価の基準

学修目標に関するレポート（40点）、質疑応答を含む討論への参加度および出席票裏に課す小テスト（60点）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑を解説し、学習理解を深めるようにする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤茂夫編、笠原伸一郎ほか著『経営入門 -よい経営の創り方、よい経営の学び方』（学文社）、笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』（中央経済社：電子版）

【推薦書】笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』（中央経済社）、江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（同文館出版）335.5/R 【参考図書】ジェフリー・ジョーンズ著『ビューティビジネス』（中央経済社）日経新聞、その他授業中に指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ファイナンス入門		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHb317		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科専門科目であり、1, 2年次の講義を基礎に債券投資を中心に証券関する幅広い広い知識を習得する科目である。

##### 科目の概要

株取引や債券の売買などさまざまな金融商品を学習し、その上で、証券業界に関して幅広く経済について学習する。さらに、株式投資を行うために情報を得ることを目的として、会社情報の収集の方法と読み解き方を学習する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

講義を中心としつつ、一部課題を出して、グループごとに議論する。【グループワーク】【討議・討論】

##### 到達目標

1. 金融商品などの概念を理解することができる。
2. 会社情報の収集方法と内容を理解することができる。
3. 様々なリスク管理と企業との関係を理解することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      - 1 情報収集、判断      - 3 論理的思考

#### 内容

1. ガイダンス
2. ファイナンスと投資
3. ファイナンスと企業
4. ライフプランと資産形成
5. リスク管理と企業経営
6. 証券業界
7. 株式投資

- 8 . 債券投資
- 9 . デリバティブ取引
- 10 . オプション取引
- 11 . スワップ取引
- 12 . 企業研究 1 : 問題の発見
- 13 . 企業研究 2 : 解決方法の模索
- 14 . 企業研究 3 : 解決方法の提案
- 15 . まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】新聞などから企業情報を収集する。(各授業に対して45分)
- 【事後学修】授業で学んだ企業情報の収集方法を実践する。(各授業に対して45分)

#### 評価方法および評価の基準

平常点(10%)、毎回の課題(50%)、最終課題(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標として、次の3点を挙げる。1. 企業の財務分析ができる。2. 企業の問題点を把握できる。3. 企業の問題点に対する解決策を提案できる。

- 【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

世界のニュースと経済の関係に注目してほしい。

科目名	企業倫理		
担当教員名	見吉 英彦		
ナンバリング	KHb218		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、人間生活学部 生活情報学科のビジネスコース専門科目であり、科目の難易度は「初中級レベル」である。

##### 科目の概要

企業倫理・企業統治における基本的な考え方、重要な理論について、事例を用いて学修する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、課題レポートや事例に基づいたディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行う。なお、教材や課題は、Live Campusで提示する。【グループワーク】【討議・討論】

##### 到達目標

- 1: 企業倫理に関する基本概念について説明することができる。
- 2: これからの企業が遵守すべき基準や大事な考え方・姿勢は何かを、自らの言葉で説明できる。
- 3: グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- 2 ビジネスと情報に関する実践方法
- 3 課題発見

#### 内容

1	企業倫理とは、経営とは、ステークホルダーとは
2	企業制度の基本的なしくみ
3	資金調達の基本的なしくみ
4	コンプライアンス・コーポレートガバナンス
5	コーポレートガバナンス体制
6	企業の社会的責任 (CSR) ・企業の社会的応答
7	企業不祥事とは・企業不祥事の種類の

8	企業不祥事が発生する理由
9	消費者や社会の視点からみた企業倫理と不祥事例【グループワーク】【ディスカッション】
10	従業員の視点からみた企業倫理と不祥事例【グループワーク】【ディスカッション】
11	経営者の視点からみた企業倫理と不祥事例【グループワーク】【ディスカッション】
12	「誠意ある対応」とは何か【グループワーク】【ディスカッション】
13	企業不祥事からどのように立て直していくのか【グループワーク】【ディスカッション】
14	これから働く皆さんの視点からみた企業倫理【グループワーク】【ディスカッション】
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回【事前準備】授業計画で示された用語に関して各自で調べ、内容を整理しまとめておく。(60分)  
【事後学修】Live Campusに提示した課題レポートを作成する。(60分)
- 2～14回【事前準備】Live Campusに提示した講義資料や参考資料を読み、内容を整理しまとめておく。(60分)  
【事後学修】Live Campusに提示した課題レポートを作成する。(60分)
- 15回【事前準備】1～14回までに学んだ内容を復習し、理解できている点と理解できていない点を明らかにしておく。(60分)  
【事後学修】授業の総まとめの内容を、A4用紙2枚にまとめておく。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

- 1: 企業倫理に関する基本概念について説明することができる。  
(授業内ディスカッション: 5% レポート: 10% 筆記試験: 25%)
- 2: これからの企業が遵守すべき基準や大事な考え方・姿勢は何かを、自らの言葉で説明できる。  
(授業内ディスカッション: 15% レポート: 15% 筆記試験: 10%)
- 3: グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。  
(授業内ディスカッション: 10% レポート: 5% 筆記試験: 5%)

評価の比率(授業内ディスカッション: 30% レポート: 30% 筆記試験: 40%)

総合評価60点以上で合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の課題レポートや質問などについてコメントする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし。

授業では、パワーポイントを使用する。レジュメは授業用フォルダに格納するので、各自プリントするか、ノートパソコンを授業時に持参すること。その他、参考資料などは、必要に応じて授業内で紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHb219		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門科目であり、ビジネス経済学からさらに発展した科目である。

##### 科目の概要

インターネット上では様々な経済取引が拡大している。そこで、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げる。

##### 授業の方法

講義を中心とする。

##### 学修目標 (= 到達目標)

1. 電気通信産業の競争メカニズムについて理解することができる。
2. 世界のIT企業のビジネスモデルについて理解することができる。
3. ネット上での様々なリスクについて理解することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 1 「ビジネスと情報に関する基本的理論・概念」

- 2 「ビジネスと情報に関する実践方法」

- 3 「課題発見」

内容	
1	ガイダンス
2	インターネットの歴史としくみ
3	情報通信産業の規制緩和と競争
4	スマートフォン
5	インターネットと広告
6	SNSと無料通話アプリ
7	デジタル広告
8	インターネットと政治
9	ビッグデータとビジネス
10	ポイントサービスとマーケティング
11	インターネットのショッピングサイト
12	決済手段とインターネット
13	インターネットとセキュリティ
14	インターネットと法律
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次週取り上げるテーマの確認と事前に調べる。（各授業に対して45分）

【事後学修】プリントやサイトで確認。（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

平常点（10%）、毎回の課題（30%）、最終レポート（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】特にしていない。

【参考図書】授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ITの変化は激しいので、新しい動きについていくようにしましょう。

科目名	経営戦略論		
担当教員名	見吉 英彦		
ナンバリング	KHb301		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、人間生活学部 生活情報学科のビジネスコース専門科目であり、科目の難易度は「中級レベル・応用」となります。

##### 科目の概要

経営戦略における基本的な考え方、重要な理論やフレームワークについて学修すると共に、フレームワークを用いたグループワークを行う。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、課題レポートや事例に基づいたディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行う。なお、教材や課題は、Live Campusで提示する。【グループワーク】【討議・討論】【ケースメソッド】

##### 到達目標

- 1: 経営戦略論の基本概念について説明することができる。
- 2: 経営戦略の策定に用いるフレームワークについて理解し、それらを用いて分析することができる。
- 3: グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法      - 1 情報収集、判断      - 3 課題発見

#### 内容

この講義は講義を基本とし、グループワーク、ディスカッション、ケースメソッドを取り入れながら、学びを深めていく。

1	経営戦略とは (戦略の定義、戦略の要素)
2	外部環境と内部環境 (PEST分析、3C/4C分析、SWOT分析)
3	業界構造分析 (業界構造と利益率、5フォース分析)
4	3つの基本戦略 (コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中化戦略)
5	ケース分析 - 業界構造分析【グループワーク】【ディスカッション】【ケースメソッド】

6	製品ライフサイクル別戦略（導入期、成長期、成熟期、衰退期の戦略）
7	市場地位別戦略（リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの戦略）
8	リソース・ベースド・ビュー（VRIO分析、コア・コンピタンス）
9	ビジネスシステムの重要性（ビジネスモデルとビジネスシステム）
10	ケース分析 - ビジネスシステム分析【グループワーク】【ディスカッション】【ケースメソッド】
11	事業領域（ドメインとは、ドメイン設定の意義）
12	多角化と資源展開（多角化とシナジー効果、PPMの枠組みと戦略的意義）
13	イノベーション戦略（イノベーションとは、オープン・イノベーション）
14	ケース分析 - 経営者の意思決定【グループワーク】【ディスカッション】【ケースメソッド】
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回【事前準備】授業計画で示された用語に関して各自で調べ、内容を整理しまとめておく。（60分）

【事後学修】Live Campusに提示した課題レポートを作成する。（60分）

2～14回【事前準備】該当する教科書の章、または参考資料を読み、内容を整理しまとめておく。（60分）

【事後学修】Live Campusに提示した課題レポートを作成する。（60分）

15回【事前準備】1～14回までに学んだ内容を復習し、理解できている点と理解できていない点を赤らかにしておく。（60分）

【事後学修】授業の総まとめの内容を、A4用紙2枚にまとめておく。（60分）

#### 評価方法および評価の基準

1：経営戦略論の基本概念について説明することができる。

（授業内ディスカッション：5% レポート：10% 筆記試験：30%）

2：経営戦略の策定に用いるフレームワークについて理解し、それらを用いて分析することができる。

（授業内ディスカッション：10% レポート：15% 筆記試験：5%）

3：グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

（授業内ディスカッション：15% レポート：5% 筆記試験：5%）

評価の比率（授業内ディスカッション：30% レポート：30% 筆記試験：40%）

総合評価60点以上で合格とする。

【フィードバック】毎回の授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学修の理解を深められるようにする。また、課題レポートに関しては、次回以降の授業時にフィードバックを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『1からの戦略論（第二版）』、嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著、碩学舎

授業では、教科書の内容を基にしたパワーポイントを使用する。レジュメは授業用フォルダに格納するので、各自プリントするか、ノートパソコンを授業時に持参すること。その他、参考資料などは、必要に応じて授業内で紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	現代ビジネス論		
担当教員名	中山 成夫、松本 晃子		
ナンバリング	KHb302		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

題材としている企業への勤務歴40年あり、トレーディングビジネス、事業投資双方に従事してきた実績がある。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

企業の成り立ちから経営までを企業概論、企業経営入門で学ぶが、現代の企業の実態をとおして現代企業がどの様に巨大化し、国際化しているのかを学ぶ。いわば企業論の集大成となる。

グローバル化・AI/IoTによる自動化が齎す大きな社会変革の中で、現代企業はどの様に変化に対応しようとしているのか。実例として、三菱商事株式会社とその複数のグループ企業を例にとり連結経営、グループ経営と言う企業経営の先端を学ぶ。

##### 科目の概要

三菱商事株式会社とそのグループ企業を基に、幅広い分野に事業展開する商社の特性を活かした連結経営実情を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）スライドおよび資料を使い、企業の事業投資を通じた活動を講義と質疑を通じて行う。

##### 到達目標

日本を取り巻く経済環境が厳しくなる中で1980年代以降、日本の企業が長い時間を掛けて築いてきた日本式経営が変化を余儀なくされ、欧米的な、M&A或いは事業投資による成長拡大戦略に移って行った産業界の推移が理解できる。欧米的なM&Aによる成長を取り込む結果、日本の企業も特定の業界だけに所属していることは少なく、様々な分野に進出し複合経営となっていること理解できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-2ビジネスと情報に関する実践方法 -1情報収集・判断 -1興味・関心・主体性

#### 内容

1	導入 総合商社とは何か 総論
2	三菱商事の概要
3	連結決算、連結経営とは？グループ経営のイメージ
4	三菱商事の目指す企業像と組織体制
5	価値創造の軌跡 「事業投資」から「事業経営」へのシフト
6	事業展開とそのバリューチェーンの実例 K F C
7	業界別 トレーディングビジネスからバリューチェーン事業投資、そして事業経営へ 金属資源
8	天然ガス
9	電力事業
10	ヘルスケア事業
11	パッケージング事業と環境問題1
12	パッケージング事業と環境問題2
13	三菱商事のサステナビリティ施策と社会貢献
14	総括講義
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】配布資料見直しによる知識の確認（45分）

【事後学修】講義内容とキーワードの整理（45分）

#### 評価方法および評価の基準

授業参加度並びに試験にて行う。参加度が40%試験が60%の割合。

【フィードバック】筆記試験終了の1週間後以降に個々人に対して結果を個別面談乃至メールで行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業毎に配られる資料を使う。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活と情報		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHc220		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科ビジネスコース専門科目の1年次後期配当の選択科目である。「生活」領域の科目の中でも、2年次および3年次配当科目にむけた入門編である。

##### 科目の概要

情報化社会においては、膨大な統計資料の中から必要な情報を選択する能力をもたないと、過剰な情報に振り回される危険がある。客観性・信頼性が高く、ビジネス調査の用途でも有用な体系的に整備された大規模調査や定期的に行われている時系列データを使って、生活の実態をテーマ毎に確認する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

毎時間、【リアクションペーパー】を提出してもらい、次週にフィードバックする。

##### 到達目標

新聞・雑誌やインターネットなど身近なメディアをはじめ白書や統計書に掲載されている官庁統計や民間統計のオリジナルデータを探ることができる。官庁統計や民間統計でどのようなテーマの実態調査・世論調査が行われているのか理解し、説明することができる。統計情報データを使って、生活の実態を客観的に考察することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3論理的思考

#### 内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーを使って学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	人口減少社会
3	高齢社会
4	ジェンダー
5	グローバリゼーション

6	情報化社会
7	食料・農業・農村
8	労働と賃金
9	余暇・レジャー
10	消費生活
11	都市化・郊外化
12	子どもと若者
13	象徴天皇制
14	エネルギーと環境
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ネットワークの授業用フォルダにある新聞記事に目を通しておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業で取り上げた新聞記事に関連する社会調査統計を調べ、学期末のレポート提出に備える（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

新聞・雑誌やインターネットなど身近なメディアをはじめ白書や統計書に掲載されている官庁統計や民間統計のオリジナルデータを探ることができる（平常点20%、レポート10%）。官庁統計や民間統計でどのようなテーマの実態調査・世論調査が行われているのか理解し、説明することができる（平常点20%、レポート15%）。統計情報データを使って、生活の実態を客観的に考察することができる（平常点20%、レポート15%）。平常点60%、レポート40%で、総合評価60 / 100点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。学内ネットワークの授業用フォルダに資料を格納し、あわせて、授業時に印刷して配布する。

【参考図書】内閣府、経済産業省、農林水産省、国土交通省、厚生労働省、消費者庁、文部科学省、環境省などの白書および官庁統計・世論調査、主要な民間統計など授業時に紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学期末のレポート課題は、Live Campusの授業連絡を利用する。ポータル・サイトを使って期限までに提出すること。

科目名	生活と民法		
担当教員名	牧野 高志		
ナンバリング	KHc221		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は、教育課程における「ビジネスコース専門科目」の「生活」に関する選択必修科目として位置づけられる。

#### 科目の概要

民法は社会生活上の多くの場面で関わってくる法律である。特にビジネスの世界では多くの契約が交わされるが、その契約において民法が大きな役割を果たす。この講義では、民法全体の基本ルールである民法総則を説明した後、民法の典型契約である売買、賃貸借などを裁判例や時事問題 (例えば、ペットビジネスにおけるペットの病気) を取り上げながら講義を行う。また、不法行為制度、民法の特別法である「消費者契約法」や家族法 (親族・相続) についても触れていく。

#### 授業の方法 (ALを含む)

本科目は、講義による解説を中心に行い、具体的事例を用いながら、ディスカッション等を取り入れた授業を行う。【レポート】【討議・討論】【グループワーク】【リアクションペーパー】

#### 到達目標

民法の基本的知識の習得しそれを説明することができる。また、未知なる分野に対する論理力や思考力を習得し、その解決に向けた取り組みを実施することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念

#### 内容

この授業は講義を基本に、講義内におけるレポート作成、グループディスカッションや質疑応答などを取り入れ、学習していく。

1	ガイダンス (民法とは)
2	契約の主体 (権利能力、意思能力、行為能力)
3	契約の客体 (物)
4	意思表示 (心裡留保、虚偽表示)
5	意思表示 (錯誤、詐欺・脅迫)

6	時効
7	所有権
8	売買契約（売買契約総論）
9	売買契約（売買契約における諸問題）
10	賃貸借契約
11	その他の典型契約（贈与、消費貸借、使用貸借、雇用）
12	消費者契約法
13	不法行為
14	親族・相続
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に指示した資料の該当箇所を事前に読み、自分なりに内容を整理しておく。(各授業に対して2時間)

【事後学修】授業で扱った範囲と理解できなかった部分の復習をする。(各授業に対して2時間)

#### 評価方法および評価の基準

基本的知識の習得及び説明についてはペーパーテスト(60%)、未知なる分野に対する論理力・思考力を使った取り組みについてはレポート作成・ディスカッション(20%)、受講態度等(20%)、とし、総合評価60点以上を合格とする。  
【フィードバック】レポート作成・ディスカッション後に講評を行う。また質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

講義においてレジユメを配布する。

##### 【参考書】

- ・野村豊弘『民事法入門〔第5版補訂版〕』(有斐閣アルマ)
- ・『ポケット六法』(有斐閣) その他の六法でも可

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	年金と保険		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHc222		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は「家庭経営」に関連するものである。生活情報学科のディプロマポリシーにおいて、特に「1. 実社会において自ら考え、状況に応じて対応することができる知識・能力を獲得する」「3. 社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける」という2点がこの科目の性格である。

##### 科目の概要

ライフプランニング全般、公的年金・社会保険、生命保険・損害保険、相続・贈与に関する知識を整理する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義を中心とする。一部、グループワークを取り入れる。【グループワーク】【討議・討論】

##### 到達目標

- ・ 公的年金保険制度、公的健康保険制度についての知識を身につける。
- ・ FP技能士試験の試験範囲について、基礎的な知識を身につける。
- ・ 生命保険会社などの業務などについて理解する。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

##### 知識・技能

- 1 生活情報学科の主な領域(ビジネスと情報)に関する基本的な理論や概念を理解できる。
- 2 生活情報学科の主な領域(ビジネスと情報)に関する実践的な方法を習得できる。

##### 思考力・判断力・表現力

- 1 実社会における問題に対し正確に情報を集め、判断できる能力を身につける。

#### 内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、理解を深めていく。

さらに、レポートにおいて、公的年金の年金額の計算や保障の設計など、ファイナンシャル・プランナーの実務を学び、実

実践的な知識を習得する。

1	イントロダクション
2	ライフプランニング概説
3	社会保険制度（健康保険・雇用保険・労災保険）
4	公的年金1（概要・老齢給付）
5	公的年金2（障害・遺族給付）
6	その他の年金制度
7	生命保険商品
8	生命保険約款
9	損害保険
10	保険の税金
11	贈与と税金
12	相続の法律
13	相続税と生命保険
14	まとめ
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの該当箇所を読んでおく。各回の講義の中心となる制度・保険商品等について、レポート用紙1枚にまとめる。なおテーマについては前の回の授業で指示する。（所要時間約45分）

【事後学修】テキストの該当箇所の復習を行う。授業で取り扱った制度・保険商品等の内容に関する理解を深めるため、制度や保険商品をどのように活用するかについてまとめる。（所要時間約45分）

#### 評価方法および評価の基準

中間テスト30%、学期末テスト70%とし、総合評価60点以上を合格とする。1．公的年金保険制度について理解できる。2．公的健康保険制度について理解できる。3．FP技能士試験3級レベルの知識を身につけることができる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

復習をしっかりと行い、FP技能士試験に取り組んでください。



科目名	消費生活と法律		
担当教員名			
ナンバリング	KHc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

本科目は、教育課程編成・実施方針における「ビジネスコース専門科目」の「生活」に関する選択必修科目として位置づけられる。

#### 科目の概要

私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。そこで、消費者トラブルの発生しやすい場面や現代的な課題を取り扱い、紛争解決の仕組みを検証する。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、賢い消費者としての必要な知識を身につけ、消費者トラブルと法の機能と限界について説明できるようにする。また、知識取得のみならず、消費者問題に関連する新聞記事などを利用し文章読解能力・文章表現力を身につけ、また事例を検討することにより論理的思考力や課題解決力の養成も目指す。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本に、実際に起きた事件を題材に学生自身が考察・分析する時間、質疑応答の時間、フィードバックの時間を取り入れ、学びを深めてゆく。

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【総論】特定商取引法 マルチ商法・継続的役務提供
5	【各論】未成年者と消費者問題
6	【各論】情報化社会と消費者問題

7	【各論】高齢化社会と消費者問題
8	【各論】信用取引と消費者問題（前編）
9	【各論】信用取引と消費者問題（後編）
10	【各論】利息制限法と貸金業法
11	【各論】破産制度の概要 自己破産と消費者
12	【各論】保証制度・担保と不動産
13	【各論】金融商品と消費者問題
14	【紛争解決と消費者】消費者トラブルの解決の仕組み
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする。(30分程度)

【事後学修】学んだことを踏まえ、消費者と法の課題について意見をまとめる。(60分程度)

#### 評価方法および評価の基準

提出物・授業態度(40%)、ペーパーテスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】フィードバックシートの記入後の授業では、質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活経済		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHc224		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本講義は、生活情報学科専門科目である。年金や税制、金融資産運用について学習する。

##### 科目の概要

生活・家計・消費を「再生産の領域としてとらえ、それらの構造や問題を明らかにする。衣食住を中心とした生活環境の変化から持続可能な消費生活を考察し、自己責任時代のライフプランを作成していく。

##### 授業の方法

ライフプラン表の作成やレポートなどで講義で得た知識の定着を確認する。【討議・討論】【レポート】

##### 到達目標

短期と長期の時間管理と金銭管理を考察できる。 ライフプラン表を作成できる。自立した生活目標を立案することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

「 -3の理論的思考」「 -3課題発見」

#### 内容

前半は講義形式。後半は実際のライフプランを作成し、ディスカッションを行っていく。

1	イントロダクション
2	家計調査からみた現代日本人の生活
3	家計の変遷 家族の変化と家計
4	ライフプランニングと資金計画 - ライフプランとは
5	ライフプランニングと資金計画 - ライフプラン表の作成
6	クレジットカード
7	住宅ローンの考え方
8	金融資産運用
9	銀行業務
10	税制のしくみ

11	不動産取引
12	ライフプランと金融資産設計
13	相続と事業継承
14	シャッシュレス社会
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】授業計画に示された「学術用語」について、簡単に調べ、A4・1枚にまとめておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

・短期と長期の時間管理と金銭管理を考察できる。レポート20点平常点20点 ・ライフプラン表を作成できる。レポート20点平常点10点、  
 ・自立した生活目標を立案することができる。レポート20%、平常点10%

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。

【推薦書】授業で紹介します。

【参考図書】授業で紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	<b>金融資産運用と税制</b>		
担当教員名	深澤 泉		
ナンバリング	KHc225		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

1級ファイナンシャル・プランニング技能士・CFP認定者として、25年にわたってファイナンシャル・プランニングに関する相談業務を行ってきた経験を持つ教員が担当し、金融資産運用や税制に関するプランニングのポイント、特に実生活で役立てる方法についてレポートやグループ討議で指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目はビジネスコース専門科目の生活に関連する選択科目である。特に金融商品や各種制度を活用した資産運用の方法や各種税制に関する理解を深め、FPビジネスとして顧客を想定した長期的な生活設計を行うための基本を学修する。繰り返し受講する場合、テキストの内容が異なっているので注意すること。

##### 科目の概要

金融資産の運用を行うための基本的な知識と金融商品の内容、所得税・不動産税制に関する知識を整理する。また、レポートの作成・グループ討議を通じて知識を深め、論理的に表現する機会を作る。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義により基本的な知識を解説する。それをもとにレポートを作成して理解を深める。適宜グループ討議を行い、論理的に表現する機会を作る。【グループワーク】【討議・討論】【レポート】

##### 到達目標

1. 金融資産の運用における収益の計算方法を理解し、長期の運用による運用収益非課税・複利効果について計算することができる。
2. 各種金融商品や所得税のしくみを研究し、説明することができる。
3. 給与・不動産に関する所得税の計算方法を理解し、具体的な事例に当てはめて計算することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

- 1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- 2ビジネスと情報に関する実践方法
- 1情報収集、判断

この授業は講義を基本に、グループ討議を取り入れながら、理解を深めていく。

さらに、レポートにおいて税額の計算やファイナンシャル・プランナーの実務を学び、実践的な知識を習得する。

1	イントロダクション
2	金融マーケット環境
3	貯蓄型金融商品・債券【レポート（知識）】
4	投資型金融商品1・株式
5	投資型金融商品2・投資信託
6	確定拠出年金【討議】
7	金融商品のセーフティネットと税金
8	不動産の取引・法令上の制限【討議】
9	不動産の税制【レポート（知識）】
10	所得税の基礎
11	各種所得の内容
12	損益通算・繰越控除と所得控除
13	所得税の計算・住民税【レポート（知識）】
14	まとめ
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回 【事前準備】就職してから老後生活に入るまでの職業生活・家族構成の変遷・住宅取得・子供の教育プランなどをイメージしておく。[60分]

【事後学習】授業時のポイント解説をA4用紙1枚にまとめる。[60分]

2回～13回 【事前準備】テキストの該当箇所を読んでおく。各回の講義の中心となる税制等の概要についてレポート用紙1枚にまとめる。[60分]

【事後学習】テキストの該当箇所の復習を行なう。授業で取り扱った税制等の内容に関する理解を深めるため、計算方法の実例や制度の活用方法などについてA4用紙1枚にまとめる。[60分]

14・15回 【事前準備】13回までテキストで触れた箇所を総まとめしておく。[90分]

【事後学習】授業中の総まとめの内容をA4用紙2枚以内にまとめる[90分]

#### 評価方法および評価の基準

評価の方法は、レポート（30%）、筆記試験（60%）、平常点（10%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. レポート（10%/30%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標2. レポート（10%/30%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標3. レポート（10%/30%）、筆記試験（20%/60%）

【フィードバック】提出された課題については、翌週以降の授業内で解答例を示して解説し、返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「'19～'20年版 最短合格3級FP技能士」（きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著、株式会社きんざい刊）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は、再試験を行う。実施方法についてはLive Campusの授業連絡にて周知する。

科目名	暮らしの税金		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHc226		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

この授業はビジネスパーソンにとって必要不可欠な税金の基礎を学修する科目である。

科目の概要：

法人税や所得税にとどまらず、消費税や不動産等に関する税金まで、ビジネス全般にかかわる税金を幅広く学修する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

本科目では、ビジネス社会における税務実務の基礎知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーションと税務トピックス
2	暮らしの税金
3	サラリーマンが身につけておきたい税金知識
4	所得税の基礎知識
5	給与所得とは
6	所得税額の計算と確定申告
7	寄付金等の所得控除について
8	自営業者が知っておくべき税金知識
9	自営業者の確定申告
10	会社経営に必須の税金知識
11	会社に関連する税金
12	会社の利益と所得の関係
13	交際費課税等

14	金融資産の運用、保険・年金と税金の関係
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義で指示された箇所は必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】その日のうちにノートをもう一度読み返すこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

学修目標に関するレポート等（20%）、学修目標に基づく筆記形式のテスト（60%）、通常の授業態度等（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】財団法人納税協会連合会『マンガと図解 新くらしの税金百科』清文社

【推薦書】木山泰嗣著『教養としての所得税法入門』日本実業出版社

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	不動産と相続		
担当教員名	牧野 高志		
ナンバリング	KHc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は、教育課程における「ビジネスコース専門科目」の「生活」に関する選択科目として位置づけられる。ビジネスパーソンに必要な不動産・相続に関する法制度・仕組みの基礎を学ぶ科目

#### 科目の概要

相続の場面では、その財産として不動産が含まれていることが多々ある。この講義では、まず不動産に関する民法や不動産登記法に関する知識を様々な事例や裁判例を通して学び、次にその相続について学んでいく。

#### 授業の方法 (ALを含む)

本科目は、講義による解説を中心に行い、具体的事例を用いながら、ディスカッション等を取り入れた授業を行う。【グループワーク】

#### 到達目標

民法を中心とした不動産や相続の基本的知識を身に付け、それを説明することができる。また、不動産を中心とした相続における適切な処理能力も身に付け実施することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念

#### 内容

この授業は講義を基本に、質疑応答やフィードバックの時間を取り入れ、学びを深めてゆく。

1	ガイダンス (不動産・相続とは)
2	不動産の所有権
3	不動産の登記と対抗問題
4	不動産の用益物権
5	不動産の売買契約
6	不動産の賃貸借契約

7	不動産の請負契約
8	不動産の担保
9	不動産に関する税
10	相続の意義
11	法定相続と遺言相続
12	相続人と相続分
13	遺産分割
14	遺留分
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業中に指示した資料の該当箇所を事前に読み、自分なりに内容を整理しておく。(各授業に対して2時間)

【事後学修】授業で扱った範囲や理解できなかった部分についての復習をする。(各授業に対して2時間)

#### 評価方法および評価の基準

基本的知識の習得・説明及び適切な処理能力の実施についてペーパーテスト(80%)、授業態度・フィードバックシート等(20%)、とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック等】フィードバックシートの実施後は、質疑に返答し、講評を行い、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

レジュメを配布する。

##### 【参考図書】

講義において適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ライフスタイル論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHc228		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科ビジネスコース専門科目「生活」3年次前期配当の選択科目である。

##### 科目の概要

ライフスタイルとは生活財に対する個人の選好パターンである。ポスト産業社会においては、私たちの価値観や行動様式は固定的なものから選択可能なものへと変わり、その結果、ライフスタイルの概念が積極的の意味を持つようになった。しかし、だからといって私たちは、社会構造から完全に自由になったわけではない。本科目では、私たち生活者を取りまく生活諸条件を構造的に捉え、生活関連の調査データを使って、生活選好と社会構造とのせめぎあいに接近する。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では、ライフスタイルの変化について、地域社会をめぐる諸課題から把握する。近代化・産業化・都市化によって地域社会は、伝統的なコミュニティが卓越する社会から、アソシエーションが卓越する社会へと変貌した。しかし、現代社会においてコミュニティ機能の重要性は増している。持続可能な地域コミュニティにむけたライフスタイルについて考察する。

毎時間、【リアクションペーパー】を提出してもらい、次週にフィードバックする。

##### 到達目標

生活者（個人や家族）の主体性に着目し、生活者の生活状況から社会構造を捉え直す、ライフスタイル論の視角を習得し、説明できる。官庁統計や社会調査データから、生活者を取りまく生活諸条件と生活者の選好パターンの関連について、分析・評価したことを文章で表現できる。生活者を取りまく生活諸条件を構造的に捉え、生活関連の調査データを使って、生活選好と社会構造のせめぎあいについて、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1情報収集、判断、 -3課題発見

#### 内容

パワーポイントを使った講義を基本に、リアクションペーパーを使って学びを深めていく。

1	コミュニティとアソシエーション
2	都市と農村（1）国土開発
3	都市と農村（2）市町村合併
4	都市と農村（3）過疎と過密
5	都市化・郊外化
6	住みやすい都市ランキング
7	地域格差
8	都市農村交流
9	自治会・町内会
10	地域福祉とボランティア
11	コミュニティと多文化共生
12	コモンズとまちづくり
13	環境保全と地域コミュニティ
14	防災と地域コミュニティ
15	持続可能な地域コミュニティにむけたライフスタイル

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダにあるプレゼン資料のリンク先URLをチェックする（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業時に紹介された事例をもとに、自分の生活領域での事例を調べ、期末レポートに備える（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

生活者（個人や家族）の主体性に着目し、生活者の生活状況から社会構造を捉え直す、ライフスタイル論の視角を習得し、説明できる（平常点15%、レポート15%）。官庁統計や社会調査データから、生活者をとりまく生活諸条件と生活者の選好パターンの関連について、分析・評価したことを文章で表現できる（平常点15%、レポート20%）。生活者をとりまく生活諸条件を構造的に捉え、生活関連の調査データを使って、生活選好と社会構造のせめぎあいについて、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる（平常点15%、レポート20%）。以上、平常点45%、レポート55%として、総合評価60/100点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。学内ネットワークの授業用フォルダに入れた資料を使う。

【推薦書】堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著（2008）『地方からの社会学』学文社。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学期末のレポート課題は、Live Campusの授業連絡を利用する。ポータル・サイトを使って期限までに提出すること。

科目名	ライフコースと生活設計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHc229		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

ビジネスコース専門科目「生活」の3年次配当選択科目である。

##### 科目の概要

家族という小集団は、男女が結婚することで形成され、子どもの出生と成長によって拡大する。しかし、子どもが成人して自身の家族を形成するにしたがって縮小し、やがてはもとの夫婦二人になるという生活周期をもっている。家族にはこうした周期現象がみられることから、より長いスパンでの生活設計という考えが生まれた。ところが、個人の生き方が多様化するなかで、家族の生活周期と個人のライフコースとはどのように交錯しているのか、時代や世代によってどう変化したのかといった考察が必要になってきた。本科目では、女性の自立とライフコースの選択、格差社会の進展にともなうライフコースの移行の遅れといった今日的な課題について、論理的に考察する。

##### 授業の方法（ALを含む）

ワークシートを使った双方向性の授業である。

##### 到達目標

家族周期やライフコースという家族の発達アプローチについての基本知識を習得し、説明できる。 ライフコース分析の手法を使って、より長いスパンから人生のあり方を読み解くことができる。 ライフコースの世代変化から、これからの生活設計について、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1情報収集、判断、
- 3課題発見

#### 内容

講義形式だが、ワークシートを使った双方向性の授業である。

1	ライフサイクルとは
2	ライフコースとは
3	ライフコース研究の古典（1）G.H.エルダー『大恐慌の子どもたち』

4	ライフコース研究の古典(2) T.K.ハレーブン『家族時間と産業時間』
5	ライフコース研究の古典(3) D.W. プラス『日本人の生き方』
6	日本におけるライフコース研究の古典(1) 森岡他『現代日本人のライフコース』
7	日本におけるライフコース研究の古典(2) 森岡清美『決死の世代と遺書』
8	ライフコースのステージ移行(1) 成人への移行の遅れ
9	ライフコースのステージ移行(2) 格差社会の登場
10	結婚と出産の世代変化(1) 未婚・晩婚化
11	結婚と出産の世代変化(2) 少子化・晩産化
12	女性のライフコース(1) 女性のライフコース・パターン
13	女性のライフコース(2) ライフコース・マーケティング
14	多様化する高齢期
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダにあるワークシートを印刷し、予習しておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】返却されたワークシートのコメントについて確認し、復習ノートを作成しておく(各授業に対して(45分))。

#### 評価方法および評価の基準

家族周期やライフコースという家族の発達アプローチについての基本知識を習得し、説明できる(平常点15%、テスト15%)。 ライフコース分析の手法を使って、より長いスパンから人生のあり方を読み解くことができる(平常点20%、テスト20%)。 ライフコースの世代変化から、これからの生活設計について、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる(平常点15%、テスト15%)。以上、平常点50%、テスト50%として、総合評価60/100点以上を合格とする。提出したワークシートは、次週にフィードバックする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。学内ネットワークの授業用フォルダにワークシートにして資料を保存しておく。

#### 【参考図書】

森岡清美(2005)『発展する家族社会学』有斐閣。

青木 幸弘&女性のライフコース研究会編(2008)『ライフコース・マーケティング』日本経済新聞出版社。

森岡清美(2012)『「無縁社会」に高齢期を生きる』アークスの森新書。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学内ネットワークの授業用フォルダにあるワークシートを各自印刷して授業に持ってきてください。Live Campu sの授業連絡で、学期末試験の方法について連絡します。

科目名	マーケティング論		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHd230		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

バイヤー及びメーカーでのマーケティング業務に携わった教員が担当し、理論だけでなくマーケティングの実践を取り入れながら指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

#### 科目の性格

生活情報学科ビジネスコースの必修科目

変化の激しい現代ビジネスを考える上では、マーケティングは欠くことのできないものとなっている。ビジネス情報をマーケティング理論を踏まえて捉える力の基礎を修得する。

#### 科目の概要

マーケティングとは、市場と企業や組織とのかかわりを考察する考え方や接近法であり、そしてその仕掛け作りである。前半ではマーケティングの重要要素をケーススタディを通して記述していく。後半からは最新のマーケティング展開と社会的役割までを解説。

#### 授業の方法

前半は講義形式で、後半にレポートでの振り返りを取り入れていく。【レポート】【討議・討論】

#### 到達目標

- a. マーケティングの基礎理論および現象について理解できる。 b. 実践的・具体的にマーケティングについて考察できる。 c. 世の中の現象を把握し、問題点を見つけることができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシー「 -2 ビジネスと情報に関する実践方法」「 -1情報収集、判断」「 -1興味・関心、主体性」の資質・能力を育成することを目的とする。

#### 内容

この授業は1年生前期の授業であることから、大学の授業に慣れるためにも講義形式から始め、後半からディスカッションを取り入れて学習を深めていく。

1	マーケティングの基礎概念 - SellingとMarketingの違い
2	マーケティングの発展 - マーケティングの歴史
3	製品開発 - 製品開発の流れと成功率
4	価格のマネジメント
5	消費者行動の理解とマーケティングリサーチ
6	コミュニケーション戦略 - 広告と販売促進
7	市場の細分化とターゲティング
8	製品戦略
9	市場戦略と競争対応 - SWOT分析
10	競争戦略 - 事例研究
11	競争戦略 - 競争要因と戦略
12	ブランド・マネジメント
13	マーケティング環境
14	サービス・マーケティング - 顧客満足度
15	まとめ マーケティングの社会的役割

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業計画に示された「学術用語」について、簡単に調べA4用紙一枚にまとめておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

a. マーケティングの基礎理論および現象について理解できる。レポート20% 平常点20% b. 実践的・具体的にマーケティングについて考察できる。レポート10%、平常点10% c. 世の中の現象を把握し、問題点を見つけることができる。レポート20% 平常点10%

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。毎回必要なプリントを配布。

【推薦書】石井淳蔵、廣田章光著『1からのマーケティング』中央経済社

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

基礎的な用語を理解しておくこと。



科目名	メディアデザイン		
担当教員名	村田 幸一		
ナンバリング	KHd331		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

デザインというクリエイティブ作業はより良いコミュニケーションのためにあることをきちんと認識できるような講義内容とします。どんなメディアに関わらず、デザインというプロセスを経たものは、「コミュニケーション」の現出を意図するものであることを、「広告」を中心に実際の事例を検証しながら理解を深めていきます。

#### 科目の概要

効果的なコミュニケーション創造のためにどんな視点が必要かを、広告事例を通して分かりやすく解説していきます。

#### 授業の方法

広告事例を紹介しながらの講義形式が中心ですが、途中、数回のグループ作業を行います。(5、6人のグループで、課題についての意見交換、討議を経て回答をまとめ、グループ発のプレゼンテーションまでを行います)

#### 到達目標

デザイン構築のプロセスは、より良いコミュニケーションを実現するためのものであることを理解できるようになること。コミュニケーション能力は、社会生活のうえで欠かすことのできない「人間力」となることを確信できるようになること。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 問題解決への活用
- 4 課題設定・抽出・解決・論理的表現
- 4 創造力

#### 内容

古今の名作広告をたくさん見せながら、そのデザイン視点の解説と講義を進行します。

良いアイディアは、特別のボーナスみたいだ  
 コミュニケーションデザインは、自己表現ではない  
 質が高ければ、量に勝てるデザイン  
 製品を、商品に進化させるのがデザイン

「おまけ」の重要性について

サントリーから探るコミュニケーションデザイン

そのデザインは、インサイトを刺激しているか

そのデザインは、生活者と時代共有ができていますか

デザインの前に、what to sayを見つける

デザインの前に、how to sayを決める

ブランドパーソナリティという視点。その探り方

ブランドパーソナリティという視点。その商品はどうな人柄？

実技と討論 ブランドパーソナリティを探る演習

パソコンでデザインする前に必要なこと

メディアデザインとは何かを考えてみる

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】あらかじめ自分の「「気になるブランド」」を定め、日頃からどのようなコミュニケーション活動がおこなわれているのか観察していくこと。最初の講義時に詳しく方法を紹介します

特に、時間を定めるわけではありませんが、「気になるブランド」への注意を怠らないようにしてください。

【事後学修】講義の内容により、参考資料を配布し、復習の手助けとします

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加姿勢30%、課題へのレポート評価70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

参加姿勢は2回の小演習で判断します。小演習は、それまでの講義への理解度（イコール参加姿勢を判断）、レポートは、到達目標にどれだけ近づくことが出来ているかを判断する大切な提出物です。十分に時間を重ねてレポート執筆ができるよう、レポート課題の発表は早めに行います。小演習、レポートともに講評を入れて、成績確定後に返却し、フィードバックとします。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使いません。

【推薦書】1回目の講義時に紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	広告論		
担当教員名	村田 幸一		
ナンバリング	KHd232		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

概論的な講義ではなく、現実の広告環境を解説しながら、「広告が効かない時代」の理由を探り、同時にそれを打開するためにはどんな思考で臨むべきかを考えるヒントを紹介していきます。

また、現代のビジネス社会において「広告」がどんな位置付けを持ち、企業にとって重要な経営戦略のひとつであることを説いていきます。

#### 科目の概要

名作と呼ばれる広告（印刷媒体・TVCM）を授業で多くみせながら、名作の名作たる由縁を解説し、広告というジャンルに強い関心と理解を深めることを目的とします。

#### 授業の方法

講義形式。毎回、事例としてのCMや広告を紹介しながら、その狙い、効果などの解説を行います。

同時に、意見交換の機会をつくり、事例に対する反応の声を多く集めていきます。

#### 到達目標

「効く広告」「効かない広告」の見極めができる見識が持てるようになること。

「時代」を読み取るチカラを持てるようになること。

「企業側の論理」と「生活者側の論理」双方を考える複眼の視野を持てるようになること。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

- －1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- －1 情報収集・判断
- －4 創造力

#### 内容

古今の名作広告を可能な限りDVD VHS,資料等で紹介し、解説と講義を進行します。

広告の夜明け 万博と百貨店

ジャーナリズムとしての広告

広告は、ラブレターである

日本のCMの特長を考える

20世紀最高の広告キャンペーン

あらためて、広告とは何だろう

商品価値は時代により変遷する

企業の論理と生活者の論理

広告は本当に商品売るためにあるのか？

即効薬としての広告と、漢方薬としての広告

新聞広告の可能性を探る

ブランドの力とは？

タグラインとスローガンについて

21世紀の広告はどう変わっていくのか

広告から時代を読んでいこう

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回、講義終了時に次回の予告と予習ポイントを指示します。

自宅、または通学時に広告を意識して見る習慣を持ち、受け止めた自分の感覚を整理することを心掛けるようにしておく。(事前 自宅でのTVCM,NETCM,新聞広告への接触を1時間以上) 事後も同様、講義内容を振り返りながら行うこと。

【事後学修】講義により参考資料を配布し、復習の手助けとします。

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加姿勢30%、課題へのレポート評価70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

参加姿勢は2回の小演習で判断します(それまでの講義内容の理解を探る) レポートは到達目標にどれだけ近づけたのかを判断する重要な提出物で、課題発表を早め十分な思考時間を用意します。小演習、レポートともに講評をつけて成績確定後に返却し、フィードバックとします。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使いません。

【推薦書】1回目の講義時に紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	広報論		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KHd233		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 生活情報学科 ( KH )		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

新聞社での企業・行政取材および編集業務の経験がある。企業、行政の広報部門の活動とマスメディアとの具体的な関係を実務経験を生かして解説できる。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

主に企業広報を通してビジネスと情報に関する基礎的な知識を身につけ、就業した際の広報マインドを養う。

##### 科目の概要

企業や各種団体が持続可能な活動をしていくには、広く社会に知られ、理解され、支持されることが必要となる。その手段として広報があり、官民間問わず広報の重要性は高まっている。広報の役割を学び、企業や官公庁でどのように広報活動が行われているかを学修する。企業・組織のコンプライアンス、危機管理も含め、広報全般について認識を深める。民間、行政の広報部門実務者を招き、広報の役割について理解を深める機会を設ける。

##### 授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心とするが、テーマごとにレポート課題を設定し、理解と定着を図る。【レポート (知識・表現)】

##### 到達目標

1. 企業などにおける広報の重要性を説明することができる。
2. 広報部門における効果的な情報発信の手法を学ぶことができる。
3. 企業が果たす社会的責任 (CSR)、企業の危機管理を解説することができる。
4. 企業の広報部門に配属されるケースも視野に入れ、実践力を身につけることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1、2 ビジネスと情報に関する理論、実践
- 1 情報収集、判断

#### 内容

地方自治体、民間企業の広報部門担当者を講師に招くが、日程調整により実施回が入れ替わる可能性がある。

1	ガイダンス (行政・企業等の「広報」を志す人のために)
2	広報の成り立ちと定義、役割
3	広報と広告
4	広報と広告の違いを多方面から分析
5	ジャーナリズムと広報の関係
6	広報と記者クラブ
7	ニュースリリースを理解する

8	新聞・テレビ・WEBなどのメディアと広報の関係
9	企業の社会的責任（CSR）、広報が担う危機管理、中間課題
10	広報の現場を学ぶ（官公庁編）
11	広報の現場を学ぶ（企業編）
12	インターネット社会における効果的な広報活動
13	オウンドメディアを学ぶ
14	PR会社について学ぶ
15	まとめ、最終課題

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示する課題の予習を行う。（各授業に関して60分ほど）

【事後学修】学んだテーマを新聞など資料を参考にしながら掘り下げる。（各授業に関して60分ほど）

#### 評価方法および評価の基準

各授業回で指示する課題（主にレポート作成）の理解度（70%）中間、最終各課題の理解度15%ずつで評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された各授業回のレポート、中間課題は翌週以降の授業時間内にコメントを付して返却する。最終課題は時間内にポイントを解説する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。毎回、レジュメを配布する。

【参考図書】日本PR協会編の「広報・PR概説」（PRプランナー資格認定制度/検定試験対応テキスト）を購入することが望ましい。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	問題解決手法		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHd234		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

ビジネスコース専門科目マーケティング領域の選択科目であり、大学、職場問わず様々な場面で直面する問題の合理的な解決手法について学修する。

##### 科目の概要

問題に直面した時に、たくさんのアイデアを発想しそれをまとめることにより解決策を模索する創造的な解決手法と、問題をモデル化して合理的な意思決定をする解析的な解決手法の両方を学ぶ。

##### 授業の方法（ALを含む）

グループワークや実技を交えながら解説し、リアクションペーパーで学んだことを振り返るとともにレポートや演習を通して理解の深化・定着を目指す。【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【ミニテスト】

##### 到達目標

1. 様々な問題解決手法について概要を説明できる
2. 直面した問題にそれらの手法を活用できる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 情報収集・判断      -3 論理的思考

#### 内容

1	問題解決手法の概要
2	ディスカッション・ディベート・グループワーク【グループワーク】【リアクションペーパー】
3	ブレインストーミング・親和図法・特性要因図【実技】【リアクションペーパー】
4	意思決定方法（いろいろな意思決定基準）
5	意思決定方法（ゲーム理論）

6	意思決定方法のまとめ【レポート（知識）】
7	AHP（階層的意思決定）と一対比較（説明）【実技】
8	AHP（階層的意思決定）と一対比較（演習）【レポート（知識）】
9	ジョブショップスケジューリングとガントチャート【レポート（知識）】
10	ジョンソンの基準【レポート（知識）】
11	在庫管理【レポート（知識）】
12	モデリングとシミュレーション【実技】【リアクションペーパー】
13	いろいろな問題解決手法（QC7つ道具、新QC7つ道具、OR他）
14	総合演習【ミニテスト】
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前回の資料を見直し、理解が不十分な場合は質問項目を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学習】学んだ内容を復習して理解を深めておくとともに、身の回りの問題に適用できないか考えてみる。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

- 様々な問題解決手法について概要を説明できる  
リアクションペーパー：5% + レポート：20% + 総合演習：15%
- 直面した問題にそれらの手法を活用できる  
リアクションペーパー：4% + レポート：30% + 総合演習：26%

リアクションペーパー：3点×3回+レポート：10点×5回+総合演習：41点=100点と配点し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートや総合演習は翌週以降の授業で解説する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ブランド論		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHd235		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

メーカーでのマーケティング実務経験を持つ教員が、キャリアを生かした視点を交えながら講義をしている。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の選択、専門科目である。

##### 科目の概要

「ブランド」を身近な事例に基づいてわかりやすく説明していきます。「ブランド」とは何なのか。その機能や役割、管理について把握し、「ブランド」は消費者にとってどのように認知されるのか、消費者との関係についても理解を深めていきます。

##### 授業の方法 (ALを含む)

Swot分析のレポート提出や、課題に対してグループで話し合っ発表討議する。【レポート】【グループワーク】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

「ブランド」の基礎について理解を深めることができる。具体例を基に「ブランド」の戦略や資産価値を述べるができる。「ブランド」創造の手順を学習し、未来に向けた自らの将来ビジョンを設計する着眼力を高めることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシー「 -2ビジネスに関する実践的な方法を収録する能力を育成すること」「 -3問題解決への活用」「 -1情報収集、判断」を目的とする。

#### 内容

前半は講義形式、後半はディスカッションを取り入れて学習を進めていく。

1	オリエンテーション
2	ブランドとは何か
3	マーケティング概念変遷とブランド
4	ブランドの構成要素 - 企業経営におけるブランドの果たす役割
5	ブランドの創造ものがたり
6	企業マーケティングとブランドの役割
7	地域ブランドとは何か

8	ブランド・エクイティ
9	新市場創造とブランド化計画
10	SWOT分析と自分自身のブランド化 【SWOT分析を行いレポート提出】
11	ブランド確立に必要な「商品開発」の具体的手法・考え方について解説
12	開発したブランドの育成に関する考え方・手法について様々な角度から解説
13	ブランド・コミュニティ【課題に対してグループで話し合い、発表】
14	ブランドのこれから
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業計画に示された「学術用語」を調べ、A4・1枚にまとめておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業での理論について、説明できるようにしておくこと（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

「 -2ビジネスに関する実践的な方法を収録する能力を育成すること」レポート20%平常点20% 「 -3問題解決への活用」レポート20%平常点10% 「 -1情報収集、判断」レポート20% 平常点10%

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。

【推薦書】授業で紹介します。

【参考図書】授業で紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHd236		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科ビジネスコース専門科目の3年次後期配当の選択科目である。

##### 科目の概要

1年次前期配当の必修科目である「マーケティング」、2年次前期配当の必修科目である「調査と統計」で教授される内容を発展させ、実践的に応用する技法を習得する。定量調査と定性調査の技法、リサーチテーマ別にみた調査の技法を体系的に学習する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

講義だが、パソコンを使った演習を取り入れ、学内ネットワークの授業用フォルダにある課題を仕上げ提出してもらい、次週、提出された課題を分析してフィードバックする。

##### 到達目標

マーケティングリサーチの基礎知識を理解し、説明できる。 マーケティングリサーチの技法を理解し、調査計画を立てることができる。 リサーチテーマ別にみた調査の技法を体系的に学修し、調査計画を立てることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -3論理的思考

#### 内容

講義だが、パソコンを使った演習を取り入れ、学びを深めていく。

1	はじめに：マーケティングリサーチとは何か
2	定量調査のデータ収集(1)調査の目的と調査方法
3	定量調査のデータ収集(2)調査対象の抽出
4	定量調査のデータ収集(3)調査票の作り方
5	定量調査のデータ分析(1)記述統計
6	定量調査のデータ分析(2)多変量解析

7	定性調査のデータ収集(1)グループインタビューの設計
8	定性調査のデータ収集(2)グループインタビューの進め方
9	定性調査のデータ分析(3)グループインタビューの記録と分析
10	商品開発のマーケティングリサーチ
11	プロモーションのマーケティングリサーチ
12	ブランドのマーケティングリサーチ
13	市場シェアのマーケティングリサーチ
14	ニュー・マーケティングリサーチ
15	まとめ：マーケティングリサーチと倫理

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ネットワークの授業用フォルダにある説明資料を確認し、自分なりに内容を整理しておく。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業時の課題について、復習ノートに整理して、学期末レポートに備える。（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

マーケティングリサーチの基礎知識を理解し、説明できる（平常点20%、レポート10%）。マーケティングリサーチの技法を理解し、調査計画を立てることができる（平常点20%、レポート15%）。リサーチテーマ別にみた調査の技法を体系的に学修し、調査計画を立てることができる（平常点20%、レポート15%）。平常点60%、レポート40%で、総合評価60/100点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。ネットワークの授業用フォルダに資料を格納しておく。

#### 【推薦書】

岸川 茂（編著）・JMRX（著）、2016、『マーケティング・リサーチの基本』、日本実業出版社。

石井栄造（著）、2012、『マーケティングリサーチの進め方がわかる本』、日本能率協会マネジメント位センター。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学期末レポートについては、Live Campusの授業連絡で通知します。ポータルサイトを使って、期限までにレポートを提出してもらいます。

科目名	ビジネス統計学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHd337		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

**科目の性格** 2年生までで学ぶ経営学、会計学、経済学の履修の上で、これらの知識を統合する科目として、この科目を学ぶ。

**科目の概要** 統計学の基礎的手法を確認する。その後、ビジネスにおいてつかわれる統計的手法を学習し、自らビジネス問題において統計を用いて解決する方法を身につける。

#### 授業の方法（ALを含む）

演習を取り入れながら講義中心に行う。

#### 到達目標

- ・ビジネス上の問題について統計的手法を活用して解決することができる。
- ・経営学、会計学、経済学の知識を総合的に使うことができる。
- ・企業の様々な問題を解決する方法を考える力を身につけることができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

#### 知識・技能

- 2 生活情報学科の主な領域(ビジネスと情報)に関する実践的な方法を習得できる。
- 3 専門教育で習得した理論・方法を、実際の問題解決に活用していく方法を身につける。
- 4 教育で習得した理論・方法を用いて、自らテーマを設定し、課題を抽出・解決し結論を導き、論理的に表現できる。

#### 内容

1	ガイダンス
2	EXCELの復習
3	統計学の基礎

4	相関係数と散布図
5	推定と検定
6	回帰分析
7	重回帰分析
8	分散分析
9	財務分析
10	財務分析と企業
11	データの収集方法
12	株式学習ゲーム導入
13	株式学習ゲーム発展
14	株式学習ゲームまとめ
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】配布したプリントを読むこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業の課題をもう一度復習すること。（各授業に対して30分）

#### 評価方法および評価の基準

1) 毎回の課題 50% 2) 最終の課題 50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】白砂堤津耶『初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社、2007年。331.19/S

向後千春他『統計学がわかる』技術評論社、2007年。417/K

アミール・D・アクゼル他『ビジネス統計学上』ダイヤモンド社、2007年。331.19/A/1

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

PCの操作だけではなく、データを読み取れるようにしましょう。

科目名	リテールマーケティング		
担当教員名	佐藤 浩史		
ナンバリング	KHd238		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

販売に必要な商品知識や販売技術、仕入や在庫管理、マーケティングなど、より高度で専門的な知識を持つ人材の育成を目的とします。

##### 科目の概要

現在の流通業界を取り巻く環境は、急激かつ大きく変化しています。

流通業界で最も必要とされているのは、多様化・高度化した顧客のニーズを的確に捉え、豊富な商品知識や顧客に配慮した接客技術を武器として、ニーズにあった商品を提供するとともに、商品の開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うことができる人材です。

本授業では、流通業についての知識の中でも、特に小売業の店舗運営について学習します。

##### 授業の方法（ALを含む）

##### 到達目標

3級リテールマーケティング検定（日本商工会議所主催）の合格を目標とし、流通業や小売店舗運営についての知識の習得ができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

1	リーテールマーケティングの概要
2	小売業の類型（1）流通構造における小売業の役割
3	小売業の類型（2）組織形態別、店舗形態別小売業の分類
4	マーチャダイジング（1）商品計画、販売計画、仕入計画
5	マーチャダイジング（2）販売管理、在庫管理

6	ストアオペレーション(1)発注の仕方、検収業務
7	ストアオペレーション(2)ディスプレイの種類と特徴
8	マーケティング(1)顧客満足経営、フリークエントショッパーズプログラム
9	マーケティング(2)リージョナルプロモーション
10	販売経営管理(1)敬語、小売業に関する法令知識(1)
11	販売経営管理(2)小売業に関する法令知識(2)、計数管理
12	問題演習(1)
13	問題演習(2)
14	まとめ(1)
15	まとめ(2)

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前に教科書を読む 10分

【事後学修】教科書を読み返し、授業内容の確認をする 30分

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度40% 筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

著者 神奈川販売士協会

書名 これ1冊でご最短合格 販売士(リテールマーケティング)3級 試験対策テキスト&問題集

出版社 株式会社秀和システム

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ビジネスマーケティング		
担当教員名	中山 成夫、見吉 英彦、込江 雅彦		
ナンバリング	KHd239		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

城北信用金庫による実務者による授業。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

##### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。日本の地域経済の現場を、信用金庫の視点から見る。城北信用金庫による提供講座である。

##### 科目の概要

本講義では、変化する社会の中で、ブランディングやマーケティングの観点から物事をデザインする力を養うことを目的に、グループワークやフィールドワークを実施する予定する。ビジネスマッチングやイベント企画など、客の課題解決を目指す、城北信用金庫の取組みを紹介する。また、グループワークを通じて、皆さんに“新しい非金融サービス”を考える。グループ内で様々な意見を交わし、楽しみながらアイデアを形にしていきたいと思います。

##### 授業の方法 (ALを含む)

ゲスト講師の話を聞いたうえで、様々なテーマをもとにグループディスカッションを行っていき、そのうえでプレゼンテーションを行う。

##### 到達目標

信用金庫の役割を把握すること。また、地域経済の特徴、課題、ブランディングやマーケティングについて理解すること。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 2 「ビジネスと 情報に関する実践方法」 － 3 「課題発見」である。

#### 内容

1	ガイダンス
2	総論
3	信用金庫について、城北信用金庫について
4	ワーク 1 - 新しい非金融サービスのアイデア出し・発表準備
5	ワーク 1 - 発表準備・新しい非金融サービスのアイデア発表

6	城北信用金庫のブランディング・PR支援の事例
7	ワーク2 -
8	ワーク2 -
9	ワーク2 -
10	ワーク2 -
11	ワーク2 -
12	ワーク2 -
13	まとめ
14	講義振返り(総括)
15	全体まとめ講義

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前の週に課題を提示する。(各授業に対して30分)

【事後学修】プリントなどを読み、復習する。(各授業に対して30分)

#### 評価方法および評価の基準

各回の課題(20%)、プレゼンテーションへの参加(50%)、最終レポート(30%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】授業中に指示する。

【参考図書】授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

城北信用金庫やベンチャー企業との取り組みなので貴重な機会を逃さないように積極的に参加すること。

科目名	簿記入門		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe138		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

#### 科目の概要

講義では「会計学入門」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原則や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

学修目標として以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳

9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定の時間内に解いておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

重要項目に関するミニテスト・レポート等（20%）、通常の授業態度（20%）、学修目標に基づく期末試験等（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『ファーストステップ簿記を学ぶ』 渡部裕巨編著 中央経済社

【推薦書】『スッキリわかる日商簿記3級』 滝澤ななみ著 TAC出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	簿記基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe238		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

#### 科目の概要

「会計学入門」「簿記入門」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表 (その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金

12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表（その2）
14	決算と財務諸表（その2の続き）
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

学修目標に関するミニテストとレポート等（20%）、学修目標に基づく期末試験（60%）、通常の授業態度等（20%）により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『検定簿記講義3級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社

その他随時教室にて紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	簿記基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe238		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

#### 科目の概要

「会計学入門」「簿記入門」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表 (その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金

12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表（その2）
14	決算と財務諸表（その2の続き）
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

学修目標に関するミニテストとレポート等（20%）、学修目標に基づく期末試験（60%）、通常の授業態度等（20%）により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『検定簿記講義3級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社

その他随時教室にて紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	簿記基礎演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商簿記3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

#### 科目の概要

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定 3級の確実な合格レベルを目指す。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形 (その1)

9	手形（その2）、有価証券、固定資産（その1）
10	固定資産（その2）、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成（その1）
14	元帳の締切と財務諸表の作成（その2）
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

ミニテスト・レポート等（20%）、通常の授業態度（20%）、学修目標に基づく期末試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	簿記基礎演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商簿記3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

#### 科目の概要

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定 3級の確実な合格レベルを目指す。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形 (その1)

9	手形（その2）、有価証券、固定資産（その1）
10	固定資産（その2）、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成（その1）
14	元帳の締切と財務諸表の作成（その2）
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

ミニテスト・レポート等（20%）、通常の授業態度（20%）、学修目標に基づく期末試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	簿記応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe338		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

本科目は、「簿記初級」の知識に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論を体系的により深く学修することを目的に、企業のさらに複雑な商業活動の記帳方法と決算技法を習得する科目である。

#### 科目の概要

具体的には、日商簿記検定試験2級の商業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。検定試験に必要な問題量確保のため、講義ではテキストの問題の他、プリント配布による練習問題も予定している。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

複雑な企業取引の内容を把握し、会計処理方法を十分に理解する。また企業取引の複合的な応用論点への対応力も習得する。講義終了時点では、日商簿記検定商業簿記2級の合格レベルを目標とする。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	簿記一巡の手続と財務諸表
2	現預金と売掛金
3	手形
4	有価証券
5	その他の債権・債務
6	商品売買
7	固定資産
8	引当金、収益と費用
9	株式会社の純資産、税金
10	リース会計、外貨建取引
11	税効果会計
12	決算

13	本支店会計
14	連結会計
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定の時間内に解いておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

ミニテスト・課題レポート等（20%）、通常の授業態度（20%）、学修目標に基づく期末試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記講義2級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	財務会計論		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe340		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを1年次の会计学入門からさらに発展させ学修する科目である。本科目では、将来ビジネスマンとして必要な基本的財務諸表を読む力及び作成できる力を徐々に習得し、後半では最近のIFRSの動向等も学修する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に企業で必要とされる税効果会計や国際会計等まで幅広く学修する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 会計の有用性、基本的任務を実務の基礎レベルまで十分に理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。
4. 基本的IFRSを理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	会計の役割
2	財務諸表の種類と特徴
3	財務諸表の体系
4	わが国の企業会計制度
5	流動資産
6	固定資産
7	負債

8	純資産
9	損益計算書
10	損益計算書
11	キャッシュフロー計算書
12	企業集団の会計
13	税効果会計
14	財務諸表分析
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】章末の練習問題は必ず復習すること。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

学習目標に関するレポート・ミニテスト等（20%）、学習目標に基づく期末試験（60%）、通常の授業態度等（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大塚宗春 福島隆 金子良太 菅野浩勢著 『テキスト入門会計学』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】広瀬義州著 『財務会計』 中央経済社

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	BATIC		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe341		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

今日、様々な分野で企業の国際化が進み、その行動指針である会計基準の国際化も急速に進められている。本科目は、企業の国際化によるビジネスの基礎を英語で記録、計算し、財務諸表を作成する一連の基本的仕組みを前期の会计学入門からさらに発展させ学修する科目である。本科目では、将来、ビジネスマンとして必要な国際会計基準の基本的財務諸表を読む力及び作成できる力を習得し、後半では最近のIFRSの動向等も学修する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウントティング・マインドを身につけるため、本科目では国際ビジネスの実務を意識して多くの事例を取り入れ、国際会計基準の基礎を中心に、その必要性から帳簿の記帳及び管理まで幅広く学修する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 国際会計の必要性・任務を実務の基礎レベルまで理解する。
2. 基本的な会計取引を英語で理解できる能力を身につける。
3. 英語による簡単な会計帳簿の記帳及び管理ができる。
4. IFRSを理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

この授業は講義を基本に、多くの練習問題を取り入れながら学びを深めていく。

1	会計と簿記の基本概念
2	取引と仕訳その1
3	取引と仕訳その2
4	仕訳帳と元帳その1
5	仕訳帳と元帳その2
6	試算表
7	決算修正仕訳その1

8	決算修正仕訳その2
9	棚卸資産と売上原価の会計処理
10	精算表と締切仕訳
11	財務諸表
12	基本的な前提とIFRS
13	財務諸表分析
14	内部統制
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること。（各授業に対して60分）

【事後学修】章末の練習問題は必ず復習すること。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

学習目標に関するレポート・ミニテスト等（20%）、学習目標に基づく期末試験（60%）、通常の授業態度等（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『BATIC Subject1 公式テキスト』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】『BATIC Subject1 問題集』 中央経済社

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ソフトウェア概論		
担当教員名			
ナンバリング	KHf242		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

情報コース専門科目IT活用領域の情報コース必修科目であり、情報関連の専門科目を学ぶ基礎としてコンピュータの働きや仕組みについてソフトウェアの視点から学修する。

##### 科目の概要

オペレーティングシステムやアプリケーション等の各種ソフトウェアの働きや分類、プログラミング言語の種類と特徴、オペレーティングシステムの主な機能・役割、コンピュータ内の数値・文字データの表現・処理 (演算) について学び、コンピュータが各種処理を行う仕組みをソフトウェアの視点から学修する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

解説の後、例題、練習問題、自習問題を通して理解の深化・定着を図るとともに、理解度を確認するための演習を実施する。  
【ミニテスト】

##### 到達目標

1. ソフトウェアやプログラミング言語の種類と特徴を説明できる。
2. オペレーティングシステムの機能と役割を説明できる。
3. コンピュータがデータをどのように扱うかを説明し、表現することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念

#### 内容

1	ソフトウェアの種類と特徴
2	オペレーティングシステムの主要な機能・役割
3	プログラミング言語の種類と特徴
4	記数法、基数変換 (n進数 10進数)

5	基数変換（10進数 n進数）
6	基数変換（2進数 8進数 16進数）
7	演習 【ミニテスト】
8	加法、補数と減法
9	整数の2進数表現（符号付絶対値、補数表現）
10	実数の2進数表現（固定小数点形式、浮動小数点形式）
11	シフト演算
12	文字データの表現
13	演習 【ミニテスト】
14	まとめ
15	総合演習 【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料をダウンロードし、内容の概略を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して45分）

【事後学修】講義内容を復習し、理解を深めるために自習問題を解く。（各授業に対して90分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

- ソフトウェアやプログラミング言語の種類と特徴を説明できる。  
演習 : 10%+総合演習 : 10%
- オペレーティングシステムの機能と役割を説明できる。  
演習 : 10%+総合演習 : 10%
- コンピュータがデータをどのように扱うかを説明し、表現することができる。  
演習 : 5%+演習 : 25%+総合演習30%

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

- ・演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%
- ・総合演習 : 100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	パソコン活用		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHf243		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は情報コース専門科目IT活用領域の選択科目であり、情報を学ぶ上での基本的な思考法を身につける。

##### 科目の概要

今後AIやIoTを扱っていくうえでそれらの既存ライブラリを部品として利用しシステム開発を行うことが一般的となっていくことが予想される。その際にアルゴリズムを組み立てる力が必要となる。そこで、Scratchを使ってブロックを組み合わせることによって直感的にアルゴリズムを記述・設計する開発手法を学修する。また、作成したゲームを説明する動画を作る手法を学修する。

##### 授業の方法（ALを含む）

Scratchと動画編集の基本的な仕組みを学ぶ例題を作成した後に、個人ごとにScratchを使ったゲーム作成、作成ゲームの紹介動画作成を行う。ゲームの企画にはマインドマップを使う。企画内容についてグループ内での意見交換を行い、デザイン思考を用いた開発手法を取り入れる。【実技】【創作、制作】【プレゼンテーション】【グループワーク】

##### 到達目標

1. 処理の論理を表すアルゴリズムの組み立て方を理解する
2. デザイン思考を使って他者の意見を取り入れてよりよいゲーム作品を企画・制作できる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念

#### 内容

5人の教員によるオムニバスの授業です。各教員ごとに一つのテーマを扱い、演習を通して情報処理に関する基礎的な理解が深められるよう、進めていく授業です。

1	ガイダンス
2	Scratchの基礎（説明・例題）（1）【実技】
3	Scratchの基礎（説明・例題）（2）【実技】
4	Scratchの基礎（説明・例題）（3）【実技】

5	マインドマップの使い方、オリジナルゲームの企画【実技】
6	グループ内での企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】
7	オリジナルゲームの制作（1）【創作、制作】
8	オリジナルゲームの制作（2）【創作、制作】
9	オリジナルゲームの制作（3）【創作、制作】
10	動画制作の基礎（説明・例題）（1）【実技】
11	動画制作の基礎（説明・例題）（2）【実技】
12	動画制作の基礎（説明・例題）（3）【実技】
13	動画作品（オリジナルゲームの紹介）制作（1）【創作、制作】
14	動画作品（オリジナルゲームの紹介）制作（2）【創作、制作】
15	動画作品の発表・相互評価【プレゼンテーション】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】オリジナルゲーム・動画の企画・制作の際、構想をまとめてくる（60分）。

【事後学修】授業時間内に完成できなかったゲームや動画を完成させる（60分）。

#### 評価方法および評価の基準

基礎スキルを学ぶための例題として作成した作品を各20点（ゲームと動画）、オリジナルゲームの企画・発表20点、個人ごとに作成したオリジナルゲーム作品20点、オリジナルゲーム作品の紹介動画を20点の配点で評価し、総合評価60点以上（100点満点）を合格とする。

#### 【フィードバック】

第6回において、企画したオリジナルゲームについてグループ内のメンバー相互にコメントしあい、作成するオリジナルゲームに反映させる。

最終回において、オリジナルゲームの紹介動画を学生同士で相互評価する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。資料はLiveCampusを通して、学生に提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

15回の授業全体が体系的な構成になっているので、各回の授業内容を確実に理解し、学んだ手法を使いこなせるようになるのが、授業理解の上で必須となる。

科目名	パソコン活用		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHf243		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は情報コース専門科目IT活用領域の選択科目であり、情報を学ぶ上での基本的な思考法を身につける。

##### 科目の概要

今後AIやIoTを扱っていくうえでそれらの既存ライブラリを部品として利用しシステム開発を行うことが一般的となっていくことが予想される。その際にアルゴリズムを組み立てる力が必要となる。そこで、Scratchを使ってブロックを組み合わせることによって直感的にアルゴリズムを記述・設計する開発手法を学修する。また、作成したゲームを説明する動画を作る手法を学修する。

##### 授業の方法（ALを含む）

Scratchと動画編集の基本的な仕組みを学ぶ例題を作成した後に、個人ごとにScratchを使ったゲーム作成、作成ゲームの紹介動画作成を行う。ゲームの企画にはマインドマップを使う。企画内容についてグループ内での意見交換を行い、デザイン思考を用いた開発手法を取り入れる。【実技】【創作、制作】【プレゼンテーション】【グループワーク】

##### 到達目標

1. 処理の論理を表すアルゴリズムを組み立てることができる
2. デザイン思考を用いた企画・設計ができる
3. 作品紹介等の動画を制作することができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念

#### 内容

1	ガイダンス
2	Scratchの基礎（説明・例題）【実技】
3	Scratchの基礎（説明・例題）【実技】

4	Scratchの基礎（説明・例題）【実技】
5	マインドマップの使い方、オリジナルゲームの企画【実技】
6	グループ内での企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】
7	オリジナルゲームの制作（1）【創作、制作】
8	オリジナルゲームの制作（2）【創作、制作】
9	オリジナルゲームの制作（3）【創作、制作】
10	動画制作の基礎（説明・例題）【実技】
11	動画制作の基礎（説明・例題）【実技】
12	動画制作の基礎（説明・例題）【実技】
13	動画作品（オリジナルゲームの紹介）制作（1）【創作、制作】
14	動画作品（オリジナルゲームの紹介）制作（2）【創作、制作】
15	動画作品の発表・相互評価【プレゼンテーション】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】オリジナルゲーム・動画の企画・制作の際、構想をまとめてくる（60分）。

【事後学修】授業時間内に完成できなかったゲームや動画を完成させる（60分）。

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 処理の論理を表すアルゴリズムを組み立てることができる

例題ゲーム：20% + オリジナル作品：10%

2. デザイン思考を用いた企画・設計ができる

企画・発表：20% + オリジナル作品：10%

3. 作品紹介等の動画を制作することができる

例題動画：20% + 紹介動画：20%

基礎スキルを学ぶための例題として作成した作品を各20点（ゲームと動画）、オリジナルゲームの企画・発表20点、個人ごとに作成したオリジナルゲーム作品20点、オリジナルゲーム作品の紹介動画を20点の配点で評価し、総合評価60点以上（100点満点）を合格とする。

#### 【フィードバック】

第6回において、企画したオリジナルゲームについてグループ内のメンバー相互にコメントしあい、作成するオリジナルゲームに反映させる。

最終回において、オリジナルゲームの紹介動画を学生同士で相互評価する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。資料はLiveCampusを通して学生に提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

15回の授業全体が体系的な構成になっている。各回の授業内容を確実に理解し学んだ手法を使いこなせるようにすることが、授業理解の上で必須となる。



科目名	パソコン活用		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHf243		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は生活情報学科情報コースのIT活用領域の専門科目である。情報を学ぶ上での基本的な思考法を身につける。

##### 科目の概要

今後AIやIoTを扱っていくうえで、それらの既存ライブラリを部品として利用しシステム開発を行うことが一般的となっていくことが予想される。その際にアルゴリズムを組み立てる力が必要となる。そこで、Scratchを使ってブロックを組み合わせることによって直感的にアルゴリズムを記述・設計する開発手法を学修する。また、作成したゲームを説明する動画を作る手法を学修する。

##### 授業の方法（ALを含む）

Scratchと動画編集の基本的な仕組みを学ぶ例題を作成した後に、個人ごとにScratchを使ったゲーム作成、作成ゲームの紹介動画作成を行う。ゲームの企画にはマインドマップを使う。企画内容についてグループ内での意見交換を行い、デザイン思考を用いた開発手法を取り入れる。【実技】【制作】【プレゼンテーション】【グループワーク】

##### 到達目標

処理の論理を表すアルゴリズムの組み立て方を理解し、デザイン思考を使って他者の意見を取り入れてよりよいゲーム作品を作成できるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念

#### 内容

1	ガイダンス
2	スクラッチを使ったゲーム作成（1）
3	スクラッチを使ったゲーム作成（2）
4	スクラッチを使ったゲーム作成（3）

5	マインドマップの使い方，オリジナルゲームの企画
6	グループ内でのゲーム企画の紹介
7	オリジナルゲーム制作（1）
8	オリジナルゲーム制作（2）
9	オリジナルゲーム制作（3）
10	動画制作の基礎（1）
11	動画制作の基礎（2）
12	動画制作の基礎（3）
13	動画作品制作（1）
14	動画作品制作（2）
15	オリジナルゲーム紹介動画を使ったゲーム作品の相互評価

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】オリジナルゲームや動画を企画したり，作成したりする際に，構想をまとめてくる（60分）。

【事後学修】授業時間内に作成できなかったゲームや動画を作成する（60分）。

#### 評価方法および評価の基準

ゲームを作成することでアルゴリズムの組み立て方を理解したと評価する。オリジナルゲームの企画書であるマインドマップの内容によりゲームの設計手法を習得したと評価する。作成したゲームの紹介動画により動画作成手法を習得したと評価する。

手法を学ぶために例題として作成した作品を各20点（ゲームと動画），オリジナルゲームの企画と発表20点，個人ごとに作成したオリジナルゲーム作品20点，オリジナルゲーム作品の紹介動画を20点の配点で得点化し，総合評価60点以上（100点満点）を合格とする。オリジナルゲームを作成したことでアルゴリズムの組み立て方を理解したものと評価する。

#### 【フィードバック】

第6回において，企画したオリジナルゲームについてグループ内のメンバからゲームをよくするために相互にコメントしあい，作成するオリジナルゲームに反映させる。他者の意見に基づきオリジナルゲームの改良すべき点を改良することでデザイン思考を取り入れたゲーム作品を作成したと評価する。

最終回において，オリジナルゲームの紹介動画を学生同士で相互評価を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。資料はLiveCampusを通して，学生に提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

15回の授業全体が体系的な構成になっているので，各回の授業内容を確実に理解し，学んだ手法を使いこなせるようになるのが，授業理解の上で必須となる。

科目名	医療事務コンピューティング基礎		
担当教員名	川村 好子、小野 裕次郎		
ナンバリング	KHf244		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は、情報コース専門科目IT活用領域の選択科目であり、かつ資格支援科目である。本科目では、医療に關与する業務のIT化を踏まえて、オペレーション技能を身につけながら診療報酬請求業務における専門的知識について理解を深める。また、医事コンピュータ技能検定3級の資格取得を目指すべく、関連する課題に取り組む。

#### 科目の概要

医事コンピュータは、患者基本情報及び診療内容をもとに、日々の診療費とレセプト（1月の診療報酬明細の作成）の請求業務をあわせてつ医事会計ソフトである。本科目では、模擬カルテによるオペレーション業務を学びながら、診療内容と診療報酬請求に関する専門的知識について理解を深める。また、11月の医事コンピュータ技能検定3級の資格取得を目指すべく、医療事務領域及びコンピュータ関連知識の課題に取り組む。

#### 授業の方法（ALを含む）

講義等で得た知識や方法等を、学生が実際に行う実技オペレーションを通じて身に着ける。【実技】  
授業の進捗にあわせたミニテストや事後課題に取り組み理解を深める。【ミニテスト】

#### 到達目標

- (1)医療保険制度の概要及び診療報酬請求のしくみを理解できる。
- (2)基本的な診療行為のそれぞれについて、オペレーション業務を遂行できる。
- (3)医事コンピュータ技能検定の医療事務領域及びコンピュータ関連知識の基礎的な問題に取り組み、理解できる。

#### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 ビジネスと情報に関する実践方法      -3 問題解決への活用      -3 論理的思考

内容

この授業は、実技オペレーションを含む技能試験の資格取得を目的としていることから、演習形式を基本に進めますが、授業の進捗にあわせた課題（ミニテスト）及び質疑応答をとり入れながら理解を深めます。【実技】【ミニテスト】

1	医療関連法規（医療保険制度の概要）[ミニテスト]
2	診療報酬請求の概要[ミニテスト]
3	医事会計システムの流れ及び医事コンピュータの基本操作[実技][ミニテスト]

4	初診料・再診料・外来診療料における通則・告示 [ミニテスト]
5	診療行為別入力 (初診料・再診料・外来診療料) [実技]
6	投薬料・注射料における通則・告示 [ミニテスト]
7	診療行為別入力 (投薬料・処方箋料及び注射料) [実技]
8	検査料における通則・告示 [ミニテスト]
9	診療行為別入力 (検体検査料・生体検査料) [実技]
10	病理診断料における通則・告示、及び診療行為別入力 (病理診断料) [実技] [ミニテスト]
11	画像診断料の通則・告示 [ミニテスト]
12	診療行為別入力 (画像診断料) [実技]
13	一般的な処置及び簡単な手術・麻酔の通則・告示 [ミニテスト]
14	診療行為別入力 (一般的な処置及び簡単な手術・麻酔) [実技]
15	まとめ (全員)

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 各通則や告示内容を読み要点をまとめる。(各回45分)、疑問点は授業内で解決すること。

【事後学修】 復習課題に取り組み、理解度を確認すること。(各回45分)

#### 評価方法および評価の基準

平常点 (授業の取り組み及びミニテスト) 40%、復習課題及び試験成績 60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 予習及び復習課題における疑問点は、授業内の質疑応答や模範解答により解説します。

到達目標 (1) 平常点 (10% / 40%)、復習課題及び期末成績 (10% / 60%)

到達目標 (2) 平常点 (10% / 40%)、復習課題及び期末成績 (20% / 60%)

到達目標 (3) 平常点 (20% / 40%)、復習課題及び期末成績 (30% / 60%)

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

医科診療報酬早見表 (医学通信社)

医事コンピュータ技能検定問題3級 (2) (つちや書店)

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	医療事務コンピューティング応用		
担当教員名	川村 好子、小野 裕次郎		
ナンバリング	KHf344		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は、情報コース専門科目IT活用領域の選択科目であり、かつ資格支援科目である。

医療に關与する業務のIT化を踏まえて、医療事務に携わる者にとって診療報酬請求に関する専門的知識に加えて、コンピュータ関連知識及びオペレーション技能が必要とされる。本科目では、オペレーション技能を通して診療報酬請求に関する理解を深め、さらに11月に実施される医事コンピュータ技能の資格取得を目指す。

#### 科目の概要

本科目は、「医療事務コンピューティング基礎」の学習を基本とし、さらに医事コンピュータ技能検定試験の資格取得を目指す目的から、実技オペレーションを含む検定試験に関連した演習を主体とする。具体的には、過去問題を用いて、主に外来における診療行為について、伝票形式及びカルテ形式の症例をもとにレセプト（診療報酬明細書）を作成する。

#### 授業の方法（ALを含む）

「医療事務コンピューティング基礎」で得た知識や実技オペレーション技能等を基礎とし、学生が実際に検定試験に関連する演習課題に取り組むことを通じて学習する方法。【実技】【演習】

#### 到達目標

- (1) 一般的な外来の診療内容について、一連のオペレーション業務を遂行できる。
- (2) 医療事務及びコンピュータ関連知識の領域全般に関する課題に取り組み、理解できる。
- (3) 医事コンピュータ技能検定3級の合格ラインに到達できる。

本試験は、1)医療事務分野（医療事務知識）、2)コンピュータ関連知識、3)実技オペレーション（医事会計ソフトによるレセプト作成）の3領域すべてにおいて60%以上が合格ラインである。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法      -3 問題解決への活用      -1 情報収集、判断

内容

この授業は、医事コンピュータ実技検定試験の資格取得を目指す目的から、実技オペレーションを含む検定試験に関連した演習を基本としますが、授業の進捗にあわせて適宜質疑応答をとり入れながら理解を深めます。【実技】【演習】

1	医学管理料の通則・告示
2	診療行為別入力（医学管理料）[実技]
3	リハビリテーション・精神科専門療法等の通則・告示
4	診療行為別入力（リハビリテーション・精神科専門療法等）[実技]
5	在宅医療の通則・告示
6	診療行為別入力（在宅医療）[実技]
7	検定試験対策（伝票形式）[演習]
8	検定試験対策（カルテ形式）[演習]
9	検定試験対策（伝票形式 / カルテ形式）[演習]
10	検定試験対策（学科：医療事務関連知識）
11	検定試験対策（投薬及び注射を含む症例）[演習]
12	検定試験対策（検査及び画像を含む症例）[演習]
13	検定試験対策（処置や手術を含む症例）[演習]
14	検定試験対策（医学管理料、その他を含む症例）[演習]
15	まとめ（全員・領域別の模擬試験）

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 次回の演習課題を予習し疑問点をあらいだす。（60分）疑問点は授業内で解決すること。

【事後学修】 各領域に関連した復習課題に取り組み、理解度を確認すること。（60分）また、検定試験直前には、実技オペレーションの演習課題にも取り組むこと。（120分）

#### 評価方法および評価の基準

平常点（授業の取り組み・領域別試験成績）40%、演習・復習課題及び期末成績 60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 予習及び復習課題における疑問点は、授業内の質疑応答や模範解答により解説します。

到達目標（1） 平常点（20% / 40%）、演習課題及び期末成績（20% / 60%）

到達目標（2） 平常点（10% / 40%）、復習課題及び期末成績（20% / 60%）

到達目標（3） 平常点（10% / 40%）、演習・復習課題及び期末成績（20% / 60%）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

医科診療報酬点数表（医学通信社）

医事コンピュータ技能検定問題3級（2）（つちや書店）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報基礎		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHf245		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

情報コース専門科目IT活用領域の選択科目であり、ソフトウェア概論で学んだ内容を振り返りながら、情報関連科目を学ぶ上で必要となる数学や効率化手法の基礎について学修する。

##### 科目の概要

コンピュータの仕組みを理解し効率的に活用する上で役立つオペレーションズリサーチの手法や、集合、ブール代数、論理演算、論理回路等について学ぶ。

##### 授業の方法 (ALを含む)

解説の後、例題、練習問題、自習問題を通して理解の深化・定着を図るとともに、理解度を確認するための演習を実施する。  
【ミニテスト】

##### 到達目標

1. 情報関連科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を説明し使用することができる
2. 様々な分野で活用できる効率化手法の基礎を説明し使用することができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2 ビジネスと情報に関する実践方法

#### 内容

1	オリエンテーション
2	集合
3	場合の数と順列・組合せ
4	ブール代数
5	カルノー図
6	論理回路

7	演習 【ミニテスト】
8	加算回路とその他の論理演算・論理回路
9	日程計画問題とPERT（アローダイアグラム、結合点時刻）
10	日程計画問題とPERT（PERT表、クリティカルパス）
11	線形計画問題とグラフ解法
12	マルチプログラミングとガントチャート
13	演習 【ミニテスト】
14	まとめ
15	総合演習 【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料をダウンロードし、内容の概略を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して45分）

【事後学修】講義内容を復習し、理解を深めるために自習問題を解く。（各授業に対して90分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 情報関連科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を説明し使用することができる。

演習 : 25%+総合演習25%

2. 様々な分野で活用できる効率化手法の基礎を説明し使用することができる。

演習 : 25%+総合演習25%

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

・演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%

・総合演習 : 100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	データベース基礎		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf246		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

生活情報学科の学位授与方針1, 2, 3, に該当する。

本科目は生活情報学科、教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「基礎的な知識を修得することを求められている。

「データベース応用」とともにデータベースに関する授業であり、ネットワークの普及とともに身近になってきているデータベースについて学びます。

身近なデータベースとしては、Excel やアクセスでの住所録の管理にデータベースが使われています。古くは銀行のシステムや図書館情報システムで、最近では、音楽配信や旅行検索、ネットショッピングのシステムを構築するのにデータベースは欠かせなくなっています。更に、最近では、インターネットで検索できる全てのデータを1つの大きなデータベースと見て検索できるように、世界的な基準作りが行われています。

大量のデータを高速に間違いなく、容易に、安全に利用するために、データベース管理システムにはどのような技術が工夫されているかを理解する授業です。

授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースでのデータ管理の違いを理解し、基本的なデータベース管理機能について学ぶ授業であり、基礎的な授業です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに

-1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -1 情報収集、判断、 -2 主体的学修 についても学ぶ

内容

Excel でのデータベース管理を学んだあと、Access を使い簡単なデータベースを作成する。作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら、講義と並行して演習を進める。

1	データベースについて
2	Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースについて
3	Access によるデータベースの作成演習 (テーブルの作成)
4	Access によるデータベースの作成演習 (複数テーブルの作成)
5	Access によるデータベースの作成演習 (クエリ処理)
6	Access によるデータベースの作成演習 (テーブル作成とクエリ処理についての応用演習課題)
7	Access によるデータベースの作成演習 (フォーム、レポートの作成)

8	Access の総合演習課題
9	リレーショナル代数（和演算、差演算、積演算、商演算）
10	リレーショナル代数（選択演算、射影演算、結合演算）
11	DBMS（正規化）
12	DBMS（整合性）
13	DBMS（排他制御）
14	DBMS(障害回復)
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）

#### 評価方法および評価の基準

授業に対する意欲・関心・評態度と授業中に出す演習課題（40点）と総合課題（30点）とテストまたはレポート（30点）の成績で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学修の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業の最初に指定する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	データベース基礎		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf246		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

生活情報学科の学位授与方針1, 2, 3, に該当する。

本科目は生活情報学科、教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「基礎的な知識を修得することを求められている。

「データベース応用」とともにデータベースに関する授業であり、ネットワークの普及とともに身近になってきているデータベースについて学びます。

身近なデータベースとしては、Excel やアクセスでの住所録の管理にデータベースが使われています。古くは銀行のシステムや図書館情報システムで、最近では、音楽配信や旅行検索、ネットショッピングのシステムを構築するのにデータベースは欠かせなくなっています。更に、最近では、インターネットで検索できる全てのデータを1つの大きなデータベースと見て検索できるように、世界的な基準作りが行われています。

大量のデータを高速に間違いなく、容易に、安全に利用するために、データベース管理システムにはどのような技術が工夫されているかを理解する授業です。

授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースでのデータ管理の違いを理解し、基本的なデータベース管理機能について学ぶ授業であり、基礎的な授業です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに

-1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -1 情報収集、判断、 -2 主体的学修 についても学ぶ

内容

Excel でのデータベース管理を学んだあと、Access を使い簡単なデータベースを作成する。作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら、講義と並行して演習を進める。

1	データベースについて
2	Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースについて
3	Access によるデータベースの作成演習 (テーブルの作成)
4	Access によるデータベースの作成演習 (複数テーブルの作成)
5	Access によるデータベースの作成演習 (クエリ処理)
6	Access によるデータベースの作成演習 (テーブル作成とクエリ処理についての応用演習課題)
7	Access によるデータベースの作成演習 (フォーム、レポートの作成)

8	Access の総合演習課題
9	リレーショナル代数（和演算、差演算、積演算、商演算）
10	リレーショナル代数（選択演算、射影演算、結合演算）
11	DBMS（正規化）
12	DBMS（整合性）
13	DBMS（排他制御）
14	DBMS(障害回復)
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）

#### 評価方法および評価の基準

授業に対する意欲・関心・評態度と授業中に出す演習課題（40点）と総合課題（30点）とテストまたはレポート（30点）の成績で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学修の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業の最初に指定する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	マクロ言語		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf247		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

生活情報学科の学位授与方針1. 2. 3. に該当する。

本科目は教育課程編成・実施方針における「「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「ITに関する基礎的な技術を修得すること」を求められている。本科目は生活情報学科 情報コースの IT活用分野の専門科目であり、表計算ソフトを使う時に有効なマクロ機能及びマクロ利用の考え方を習得する。

表計算ソフトのプログラミング技術を利用した汎用性の高いマクロとして、VBA(Visual Basic for Applications)を学ぶ。このことにより、頻繁に使う機能を表計算ソフトに登録し、必要な時にそれを呼び出し実行できるマクロ機能について理解する。VBAの実習問題に取り組むことにより、初心者がプログラミング言語の基礎的な構文、文法に慣れることができる。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

VBEを使いVBAのマクロ言語を編集することができる。

記録マクロに登録することができる。

イベント駆動型のプログラミング言語の考え方を理解し、さまざまなコントロールマクロに登録することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに
- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -4 課題設定・抽出・解決、論理的表現、 -1 情報収集、判断、 -2 主体的学修 についても学ぶ

内容

Excel の基礎を学んだあと、マクロ言語の演習を通して、プログラミング言語の基礎を学ぶ。

1	表計算ソフト Excelの復習 関数テクニック 1
2	表計算ソフト Excel の復習 関数テクニック 2
3	VBAの基礎
4	マクロの記録と修正 (マクロボタン作成、セルの色分け)
5	繰り返しによる自動化と抽出条件の記述 1
6	繰り返しによる自動化と抽出条件の記述 2
7	応用問題 演習
8	コマンドボタン、スピンボタン、ラベル,テキストボックス、の作成
9	チェックボックス、リストボックス、コンボボックス、スクロールバー、とグルボタンの作成

10	さまざまなコントロールマクロの応用演習 1
11	コントロールを利用したマクロ 1
12	コントロールを利用したマクロ 2
13	総合問題 システムの作成
14	総合問題 システムの作成
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）

#### 評価方法および評価の基準

平常授業の態度の評価30点と授業中に出す演習課題（40点）と総合課題（30点）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 30時間でマスター Excel2007VBA 実教出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	アルゴリズムとデータ構造		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHf348		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

情報コース専門科目IT活用領域の選択科目であり、プログラミング技術を活かすためのデータ構造とアルゴリズムの基礎について学修する。

##### 科目の概要

リスト構造や木構造等の基本的なデータ構造や、条件判定・分岐や繰り返し等のアルゴリズムの基礎、データの探索、整列等の代表的なアルゴリズムについて学ぶ。

##### 授業の方法 (ALを含む)

解説の後、例題、練習問題を通して理解の深化・定着を図るとともに、理解度を確認するための演習を実施する。【ミニテスト】

##### 到達目標

1. 各種データ構造の特徴を理解し処理目的に合わせて適切に選択できる
2. 各種探索・整列アルゴリズムの概要を理解し適切に選択できる
3. 目的に合わせて処理手順を論理的に設計することができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 論理的思考      -4 創造力

#### 内容

1	アルゴリズムとデータ構造の概要
2	データ構造 (配列、スタックとキュー、リスト構造)
3	データ構造 (木構造)
4	アルゴリズムの基礎: 基本的な制御構造、フローチャート、トレース
5	再帰アルゴリズム

6	演習 【ミニテスト】
7	探索アルゴリズム（線形探索）
8	探索アルゴリズム（2分探索、ハッシュ法）
9	整列アルゴリズム（バブルソート）
10	整列アルゴリズム（選択ソート、挿入ソート）
11	整列アルゴリズム（ヒープソート）
12	整列アルゴリズム（クイックソート）
13	演習 【ミニテスト】
14	いろいろなアルゴリズム、まとめ
15	総合演習【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業資料をダウンロードし、内容の概略を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容を復習し、理解を深めるとともに疑問点を解消しておく。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 各種データ構造の特徴を理解し処理目的に合わせて適切に選択できる  
演習 : 15% + 総合演習 : 10%
2. 各種探索・整列アルゴリズムの概要を理解し適切に選択できる  
演習 : 25% + 総合演習 : 25%
3. 目的に合わせて処理手順を論理的に設計することができる  
演習 : 10% + 総合演習 : 15%

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

- ・演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%
- ・総合演習 : 100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	データベース応用		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf346		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

生活情報学科の学位授与方針1. 2. 3. に該当する。

本科目は教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「ITに関する基礎的な技術を修得すること」を求められている。「データベース基礎」に続く授業であり、データベースに関する一連の授業でネットワークの普及とともに身近になってきているデータベースについて学びます。

情報システムを構成する主要な技術にデータベース管理システムがある。この授業では、実際にデータベースにデータを入力したり、検索したりするためのデータベースプログラミングについて実習を中心に行う。

データベース管理にはSQLという言語を利用し、SQLの学習とともに、ネットワークを介したデータベースについての操作についても学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標 SQL言語を通して、データベースプログラミングの基礎を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに
- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -4 課題設定・抽出・解決、論理的表現、 -1 情報収集、判断、 -2 主体的学修 についても学ぶ

内容

データベース基礎で学んだ後、SQL言語を使いデータベースを作成し、作成したデータベースで、データベースプログラミング基礎について講義と並行して演習を行っていく。

1	データベースとは
2	リレーショナルデータベースの復習
3	リレーショナルデータベースとSQL言語の基礎
4	クエリーの基本操作
5	いろいろな関数 1
6	いろいろな関数 2
7	テーブル作成の基本操作
8	まとめ 1 応用課題
9	複雑なクエリーの操作 1
10	複雑なクエリーの操作 2
11	データを守る仕組み 1

12	データを守る仕組み 2
13	応用課題
14	応用課題
15	まとめ 2

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）。

#### 評価方法および評価の基準

毎回の授業の課題 50% とまとめの課題 50% で評価し、60% 以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	データベースプログラミング		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf349		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「ITに関する基礎的な技術を修得すること」を求められている。データベース基礎、応用に続く内容であり、ネットワークを介したデータ処理システムを理解することを目標とする。

「マクロ言語」で、マクロ言語を通してプログラミング言語の基礎的なことを理解し、「データベース基礎、応用」でデータベースの基礎的なことを理解していれば理解できるように授業を進める。基本的には授業内で言語、ホームページ関連の必要な知識は説明し、進めていく。しかしながら、「データベース基礎、応用」、「ホームページ関連の授業」を受講しているとさらに理解しやすい。

実社会で使われているシステムに即し、実用的なシステムの構築を学ぶ。今までに学んできたプログラミング言語、HTML、SQL言語を総合的に利用し、ホームページでのデータ操作について学ぶ授業である。

授業の方法 (ALを含む)

ホームページから入力されたデータをファイルやデータベースにデータ登録し、それらのデータを検索するシステムを開発し、ネットワークを介したデータ処理の仕組みを理解することを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用、 -4 課題設定・抽出・解決、論理的表現、
- 2 主体的学修を重要視し、さらに
- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -1 情報収集、判断 についても学ぶ

内容

データベース基礎、データベース応用で学んだ後、Webページの中でデータベース扱えるようなシステムを作成するため、HTML、PHP、SQL言語などを総合的に使い演習を行っていく。

1	オリエンテーション (ネットワークを介したデータ処理について)
2	PHP開発環境について
3	変数、簡単な関数 (文字列関数、日付関数)
4	条件分岐 繰り返し構文 1
5	条件分岐、繰り返し構文 2

6	配列操作
7	フォームとメール操作 1
8	フォームとメール操作 2
9	アンケートフォームとファイル作成 1
10	アンケートフォームとファイル作成 2
11	データベースとSQL操作
12	WebでのSQL言語によるデータベース操作 1
13	WebでのSQL言語によるデータベース操作 2
14	課題 データベースシステム作成 1
15	課題 データベースシステム作成 2

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の次回行うところを簡単に読み、次回の話題は何なのか把握しておく。

【事後学修】毎回出される課題を仕上げるとともに、教科書を読み直すことを進める。特に、この教科書はとても理解しやすく書いてある。授業では教科書に沿って、ポイントだけを説明し進めるので、読み直し、応用課題は自分で教科書を見ながらとけるようにしておく。

#### 評価方法および評価の基準

平常授業の態度の評価30点と授業中に出す演習課題（30点）と総合課題（40点）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物により理解の程度を把握し、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は授業の最初に提示する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	IT活用		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHf250		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針2に該当する。今日の社会人にとって必要不可欠なITに関する知識と企業活動の基礎的理解を深めるとともに、これまでに修得した知識技術相互の関連付けをおこない、応用する力をつけていく。

#### 科目の概要

修得した応用力の成果として、「ITパスポート」資格の取得を念頭に置き、その内容の学習と通じて、様々な知識と社会の仕組みへの理解を深め、自己の応用力の確認を目指す。

#### 授業の方法（ALを含む）

#### 到達目標

- 1 これまで履修した科目の復習
- 2 基礎的理解にとどまらず、実社会での事例を学び、理解を一層深める。
- 3 過去問と練習問題の回答を繰り返し行うことで、「ITパスポート」資格の合格を目指す。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容	
1	ITパスポートとは
2	コンピュータの基礎理論1
3	コンピュータの基礎理論2
4	コンピュータの基礎1
5	コンピュータの基礎2

6	IT技術 1
7	IT技術 2
8	企業とは
9	経営とは
10	システムアプローチ
11	システム開発技法 1
12	システム開発技法 2
13	システム運用
14	練習問題
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。(60分)

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

中間テスト(30%)と期末テスト(50%)、および授業への取り組み姿勢(20%)を総合評価し、60%以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】滝口直樹 文系女子のためのITパスポート合格テキスト&問題集

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	インターネット		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg251		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業にてインターネット上のサービスおよびプログラムの開発経験がある教員が担当する。セキュリティサービスおよびプログラミング言語について開発経験を踏まえた講義を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科情報コースのコース必修専門科目である。

インターネットを安心・安全に利用するにあたり、最低限必要な知識として技術的背景、仕組みの理解、モラルを身につけることが求められている。具体的には、以下の知識と技能を学修する。インターネットの概要、情報機器の仕組みを理解し、操作できる。SNS、Webやメールを活用することができる。メディアリテラシーやインターネット利用にともなうリスクを知り、必要な情報セキュリティ対策をとることができる。インターネット利用に関連する法律を理解している。

##### 科目の概要

インターネットの利用、情報機器の使いこなし、インターネット利用のための技術とモラル、インターネットをとりまく法律について理解する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

講義を中心に行い、一部パソコンを用いた実技を行う。講義では、授業内容について講義した後に理解を深めるための問題を解く。実技ではレポート提出がある。【実技】

##### 到達目標

- ・パソコンの基礎的な仕組みを理解して説明することができる。
- ・電子メールやWebの基本的な使い方を理解して説明することができる。
- ・セキュリティの重要性を理解し、インターネット使用上のマナーや法律の基礎を説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 生活情報学科の主な領域 (ビジネスと情報) に関する実践的な方法を習得できる。 -2 新しい知識・技術を自ら学ぶ態度を身につける。

#### 内容

この授業は講義を基本に、授業内容によりパソコン操作を伴う演習を取り入れながら、学びを深めていく。シラバス執筆時

点で教科書の改訂版(第4版)が未発行のため、授業内容と回数の関係が一部変更になる可能性がある。

1	社会基盤としてのインターネット
2	インターネットの利用の広がり
3	パソコンの仕組みと接続デバイス
4	OSの機能と様々なアプリケーション
5	プログラミングの基本
6	インターネット構成
7	インターネット接続
8	Webの仕組み
9	電子メールの仕組み
10	セキュリティ対策の重要性
11	セキュリティに関する日常的に必要な対応
12	ルールとマナー
13	知的財産権に関する法律
14	インターネット社会の法律
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当箇所を読み、疑問点を整理してくる。事前にLiveCampusに掲載する授業資料に目を通してくる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業で学んだ内容、授業中に解いた問題について、不正解となった問題についてなぜ不正解となったのかを理解する。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

パソコンの仕組みの理解については演習課題で評価し、インターネットの仕組みや法律については試験で評価する。課題40点、試験60点の合計点を総合評価し、60点以上を合格とする。

課題へのフィードバックは、課題提出サーバを通して行う。学習内容の理解を深めるために、ほぼ毎回練習問題を解く。授業時間内に解いた問題については、正解を提示する。試験問題については、正解の提示と採点結果の返却を行う。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】NTTコミュニケーションズ 「インターネット検定 公式テキスト 第4版 .com Master BASIC」

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

単位修得には、授業への出席と参加、課題提出が大事である。



科目名	ネットワーク基礎		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg352		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

TCP/IPネットワークで動作する通信サービスの開発経験がある教員が担当する。講義内容はTCP/IPネットワークからアプリケーションまで含む。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科情報コースのネットワーク領域に属する専門科目である。

インターネットの基盤技術であるTCP/IPネットワークに関する基礎的で技術的な知識を学修する。

##### 科目の概要

インターネットの仕組みと利用法, 特に, 「インターネットの仕組みと関連技術」「インターネット接続の設定とトラブル対処」「Webブラウザとメールクライアントの設定と使いこなし」について理解する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

授業内容に関連するインターネット検定や基本情報技術者試験の問題を解くことで, 学んだ知識や技術がどのようにどのように使われているかを理解しながら授業を進める。【ミニテスト】

##### 到達目標

- ・ IPアドレスなどのインターネットの基本的な仕組みを理解し, 説明することができる。
- ・ メールやWebなどのアプリケーションの仕組みを理科し, 説明することができる。
- ・ パソコンをインターネットに接続する方式について理解し, 説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は, 生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 生活情報学科の主な領域 (ビジネスと情報) に関する基本的な理論や概念を理解できる。 -2 新しい知識・技術を自ら学ぶ態度を身につける。

#### 内容

この授業は講義を基本に, 練習問題を解く作業を取り入れながら, 学びを深めていく。

第1回: ネットワークとは

第2回: 通信プロトコル, OSI参照モデル

第3回: IPアドレスとサブネットマスク

第4回：サブネット分割，ネットワークアドレス，ブロードキャストアドレス

第5回：ネットワーク層

第6回：トランスポート層

第7回：LANの技術，無線LAN

第8回：ルーティング

第9回：サーバ，WWW，DNS

第10回：アプリケーション関連技術 メール，HTTP，HTML

第11回：インターネット接続の技術 ファイアウォール，FTP，NTP

第12回：IPv6

第13回：インターネットへの接続

第14回：ブロードバンドルータ

第15回：まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書を読んで，疑問点，分からないところを整理してくる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容の復習を行う。また，授業中に解いた問題について，正解の理由を説明できるように復習する。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

仕組みを理解しているかどうかを筆記試験で評価する。複数回行う試験の結果を総合的に評価する。合格点は60点以上である。採点結果は返却する。さらに，試験問題および練習問題については正解の考え方を説明する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：

「インターネット検定ドットコムマスター アドバンス公式テキスト 第3版」，NTTコミュニケーションズ。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

同時期に開講する「ネットワーク設定」をいっしょに履修することにより，知識と技術の理解を深めることができる。本科目で知識や技術を学び，それらがネットワークやコンピュータ上でどのように実現されているのかを同時期に開講する「ネットワーク設定」において学修する。

科目名	ネットワーク設定		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg353		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

ネットワークサービス開発経験があり、パソコンのネットワーク設定やLANアナライザを使ったパケットキャプチャとその解析経験が豊富にある。授業では、IPアドレスの設定をしたり、LANアナライザを使ったりして、現象を調べる実験を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科情報コースのネットワーク領域に属する専門科目である。

情報分野におけるネットワークについて、パソコンを接続し利用するための基礎的な知識と技術を演習や実験を通して学修する。2年前期の「ネットワーク基礎」で学ぶ内容を、演習や実験を通して実際のネットワークでどのように使われているのかを理解する。

##### 科目の概要

コンピュータをネットワークに接続して利用する際の手順と技術について理解する。ほぼ毎回、通信技術を理解するための演習を行う。

##### 授業の方法 (ALを含む)

コマンド操作やパソコンの設定変更により観測できる現象によりネットワークの仕組みを理解する内容が多い。15回のすべての授業において演習や実験結果に関するレポート提出がある。【レポート】

##### 到達目標

- ・ネットワークの仕組みを理解するためのコマンドやツールの操作を行うことができる。
- ・パソコンをネットワークに接続して、利用するための設定を行うことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 生活情報学科の主な領域 (ビジネスと情報) に関する基本的な理論や概念を理解できる。
- 2 新しい知識・技術を自ら学ぶ態度を身につける。
- 3 データや現象から何が起きているのかを読み解く能力・論理的思考力を身につける。

#### 内容

この授業を毎回の授業でコンピュータを使ったネットワーク演習を行うことにより、同時期に開講する「ネットワーク基礎

」で学ぶ内容がコンピュータやそのネットワークの上でどのように実現されているのかを学ぶ。

1	ネットワーク設定情報とネットワーク資源へのアクセス
2	ユーザ登録、コンピュータ名、IPアドレスの設定
3	ドメイン名の設定、NATとブリッジ
4	ファイル共有、IPアドレスに関する実験
5	デフォルトゲートウェイの役割
6	サブネットマスクの役割
7	リモートログインとポート番号
8	MACアドレスとルーティングテーブル
9	ICMP
10	名前解決の仕組み（ドメイン名とNetBIOS名の仕組み）
11	リモートデスクトップ接続とtelnet
12	LANアナライザ
13	非暗号通信と暗号通信
14	ファイル転送プロトコルftp
15	メールクライアントの設定、メールプロトコルSMTPとPOP

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に授業用サーバLiveCampusに掲載する授業資料を読んで、その演習を通して何を学ぶのかを理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業資料を復習し、課題で行ったことの意味を理解する。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

コマンドやツールの操作、パソコンに対する設定変更を行う演習課題を正しく行うことができるか、起こっている現象を説明することができるかどうかを演習課題により評価する。毎回の演習課題を100点満点で評価し、すべての課題の得点の平均点が60点以上を合格とする。

課題へのフィードバックとして、課題提出サーバに採点結果、学生からの質問に対する回答および不正解箇所についてのコメントを掲載する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。授業資料は、授業用サーバLiveCampusを通して提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「ネットワーク基礎」と同時履修するのが望ましい。授業内で行うパソコン操作やコマンド実行をなぜ行うのかを考えながら授業に臨むと、ネットワークの仕組みを理解することができる。

科目名	ネットワーク設定		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg353		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

ネットワークサービス開発経験があり、パソコンのネットワーク設定やLANアナライザを使ったパケットキャプチャとその解析経験が豊富にある。授業では、IPアドレスの設定をしたり、LANアナライザを使ったりして、現象を調べる実験を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科情報コースのネットワーク領域に属する専門科目である。

情報分野におけるネットワークについて、パソコンを接続し利用するための基礎的な知識と技術を演習や実験を通して学修する。2年前期の「ネットワーク基礎」で学ぶ内容を、演習や実験を通して実際のネットワークでどのように使われているのかを理解する。

##### 科目の概要

コンピュータをネットワークに接続して利用する際の手順と技術について理解する。ほぼ毎回、通信技術を理解するための演習を行う。

##### 授業の方法 (ALを含む)

コマンド操作やパソコンの設定変更により観測できる現象によりネットワークの仕組みを理解する内容が多い。15回のすべての授業において演習や実験結果に関するレポート提出がある。【レポート】

##### 到達目標

- ・ネットワークの仕組みを理解するためのコマンドやツールの操作を行うことができる。
- ・パソコンをネットワークに接続して、利用するための設定を行うことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 生活情報学科の主な領域 (ビジネスと情報) に関する基本的な理論や概念を理解できる。
- 2 新しい知識・技術を自ら学ぶ態度を身につける。
- 3 データや現象から何が起きているのかを読み解く能力・論理的思考力を身につける。

#### 内容

この授業を毎回の授業でコンピュータを使ったネットワーク演習を行うことにより、同時期に開講する「ネットワーク基礎

」で学ぶ内容がコンピュータやそのネットワークの上でどのように実現されているのかを学ぶ。

1	ネットワーク設定情報とネットワーク資源へのアクセス
2	ユーザ登録、コンピュータ名、IPアドレスの設定
3	ドメイン名の設定、NATとブリッジ
4	ファイル共有、IPアドレスに関する実験
5	デフォルトゲートウェイの役割
6	サブネットマスクの役割
7	リモートログインとポート番号
8	MACアドレスとルーティングテーブル
9	ICMP
10	名前解決の仕組み（ドメイン名とNetBIOS名の仕組み）
11	リモートデスクトップ接続とtelnet
12	LANアナライザ
13	非暗号通信と暗号通信
14	ファイル転送プロトコルftp
15	メールクライアントの設定、メールプロトコルSMTPとPOP

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に授業用サーバLiveCampusに掲載する授業資料を読んで、その演習を通して何を学ぶのかを理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業資料を復習し、課題で行ったことの意味を理解する。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

コマンドやツールの操作、パソコンに対する設定変更を行う演習課題を正しく行うことができるか、起こっている現象を説明することができるかどうかを評価する。毎回の演習課題を100点満点で評価し、すべての課題の得点の平均点が60点以上を合格とする。

課題へのフィードバックとして、課題提出サーバに採点結果、学生からの質問に対する回答および不正解箇所についてのコメントを掲載する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。授業資料は、授業用サーバLiveCampusを通して提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「ネットワーク基礎」と同時履修するのが望ましい。授業内で行うパソコン操作やコマンド実行をなぜ行うのかを考えながら授業に臨むと、ネットワークの仕組みを理解することができる。

科目名	インターネットとセキュリティ		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg354		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

セキュリティサービスに関する研究及び開発経験がある。セキュリティに関する技術や知識がどのように役に立つのかを講義のなかで説明する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科情報コースのネットワーク領域に属する専門科目である。

実社会での生活や業務において安全にコンピュータやインターネットを使いこなすためには、ネットワークセキュリティやインターネットに関連する法律について学修する。

##### 科目の概要

情報セキュリティの3つの要素，すなわち，脅威，脅威に対抗するための基盤技術である暗号技術と公開鍵暗号基盤，脅威からネットワークや通信を守るための対策技術について理解する。

##### 授業の方法（ALを含む）

技術とその技術が社会でどのように使われているのかを交えて講義を行う。講義内容の理解を深めるために，ほぼ毎回授業内容に関する過去の検定試験問題を解く。【ミニテスト】

##### 到達目標

- ・暗号技術の使い方について理解して説明することができる。
- ・インターネット利用時の脅威とその対策について理解して説明することができる。
- ・インターネット利用時のマナーと法律を正しく理解し，安全にインターネットを利用することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 生活情報学科の主な領域（ビジネスと情報）に関する基本的な理論や概念を理解できる。 -1 実社会における問題に対し性格に情報を集め，判断できる能力を身につける。

#### 内容

この授業は講義を基本に，練習問題を解く作業を取り入れながら，学びを深めていく。

第1回：セキュリティとは何か

第2回：暗号技術とPKI(1) 共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式

- 第3回：暗号技術とPKI(2) ハッシュ関数，電子署名，PKI
- 第4回：暗号技術とPKI(3) セキュリティプロトコル
- 第5回：PC利用時の脅威とその対策
- 第6回：LAN利用時の脅威とその対策
- 第7回：インターネット利用時の脅威とその対策(1) 脅威の種類
- 第8回：インターネット利用時の脅威とその対策(2) Web
- 第9回：インターネット利用時の脅威とその対策(3) メール
- 第10回：インターネット上のサービス
- 第11回：情報交換や発信に関する知識 SNS，ブログ
- 第12回：インターネット利用に関するマナー Web，メール，オンラインショップ
- 第13回：インターネットに関する知識と法律 プライバシ，通信関連法，著作権，
- 第14回：インターネットとセキュリティに関する問題演習
- 第15回：まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】教科書を読んで，疑問点，分からないところを整理しておく。（各授業に対して60分）
- 【事後学修】授業内容の復習を行う。また，授業中に解いた問題について，正解の理由を説明できるように復習する。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

暗号技術の使い方，インターネット利用時の脅威とその対策，マナーと法律について正しく理解できているかどうかを筆記試験により評価する。複数回行う試験の総合点で評価する。60点以上を合格とする。採点結果は返却する。試験問題の正解とその考え方を配付する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

NTTコミュニケーションズ インターネット検定ドットコムマスタ アドバンス 公式テキスト NTT出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業中に練習問題を解くので，練習問題を通して理解を深めるのがよい。



科目名	サーバ設定		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg355		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

インターネットを使ったネットワークサービスの開発経験があり、その際にLinuxを開発環境のサーバとして利用した経験がある。サーバ設定の実用的な手順に基づいた授業を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の情報コースにおけるネットワーク領域の専門科目に属する。

日常生活や業務で利用するネットワークサービスはサーバによって提供される。本科目では、サーバOSとして使われることが多いLinux (UNIX系OS) について、その機能・操作方法を理解し、使いこなす力が身につく。応用として、サーバ設定を行う力が身につく。Linuxの操作は、ほとんどすべてがテキストによるコマンド操作である。将来ソフトウェア開発に携わる場合、サーバとして使われることが多いLinuxを操作できることが役に立つ。

##### 科目の概要

Linuxの特徴、ディレクトリ・ファイル操作等の基本コマンド、便利な機能、もっとも身近でよく利用されているWebサーバ、メールサーバの構築を行う。

##### 授業の方法 (ALを含む)

すべての授業回において、コマンド操作が必要となる。第8回までの授業ではコマンドの使い方を学ぶ。毎回、学んだコマンドによって何ができるかを問う問題を学生自身が解く。正解は翌週の授業で解説する。第9回以降の授業では、前半で学んだコマンドを基礎として、サーバ管理のコマンドを追加で学ぶ。

##### 到達目標

- ・サーバOSであるLinuxのコマンド操作を行い目的の作業を達成することができる。
- ・Linuxのコマンドを使い、サーバ構築を行うことができる。
- ・OSの基本的な仕組みを理解して説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法,
- 3 論理的思考,
- 2 主体的学修

#### 内容

この授業はコンピュータ演習を基本とし、サーバ操作に関する方法やその意味や効果を説明した後、サーバ操作に関する課題を行うことで操作法を身につける。

1	UNIX (Linux) の概要, ディレクトリ構造, MS-DOSコマンド
2	ログイン・ログアウト, パスワード設定, ユーザ・グループ管理
3	ディレクトリ・ファイルの操作
4	アクセス権
5	viエディタによるファイルの編集
6	ファイルの内容表示
7	リダイレクト・パイプ処理, テキストの並べ替え・検索
8	コマンドの履歴, エイリアス
9	Linuxにおけるネットワーク管理
10	ftpサーバを例にしたLinuxにおけるサーバ管理
11	SSL/TLSを使ったftpの暗号化
12	Webサーバ構築
13	Webサーバのセキュリティ強化 認証と暗号化
14	メールサーバ構築 SMTP, POP3, IMAP
15	メールクライアントを使ったメールの送受信

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に授業用サーバに掲載する授業資料を読んで、予習する。(毎回60分)

【事後学修】授業冒頭に前回の課題について正解を提示する。正解を理解するとともに、前回の授業で学んだコマンドを自分で使えるように復習する。(毎回60分)

#### 評価方法および評価の基準

目的に応じたコマンド操作、サーバ構築を行うことができるかどうか、OSの仕組み理解しているかどうかを演習課題ができるかどうかで評価する。毎回の演習課題を100点満点で評価し、全課題の平均点が60点以上を合格とする。課題へのフィードバックとして、課題提出サーバに採点結果および不正解課題についてコメントを掲載する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使わない。授業資料は授業サーバLiveCampusを通して提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習及び復習が重要である。各回の授業で学んだコマンドを次回以降の授業で日常的に使う。すべてのコマンドは体系的に一貫した考え方のもとに作られている。この考え方を理解するとコマンドが覚えやすくなる。このような内容のため、授業の欠席はそれ以降の授業内容理解に大きな支障となる。万一欠席した場合には、欠席した授業内容を翌週の授業までに理解しておかないと、たとえ新しく学ぶコマンドの実行ができたとしても、そのコマンドの位置づけが分かりにくくなる。

科目名	ハードウェア概論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KHh256		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科専門科目情報領域の選択科目である。情報領域全般における基礎となる知識・理解を学修する。

##### 科目の概要

我々の身の回りは、コンピュータに代表される多種多様な情報機器にあふれている。本科目では、これらが機能する仕組みの基礎について、ハードウェアとソフトウェアの両面から学ぶ。

また、情報社会の特徴を理解する中で、ICTが我々の生活をどのように支え、どのような役割を果たし、今後どのように発展していくのか、などについて身近な例を取り上げながら学ぶ。

##### 授業の方法 (ALを含む)

前半のコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの理解では、講義を中心に基礎知識を修得する。後半の情報社会の発展では、これまでの情報社会の流れを理解し、今後の超スマート社会に向けての理解と課題に関して、調査活動やグループワークで学修を進める。【グループワーク】

##### 到達目標

- ・コンピュータのハードウェアの構成に関して説明ができる。
- ・コンピュータのソフトウェアの概要に関して説明ができる。
- ・情報社会の将来や課題に関して解釈できる。
- ・健全な情報社会の一員として、社会に参画できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

- ・ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- ・ビジネスと情報に関する実践方法
- ・興味・関心、主体性

#### 内容

1	オリエンテーション 情報社会と情報
2	情報の表現

3	コンピュータの仕組み
4	コンピュータのハードウェア
5	ソフトウェア(1) ファイル管理
6	ソフトウェア(2) データベース
7	コンピュータシステム構成
8	ネットワーク
9	セキュリティー
10	振り返り
11	情報社会の現状と課題
12	メディアのパーソナル化
13	データで見る情報社会
14	情報社会をよりよく生きる
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教材を総合教育システムから事前に配信するので、用語などについて調べること。[60分]

【事後学修】授業内容を基に、各自ノートなどにまとめること。[60分]

#### 評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする。

#### テストでの理解力(50%)

- ・コンピュータのハードウェアの構成に関して説明ができる。
- ・コンピュータのソフトウェアの概要に関して説明ができる。

#### レポートでの説明・まとめ(50%)

- ・情報社会の将来や課題に関して解釈できる。
- ・健全な情報社会の一員として、社会に参画できる。

【フィードバック】授業時にポイントの解説をおこなう。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】デジタル世代のための情報基礎, ムイスリ出版 予定のため授業時の指示を待って対応のこと。

【参考図書】栢木先生のITパスポート教室, 技術評論社

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

覚えることが中心になりがちですが、能動的に学びましょう。

科目名	CG演習		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh257		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針2に該当するかもくである。今日のコンピュータ利用の中で重要な分野となっているコンピュータグラフィックス技術の基本となる科目である。Webシステムの画面作成や画像、写真加工など今後の学習の基礎力を修得する科目となっている。

#### 科目の概要

今日の社会でコンピュータグラフィックス (CG) 技術は、印刷・出版業界だけでなくあらゆる分野で活用されており、CG技術は不可欠なものとなっている。2次元でのデジタル画像の作成と加工、編集等について学び、ラスター画像とベクトル画像の差異と特徴について理解し、目的に合致したCG作成方法やCG合成などに関するグラフィックス技術の基礎を習得する。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

- 1 ラスター画像について理解する。
- 2 ラスター画像の作成方法、加工方法を学ぶ。
- 3 ベクトル画像の特徴を理解する。
- 4 ベクトル画像の作成、加工方法を学ぶ。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容	
1	2次元コンピュータグラフィックスとは
2	自由曲線と基本図形の描画
3	ベジェ曲線
4	図形の変形・編集
5	文字に関するデザイン機能
6	ブレンド、クリッピングマスク、複合パス機能

7	精密な描画1 (グリッドとガイドの利用)
8	精密な描画2 (ビットマップ画像の利用)
9	画像のトレースとイラスト作成
10	ビットマップ画像の選択範囲作成
11	ビットマップ画像の切り抜きと合成
12	ビットマップ画像の調整機能 (色調補正・フィルターなど)
13	ウェブページデザインワークフロー1
14	ウェブページデザインワークフロー2
15	まとめ、ビットマップ画像総合課題

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。(60分)

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

各授業ごと提出課題の合計点を80%、平常点を20%として総合評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じてファイルを配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	Webページ作成		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHh258		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「ITに関する基礎的な技術を修得すること」を求められ、生活情報学科の情報コース専門科目であり、情報コース必須科目である。Webページ作成の基本的な技術と理論を学ぶ。本科目履修後、2年次後期科目の「Webページとスクリプト」を履修することにより、さらに理解を深めることができる。

#### 科目の概要

インターネットを利用することが当たり前の時代となってきた、Webページを用いた情報発信も拡大の一途をたどっている。Webサイトの役割も、情報発信から、電子商取引、ネットショッピングなど情報発信だけではなく多彩なサービスを期待されている。本授業では、WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を学び、Webページ作成ができることを目的とする。

#### 授業の方法 (ALを含む)

##### 到達目標

WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を理解する。

HTML言語を理解し、HTML言語でWebページを作成することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに
- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -2 主体的学修 についても学ぶ

#### 内容

WebページをHTML言語で作成し、Webページの成り立ちの基礎について講義と並行して演習を行っていく。

1	オリエンテーション、授業の進め方、Webページの動作と仕組み
2	Webページ制作の基礎 1 基礎技術・デザイン・配色
3	HTMLの基礎 2 制作手順
4	HTMLの基 1 基本要素・見出し 段落・リスト
5	HTMLno HTMLの基礎 2 画像・リンク・文書構造
6	応用問題 1
7	CSSの基礎 1 書式・文字要素・背景

8	CSSの基礎 2 ボックスモデルとデザイン・レイアウト
9	応用問題 2
10	Webサイト制作 1
11	Webサイト制作 2
12	応用問題 3
13	総合問題
14	総合問題
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）。

#### 評価方法および評価の基準

各回の課題の評価を50点、授業への参加度20点、総合課題30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指定する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。



科目名	Webページ作成		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHh258		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「ITに関する基礎的な技術を修得すること」を求められ、生活情報学科の情報コース専門科目であり、情報コース必須科目である。Webページ作成の基本的な技術と理論を学ぶ。本科目履修後、2年次後期科目の「Webページとスクリプト」を履修することにより、さらに理解を深めることができる。

#### 科目の概要

インターネットを利用することが当たり前の時代となってきた、Webページを用いた情報発信も拡大の一途をたどっている。Webサイトの役割も、情報発信から、電子商取引、ネットショッピングなど情報発信だけではなく多彩なサービスを期待されている。本授業では、WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を学び、Webページ作成ができることを目的とする。

#### 授業の方法 (ALを含む)

##### 到達目標

WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を理解する。

HTML言語を理解し、HTML言語でWebページを作成することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに
- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -2 主体的学修 についても学ぶ

#### 内容

WebページをHTML言語で作成し、Webページの成り立ちの基礎について講義と並行して演習を行っていく。

1	オリエンテーション、授業の進め方、Webページの動作と仕組み
2	Webページ制作の基礎 1 基礎技術・デザイン・配色
3	HTMLの基礎 2 制作手順
4	HTMLの基 1 基本要素・見出し 段落・リスト
5	HTMLno HTMLの基礎 2 画像・リンク・文書構造
6	応用問題 1
7	CSSの基礎 1 書式・文字要素・背景

8	CSSの基礎 2 ボックスモデルとデザイン・レイアウト
9	応用問題 2
10	Webサイト制作 1
11	Webサイト制作 2
12	応用問題 3
13	総合問題
14	総合問題
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）。

#### 評価方法および評価の基準

各回の課題の評価を50点、授業への参加度20点、総合課題30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指定する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	Webページ作成		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHh258		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

本科目は教育課程編成・実施方針における「情報コース専門科目 IT活用」の科目の一つであり、「ITに関する基礎的な技術を修得すること」を求められ、生活情報学科の情報コース専門科目であり、情報コース必須科目である。Webページ作成の基本的な技術と理論を学ぶ。本科目履修後、2年次後期科目の「Webページとスクリプト」を履修することにより、さらに理解を深めることができる。

#### 科目の概要

インターネットを利用することが当たり前の時代となってきた、Webページを用いた情報発信も拡大の一途をたどっている。Webサイトの役割も、情報発信から、電子商取引、ネットショッピングなど情報発信だけではなく多彩なサービスを期待されている。本授業では、WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を学び、Webページ作成ができることを目的とする。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を理解する。  
HTML言語を理解し、HTML言語でWebページを作成することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法、 -3 問題解決への活用を重要視し、さらに
- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -2 主体的学修 についても学ぶ

内容

WebページをHTML言語で作成し、Webページの成り立ちの基礎について講義と並行して演習を行っていく。

1	オリエンテーション、授業の進め方、Webページの動作と仕組み
2	Webページ制作の基礎 1 基礎技術・デザイン・配色
3	HTMLの基礎 2 制作手順
4	HTMLの基 1 基本要素・見出し 段落・リスト
5	HTMLno HTMLの基礎 2 画像・リンク・文書構造
6	応用問題 1
7	CSSの基礎 1 書式・文字要素・背景

8	CSSの基礎 2 ボックスモデルとデザイン・レイアウト
9	応用問題 2
10	Webサイト制作 1
11	Webサイト制作 2
12	応用問題 3
13	総合問題
14	総合問題
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握し、自分なりに整理しまとめておく（30分程度）

【事後学修】 演習課題を完成させる。新しく出てきた項目について復習する。特に、応用問題については、教科書のどこに関連した問題なのか、教科書を見直し理解を深める。（60分程度）。

#### 評価方法および評価の基準

各回の課題の評価を50点、授業への参加度20点、総合課題30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出物により理解の程度を把握し、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指定する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書通りの課題に加え、応用問題もやってもらいます。

応用問題の配点が多いので、自分で考えて提出するようにして下さい。

科目名	Webページとスクリプト		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHh359		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科情報コースのインターフェース領域に属する専門科目である。

実社会での生活や業務において、目的に合ったWebページを作成するためには、情報伝達手段やインタフェース技術として広く使われるWebページの作成技術、特に動きのあるWebページの作成技術を学修する。動きのあるWebページは、JavaScriptと呼ばれるプログラミング言語で実現する。

##### 科目の概要

JavaScriptと高度な機能を簡単に使えるようにしたライブラリであるjQueryの二つを理解する。JavaScript, jQueryともに、HTMLやCSSで書かれたWebページの内容を書き換えたり、機能追加することで動きのあるページを実現するため、HTMLやCSSの基礎について理解していることが前提となる。また、jQueryの記法はCSSの記法と類似点が多い。

##### 授業の方法（ALを含む）

毎回の授業で学ぶ新しい知識や技術について例題とともに説明した後、学生が応用問題を解き、レポートとして提出する。

##### 【ミニテスト】

##### 到達目標

- ・ JavaScriptのプログラムを記述して目的通りの動きのあるWebページを作ることができる。
- ・ jQueryのプログラムを記述して目的通りの動きのあるWebページを作ることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 生活情報学科の主な領域（ビジネスと情報）に関する実践的な方法を習得できる。
- 4 実社会で要求されるものや使用に合うものを作る想像力を身につける。
- 1 ビジネスや情報に興味を持ち、自ら学ぶ態度を身につける。

#### 内容

1	オリエンテーション, 環境準備, 簡単なJavaScriptプログラムの作成
---	--

2	アラートボックス, 確認ボックス - if
3	確認ボックス - 変数, 四則演算
4	比較演算子, 論理演算子
5	繰り返し構文while
6	繰り返し構文for, 配列
7	連想配列, イベント
8	ID属性, 条件分岐if else, switch
9	関数, 開発者ツール
10	JavaScriptのオブジェクト指向
11	jQuery, クリックすると開くツールボックス
12	開閉できるツールボックス
13	ボタンをロールオーバーする
14	拡大画像をポップアップ表示する
15	複数画像のポップアップ, フォームの入力チェック

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に授業サーバに掲載する授業資料を読んで予習する。(各授業に対して60分)

【事後学修】翌週の授業で前回の課題について正解の提示を解説を行うので, 内容を復習する。授業が進むにつれてそれまでに学習した内容を理解していることが前提となる。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

目的通りのWebサイトをJavaScriptやjQueryを使って構築する課題を正しく行うことができるかどうかで評価する。毎回の演習課題を100点満点で評価し, すべての課題の得点の平均点が60点以上を合格とする。課題へのフィードバックとして, 授業サーバLiveCampusに採点結果及びコメントを掲載する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 使用しない。授業資料を授業用サーバLiveCampusを通して提供する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業回以前に学んだことを理解していることが前提となる内容が多く含まれるので, 一回一回の授業内容をその都度理解していくことが全体を理解する上で必要になる。

科目名	3 D C G		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh360		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 生活情報学科 ( KH )		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 ( 情報 )		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 ( ALを含む ) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針 2 に該当する科目である。今日のコンピュータ利用の中で重要な分野となっている 3 D コンピュータグラフィックス技術の基礎を理解するとともに、3 次元空間把握に対する能力を修得する。

#### 科目の概要

3 D コンピュータグラフィックスにおける立体作成方法 ( モデリング )、立体の質感設定、光源の種類と利用、3 D グラフィックスの出力など一連の作業方法を修得していく。

#### 授業の方法 ( ALを含む )

#### 到達目標

- 1 立体の入力と立体化手法について理解する。
- 2 立体の表面加工方法を学ぶ。
- 3 光源の特徴を理解する。
- 4 立体を動かす方法 ( アニメーション化 ) を学ぶ。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容	
1	2次元コンピュータグラフィックスとは
2	自由曲線と基本図形の描画
3	ベジェ曲線
4	図形の変形・編集
5	文字に関するデザイン機能
6	ブレンド、クリッピングマスク、複合パス機能
7	精密な描画 1 ( グリッドとガイドの利用 )
8	精密な描画 2 ( ビットマップ画像の利用 )
9	画像のトレースとイラスト作成

10	ビットマップ画像の選択範囲作成
11	ビットマップ画像の切り抜きと合成
12	ビットマップ画像の調整機能（色調補正・フィルターなど）
13	ウェブページデザインワークフロー 1
14	ウェブページデザインワークフロー 2
15	まとめ、ビットマップ画像総合課題

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。（60分）

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。（60分）

#### 評価方法および評価の基準

各授業ごと提出課題の合計点を80%、平常点を20%として総合評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。必要に応じてファイルを配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	3 D C G		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh360		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 生活情報学科 ( KH )		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 ( 情報 )		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 ( ALを含む ) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針 2 に該当する科目である。今日のコンピュータ利用の中で重要な分野となっている 3 D コンピュータグラフィックス技術の基礎を理解するとともに、3 次元空間把握に対する能力を修得する。

#### 科目の概要

3 D コンピュータグラフィックスにおける立体作成方法 ( モデリング )、立体の質感設定、光源の種類と利用、3 D グラフィックスの出力など一連の作業方法を修得していく。

#### 授業の方法 ( ALを含む )

#### 到達目標

- 1 立体の入力と立体化手法について理解する。
- 2 立体の表面加工方法を学ぶ。
- 3 光源の特徴を理解する。
- 4 立体を動かす方法 ( アニメーション化 ) を学ぶ。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容	
1	2次元コンピュータグラフィックスとは
2	自由曲線と基本図形の描画
3	ベジェ曲線
4	図形の変形・編集
5	文字に関するデザイン機能
6	ブレンド、クリッピングマスク、複合パス機能
7	精密な描画 1 ( グリッドとガイドの利用 )
8	精密な描画 2 ( ビットマップ画像の利用 )
9	画像のトレースとイラスト作成

10	ビットマップ画像の選択範囲作成
11	ビットマップ画像の切り抜きと合成
12	ビットマップ画像の調整機能（色調補正・フィルターなど）
13	ウェブページデザインワークフロー 1
14	ウェブページデザインワークフロー 2
15	まとめ、ビットマップ画像総合課題

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。（60分）

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。（60分）

#### 評価方法および評価の基準

各授業ごと提出課題の合計点を80%、平常点を20%として総合評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。必要に応じてファイルを配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	プログラミング基礎		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi261		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門選択科目であり、プログラミング学習の最初の科目となる。

##### 科目の概要

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目である。

プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎となる科目であり、順次構造、選択構造、反復構造の基本構造のフローチャートとプログラムを学ぶ。フローチャートの復習・作成から始め、フローチャート作成後にプログラム作成を行い基本構造の理解を深める。

##### 授業方法（ALを含む）

本科目では、各回の授業内容において、アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】毎回の授業で課題を出すので、次回授業前までに課題を提出する。授業最初に前回の課題の解説を行う。【ミニテスト】この繰り返される上記アクティブラーニング過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、フローチャート作成とプログラム基本構造の理解する。

##### 学修目標（到達目標）

1. 順次構造、選択構造、反復構造の基本構造を理解し、フローチャートを書くことができる。
2. 上記基本構造を利用して簡単なプログラムを作成することができる。
3. 課題で示された実行例と説明を見て、同様のプログラムを作成することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2 ビジネスと情報に関する実践方法      -2 柔軟性、行動判断

アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】【ミニテスト】

1	オリエンテーション
2	処理のシナリオを考える
3	シナリオ（分岐、繰り返し）
4	シナリオからフローチャート作成
5	プログラミング環境設定、コンパイル・実行から課題提出方法【ミニテスト】
6	プログラム作成と画面表示【ミニテスト】
7	int型変数の宣言と連結表示【ミニテスト】
8	変数（実数型、文字型、文字列型）と計算【ミニテスト】
9	キーボード入力と計算の応用【ミニテスト】
10	if文（if-else、if-else if-else）【ミニテスト】
11	if文の応用（論理演算とネスト）【ミニテスト】
12	while文、繰り返しフローチャート【ミニテスト】
13	do-while文、for文（繰り返し構文） フローチャート【ミニテスト】
14	配列とfor文【ミニテスト】
15	まとめ【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業開始前に前回の授業内容を確認し、前回の例題は作成できるようにしておく、また今回の授業内容を事前に読んでおく。（各回45分）

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次回までに行き提出しておく。（各回60分）

#### 評価方法および評価の基準

各授業回における授業・ワークへの取り組み(20%)と毎回の課題と期末のまとめ課題(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 授業・ワークへの取り組み(10%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (20%/80%)

到達目標 2. 授業・ワークへの取り組み(5%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (20%/80%)

到達目標 3. 授業・ワークへの取り組み(5%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (40%/80%)

【フィードバック】前回の課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。そのために前回最後の出された課題を次回までに行き提出しておくことと、授業開始前に前回の授業内容の確認、今回の授業内容を事前に読んでおくことが望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中に学内ネットワーク上に提示とプリント配布

【推薦書】「新・明解Java入門編（第1版）」 柴田 望洋著 SoftBankCreative

【推薦書】「新・解きながら学ぶJava 入門編（第1版）」 柴田 望洋、由梨 かおる著 SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	プログラミング基礎		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi261		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必,必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門選択科目であり、プログラミング学習の最初の科目となる。

##### 科目の概要

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目である。

プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎となる科目であり、順次構造、選択構造、反復構造の基本構造のフローチャートとプログラムを学ぶ。フローチャートの復習・作成から始め、フローチャート作成後にプログラム作成を行い基本構造の理解を深める。

##### 授業方法（ALを含む）

本科目では、各回の授業内容において、アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】毎回の授業で課題を出すので、次回授業前までに課題を提出する。授業最初に前回の課題の解説を行う。【ミニテスト】この繰り返される上記アクティブラーニング過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、フローチャート作成とプログラム基本構造の理解する。

##### 学修目標（到達目標）

1. 順次構造、選択構造、反復構造の基本構造を理解し、フローチャートを書くことができる。
2. 上記基本構造を利用して簡単なプログラムを作成することができる。
3. 課題で示された実行例と説明を見て、同様のプログラムを作成することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2 ビジネスと情報に関する実践方法      -2 柔軟性、行動判断

アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】【ミニテスト】

1	オリエンテーション
2	処理のシナリオを考える
3	シナリオ(分岐、繰り返し)
4	シナリオからフローチャート作成
5	プログラミング環境設定、コンパイル・実行から課題提出方法【ミニテスト】
6	プログラム作成と画面表示【ミニテスト】
7	int型変数の宣言と連結表示【ミニテスト】
8	変数(実数型、文字型、文字列型)と計算【ミニテスト】
9	キーボード入力と計算の応用【ミニテスト】
10	if文(if-else、if-else if-else)【ミニテスト】
11	if文の応用(論理演算とネスト)【ミニテスト】
12	while文、繰り返しフローチャート【ミニテスト】
13	do-while文、for文(繰り返し構文) フローチャート【ミニテスト】
14	配列とfor文【ミニテスト】
15	まとめ【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業開始前に前回の授業内容を確認し、前回の例題は作成できるようにしておく、また今回の授業内容を事前に読んでおく。(各回45分)

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次回までに行き提出しておく。(各回60分)

#### 評価方法および評価の基準

各授業回における授業・ワークへの取り組み(20%)と毎回の課題と期末のまとめ課題(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 授業・ワークへの取り組み(10%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (20%/80%)

到達目標 2. 授業・ワークへの取り組み(5%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (20%/80%)

到達目標 3. 授業・ワークへの取り組み(5%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (40%/80%)

【フィードバック】前回の課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。そのために前回最後の出された課題を次回までに行き提出しておくことと、授業開始前に前回の授業内容の確認、今回の授業内容を事前に読んでおくことが望ましい。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。授業中に学内ネットワーク上に提示とプリント配布

【推薦書】「新・明解Java入門編(第1版)」 柴田 望洋著 SoftBankCreative

【推薦書】「新・解きながら学ぶJava 入門編(第1版)」 柴田 望洋、由梨 かおる著 SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	プログラミング応用		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi361		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門選択科目であり、プログラミング学習の基礎に続く応用として位置づけられ科目となる。

##### 科目の概要

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、基礎的なプログラミングで学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ科目である。

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力に加えメソッド・クラスの基本を課題演習の繰り返しにより養う。

##### 授業方法 (ALを含む)

本科目では、各回の授業内容において、アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】毎回の授業で課題を出すので、次回授業前までに課題を提出する。授業最初に前回の課題の解説を行う。【ミニテスト】この繰り返される上記アクティブラーニング過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、必要な処理の流れを考えてプログラミングする力を修得する。

##### 学修目標 (到達目標)

1. 目的に応じて必要な処理の流れを考えることができる。
2. 入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングすることができる。
3. 課題で示された実行例と説明を見て、メソッド・クラスの基本的なプログラムを作成することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法
- 3 問題解決への活用
- 3 論理的思考

## 内容

アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】【ミニテスト】

1	オリエンテーション
2	Eclipse、計算、入出力復習【ミニテスト】
3	基本構文（if文、else if）、ネスト、論理演算、String比較の復習【ミニテスト】
4	基本構文（for文、while文、do-while文）【ミニテスト】
5	配列復習【ミニテスト】
6	復習まとめ
7	final変数、条件演算子、switch文、前置 後置、break文【ミニテスト】
8	for文多重ループ、多次元配列【ミニテスト】
9	メソッドの基本・メソッドの引数【ミニテスト】
10	メソッドの返却値・多重定義【ミニテスト】
11	メソッドの引数が配列・返却値が配列【ミニテスト】
12	メソッドまとめ
13	クラス基礎【ミニテスト】
14	クラス練習、コンストラクタ【ミニテスト】
15	クラスまとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業開始前に前回の授業内容を確認し、前回の例題は作成できるようにしておく、また今回の授業内容を事前に読んでおく。（各回45分）

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次回までに行き行って提出しておく。（各回60分）

## 評価方法および評価の基準

各授業回における授業・ワークへの取り組み(20%)と毎回の課題と期末のまとめ課題(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 授業・ワークへの取り組み(6%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (26%/80%)

到達目標 2. 授業・ワークへの取り組み(7%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (27%/80%)

到達目標 3. 授業・ワークへの取り組み(7%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (27%/80%)

【フィードバック】前回の課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。そのために前回最後の出された課題を次回までに行き行っておくことと、授業開始前に前回の授業内容の確認、今回の授業内容を事前に読んでおくことが望ましい。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に学内ネットワーク上に提示とプリント配布

【推薦書】「新・明解Java入門編（第1版）」 柴田 望洋著 SoftBankCreative。

【推薦書】「新・解きながら学ぶJava 入門編（第1版）」 柴田 望洋、由梨 かおる著 SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	プログラミング応用		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi361		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門選択科目であり、プログラミング学習の基礎に続く応用として位置づけられ科目となる。

##### 科目の概要

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、基礎的なプログラミングで学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ科目である。

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力に加えメソッド・クラスの基本を課題演習の繰り返しにより養う。

##### 授業方法（ALを含む）

本科目では、各回の授業内容において、アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】毎回の授業で課題を出すので、次回授業前までに課題を提出する。授業最初に前回の課題の解説を行う。【ミニテスト】この繰り返される上記アクティブラーニング過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、必要な処理の流れを考えてプログラミングする力を修得する。

##### 学修目標（到達目標）

1. 目的に応じて必要な処理の流れを考えることができる。
2. 入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングすることができる。
3. 課題で示された実行例と説明を見て、メソッド・クラスの基本的なプログラムを作成することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 ビジネスと情報に関する実践方法
- 3 問題解決への活用
- 3 論理的思考

## 内容

アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】【ミニテスト】

1	オリエンテーション
2	Eclipse、計算、入出力復習【ミニテスト】
3	基本構文（if文、else if）、ネスト、論理演算、String比較の復習【ミニテスト】
4	基本構文（for文、while文、do-while文）【ミニテスト】
5	配列復習【ミニテスト】
6	復習まとめ
7	final変数、条件演算子、switch文、前置 後置、break文【ミニテスト】
8	for文多重ループ、多次元配列【ミニテスト】
9	メソッドの基本・メソッドの引数【ミニテスト】
10	メソッドの返却値・多重定義【ミニテスト】
11	メソッドの引数が配列・返却値が配列【ミニテスト】
12	メソッドまとめ
13	クラス基礎【ミニテスト】
14	クラス練習、コンストラクタ【ミニテスト】
15	クラスまとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業開始前に前回の授業内容を確認し、前回の例題は作成できるようにしておく、また今回の授業内容を事前に読んでおく。（各回45分）

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次回までに行き行って提出しておく。（各回60分）

## 評価方法および評価の基準

各授業回における授業・ワークへの取り組み(20%)と毎回の課題と期末のまとめ課題(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 授業・ワークへの取り組み(6%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (26%/80%)

到達目標 2. 授業・ワークへの取り組み(7%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (27%/80%)

到達目標 3. 授業・ワークへの取り組み(7%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (27%/80%)

【フィードバック】前回の課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。そのために前回最後の出された課題を次回までに行き行っておくことと、授業開始前に前回の授業内容の確認、今回の授業内容を事前に読んでおくことが望ましい。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に学内ネットワーク上に提示とプリント配布

【推薦書】「新・明解Java入門編（第1版）」 柴田 望洋著 SoftBankCreative。

【推薦書】「新・解きながら学ぶJava 入門編（第1版）」 柴田 望洋、由梨 かおる著 SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	オブジェクト指向プログラミング		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi362		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門選択科目であり、プログラミング学習の基礎・応用に続く実用に即した学習として位置づけられ科目となる。

##### 科目の概要

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、これまで学んできたJava言語科目プログラミング基礎、プログラミング応用に続く科目である。本科目は単なるプログラム言語の学習から、システム開発を考えたプログラミングスキルの習得に入っていく科目である。

##### 授業方法 (ALを含む)

本科目では、各回の授業内容において、アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】毎回の授業で課題を出すので、次回授業前までに課題を提出する。授業最初に前回の課題の解説を行う。【ミニテスト】この繰り返される上記アクティブラーニング過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、必要な処理の流れを考えてプログラミングする力を修得する。

##### 学修目標 (到達目標)

本科目では、Java言語の最大の特徴であるオブジェクト指向プログラミングの書き方について学ぶ。前半は、これまでのJavaの復習を兼ねクラスの概念を学び、後半にオブジェクト指向について学ぶ。

1. コンストラクタ・メソッドを含んだクラスを作成することができる。
2. クラス型や配列型のフィールドを含んだクラスを作成することができる。
3. 継承を利用して多相性を使用することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3問題解決への活用

-3論理的思考

## 内容

アクティブラーニング形式の「出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す」過程を数回繰り返しながらスモールステップで授業を進める。【グループワーク】【ミニテスト】

1	オリエンテーション
2	for文・配列復習【ミニテスト】
3	多重ループ・多次元配列【ミニテスト】
4	メソッド復習、変数boolean型【ミニテスト】
5	配列を使うメソッドの復習【ミニテスト】
6	クラス復習【ミニテスト】
7	ゲッター・セッター・コンストラクタの復習【ミニテスト】
8	クラス型変数の代入・比較での注意点【ミニテスト】
9	クラス型変数とコンストラクタの注意点【ミニテスト】
10	クラスと配列、toStringメソッドとprintlnでの利用【ミニテスト】
11	クラスやクラス配列を含むクラス【ミニテスト】
12	メソッドまとめ
13	クラス利用まとめ
14	継承【ミニテスト】
15	多相性・多態性【ミニテスト】

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業開始前に前回の授業内容を確認し、前回の例題は作成できるようにしておく、また今回の授業内容を事前に読んでおく。(各回45分)

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次回までに行き行って提出しておく。(各回60分)

## 評価方法および評価の基準

各授業回における授業・ワークへの取り組み(20%)と毎回の課題と期末のまとめ課題(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 授業・ワークへの取り組み(6%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (26%/80%)

到達目標 2. 授業・ワークへの取り組み(7%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (27%/80%)

到達目標 3. 授業・ワークへの取り組み(7%/20%) 毎回の課題と期末のまとめ課題 (27%/80%)

【フィードバック】前回の課題の解答・質疑を次回最初に行き、理解を確かなものにする。そのために前回最後の出された課題を次回までに行き行くことと、授業開始前に前回の授業内容の確認、今回の授業内容を事前に読んでおくことが望ましい。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に学内ネットワーク上に提示とプリント配布

【推薦書】「新・明解Java入門編(第1版)」 柴田 望洋著 SoftBankCreative。

【推薦書】「新・解きながら学ぶJava 入門編(第1版)」 柴田 望洋、由梨 かおる著 SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	サーバサイドプログラミング		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHi363		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針 2, 3 に該当する。実務的コンピュータシステムで広く使われているWebシステム構築の基礎知識と技術を修得し、Web・プログラミング・データベース相互の応用力を身につけていく。

#### 科目の概要

今日の業務システムの基本となるWebシステムの実際を学び、オブジェクト指向やデータベースとの連携の方法について理解を深める。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

- 1 Webシステムの作成方法と基本的なシステムの流れを学ぶ。
- 2 Webシステム構築の基礎力を修得する。
- 3 Webシステムにおけるデータベースの活用方法を学ぶ。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	Webシステムの概要と開発環境
2	JSPとは
3	JSPの作成と連携
4	値の受け渡し
5	サーブレットとは
6	サーブレット処理の実際
7	JSPとサーブレットの連携 ( 1 )
8	JSPとサーブレットの連携 ( 2 )
9	データベースの操作
10	データベース活用 ( 1 )
11	データベース活用 ( 2 )

12	Webシステムの作成（１）
13	Webシステムの作成（２）
14	Webシステムの作成（３）
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。（60分）

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。（60分）

#### 評価方法および評価の基準

提出された課題(80%)と授業への取り組み(20%)により、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回用意されるプリントに従って授業を進める。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	システムプログラミング基礎		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	KHi264		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

情報システムの構築・管理・運用・活用に必要な知識・技術を獲得するため、現在も様々な環境で広く使用されているプログラミング言語を学ぶ。

#### 科目の概要

コンピュータの基本であるアドレスを直接操作可能な言語を使った実習を中心に行い、プログラムの動きを理解する。環境設定から始め、変数・処理・配列などを他の基礎演習と比較しながら学んでいく。その後続けて関数の作成、ポインタ、ファイル入出力などの応用を学び、システム構築に必要な基礎スキルを修得する。

#### 授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。実技の合間に、提示された問題を用いてグループワークを行い、復習や議論を通して理解を深め、確実なスキル修得につなげる。【実技】【グループワーク】

#### 到達目標

1. コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、開発環境を適切に利用できる。
2. プログラミングの基本概念を理解し、変数・基本構文を適切に使用できる。
3. 配列や関数のような共通かつ必須の項目を作成・使用することができる。
4. ポインタ・ファイル入出力のような応用的な概念を理解し、利用できる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 問題解決への活用
- 2 柔軟性、行動判断
- 3 論理的思考

内容

1	オリエンテーション、基礎知識、学内の情報システムと利用方法【実技】
2	環境設定、基本概念【実技】【グループワーク】
3	データの取り扱い：変数、文字列【実技】【グループワーク】
4	データの表示・入力【実技】【グループワーク】
5	繰り返し処理、複数項目の扱い【実技】【グループワーク】
6	多重ループ、多次元配列【実技】【グループワーク】
7	関数の作成、処理のブロック化【実技】【グループワーク】

8	前半のまとめ、基礎知識の確認【実技】【ミニテスト】
9	ライブラリ関数、組み込み機能の利用【実技】【グループワーク】
10	ポインタ、アドレスの操作【実技】【グループワーク】
11	引数のアドレス渡し、複雑なデータの扱い【実技】【グループワーク】
12	ポインタの戻り値、複雑なデータの扱い【実技】【グループワーク】
13	ファイル入出力、記録の保管【実技】【グループワーク】
14	ファイルを処理する関数：データ保存の応用【実技】【グループワーク】
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前回学んだことを使うことも多いため、これまでの内容を復習して理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】毎回出題する、実技に基づく課題を行い提出する。解答とその解説を元に未完の課題を再作成し、提出する。

（各授業に対して70分）

#### 評価方法および評価の基準

授業全体では各回・単元ごとの課題の提出（80%）と平常点（20%）とし、60点以上を合格とする。到達目標ごとの配分は次の通りとする。

1. 課題の提出（15%/80%）・平常点（5%/20%） / 2. 課題の提出（25%/80%）・平常点（5%/20%）
3. 課題の提出（25%/80%）・平常点（5%/20%） / 4. 課題の提出（15%/80%）・平常点（5%/20%）

【フィードバック】解説を兼ねた解答配布・説明を翌週以降に行う。それに基づいた再提出の機会を設け、各回の実技や課題を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴田 望洋、新・明解C言語 入門編、SoftBankCreative、2016

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	システムプログラミング応用		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	KHi364		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

情報システムの構築・管理・運用・活用に必要な知識・技術を獲得するため、基礎の知識に基づき、より高度なプログラミングの技法を学ぶ。

#### 科目の概要

多数の項目を扱えるよう、構造体の宣言・参照・ポインタ利用・入れ子と順に学ぶ。更に基本的なビット演算を扱えるようにし、計算機の構造理解や応用的な技術を学んでいく。

#### 授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。実技の合間に、提示された問題を用いてグループワークを行い、復習や議論を通して理解を深め、確実なスキル修得につなげる。【実技】【グループワーク】

#### 到達目標

1. コンピュータの基本構造を理解し、データを適切に管理できる。
2. プログラミングの基本概念を理解し、データの処理や扱いができる。
3. コンピュータ内部での基本的な計算処理の仕組みを理解し、実行できる。
4. 特殊な処理やデータの扱いなど、応用的な技法を理解し、使うことができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 問題解決への活用
- 4 課題設定・抽出・解決、論理的表現
- 3 論理的思考

内容

1	オリエンテーション、基礎知識、環境設定【実技】
2	基礎知識の確認：ポインタ、ファイル入出力【実技】【グループワーク】
3	構造体、複数のデータを扱う【実技】【グループワーク】
4	構造体のポインタ、データの受け渡し【実技】【グループワーク】
5	メンバとしての構造体、より複雑な構造へ【実技】【グループワーク】
6	ビット演算、情報基礎数学【実技】【グループワーク】
7	ビット操作、計算処理の実践【実技】【グループワーク】
8	マクロ、計算処理の組み込み機能【実技】【グループワーク】

9	前半のまとめ、知識の確認【実技】【ミニテスト】
10	再帰プログラム、計算処理と考え方【実技】【グループワーク】
11	ポインタポインタ、複雑なデータの扱い【実技】【グループワーク】
12	共用体、複雑なデータの扱い【実技】【グループワーク】
13	関数へのポインタ、処理の効率化【実技】【グループワーク】
14	メモリの動的確保、状況に応じた処理【実技】【グループワーク】
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前回学んだことを使うことも多いため、これまでの内容を復習して理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】毎回出題する、実技に基づく課題を行い提出する。解答とその解説を元に未完の課題を再作成し、提出する。（各授業に対して70分）

#### 評価方法および評価の基準

授業全体では各回・単元ごとの課題の提出（80%）と平常点（20%）とし、60点以上を合格とする。到達目標ごとの配分は次の通りとする。

1. 課題の提出（15%/80%）・平常点（5%/20%） / 2. 課題の提出（25%/80%）・平常点（5%/20%）
3. 課題の提出（25%/80%）・平常点（5%/20%） / 4. 課題の提出（15%/80%）・平常点（5%/20%）

【フィードバック】解説を兼ねた解答配布・説明を翌週以降に行う。それに基づいた再提出の機会を設け、各回の実技や課題を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴田 望洋、新・明解C言語 入門編、SoftBankCreative、2016

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	システム開発技法		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHi365		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針 2 に該当する。

プログラミング作業はシステムの開発の一部にすぎない。プログラミングの前には、要求分析、システム設計、プログラム設計の作業があり、さらに、プログラミングの後には、テストの作業がある。本科目では、システム開発の各作業について基礎的知識を習得する。

#### 科目の概要

ソフトウェアシステムにはどのようなシステムがあるかについて学び、そのシステムを開発するためにはどのようなステップが必要であり、それぞれでどのような作業が行われているのかを学ぶ。また、そのための技法や、ドキュメント作成の必要性についても学ぶ。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

- 1 システム開発を効率的に行うにはどのように作業がなされているかを学ぶ。
- 2 その中でどのような成果物が作成されているか、またその必要性について理解する。
- 3 将来、IT企業やSEを目指すための基礎的理解を深める。
- 4 授業ごとに行う練習問題を通じて、各自の理解の程度を確認し復習に活用する。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

1	IT技術とは
2	基礎理論
3	アルゴリズムとプログラミング

4	コンピュータ構成要素
5	ソフトウェア
6	ヒューマンインタフェース技術
7	データベース
8	ネットワーク
9	セキュリティ
10	システム開発技術
11	ソフトウェア開発管理技術
12	プロジェクトマネジメント
13	システム戦略
14	経営戦略マネジメント
15	企業活動

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。(60分)

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

中間テスト(30%)と期末テスト(50%)、および授業への取り組み姿勢を総合評価し、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に指定せず、授業ごとに使用するパワーポイントを授業前に印刷して持参すること。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

担当教員は、企業の研究所で研究を行ってきた。本科目は、最終的に4年生の卒業研究に続く。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科のゼミ領域に属する専門科目である。

生活情報ゼミは、3年次の演習・、4年次の卒業研究に向けての基礎学力を育成するのがねらいである。社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。

##### 科目の概要

自主的に研究する能力、問題を発見し解決していく能力、レポートにまとめ発表する能力を育成する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

- ・最終的に卒業研究に結び付けることができるテーマを設定することができる。
- ・テーマ設定のための基本的な技術と知識を身につけることができる。

##### 到達目標

自主的な学習の結果を定期的に行う進捗報告会で発表することにより、研究に関する基礎能力を養成することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 専門教育で習得した理論・方法を、実際の問題解決に活用していく方法を身につける。 -2 新しい知識・技術を自ら学ぶ態度を身につける。

#### 内容

学生ごとに興味のある分野に関して基礎知識を、学生が自主的に学習する。学習した成果を作品としてまとめ、プレゼンテーション、ディスカッションにより3年生での演習につなげていく。

1-10回 2D, 3Dゲーム作成環境Unity, またはJavaScriptの学習。その他のテーマを設定してもよい。

11-14UnityまたはJavaScriptを使った研究テーマの設定

15回 テーマ企画発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分で立てた学習計画に合わせて、授業毎の計画を事前に立てる。（各授業毎に45分）

【事後学修】自分で立てた学習計画に合わせて、時間外に作品制作等を行う。（各授業毎に90分）

#### 評価方法および評価の基準

課題発表の内容により、テーマ設定がうまくできているか、テーマ遂行に必要な基礎的な知識や技術が身についているかどうかを評価する。課題発表(約50点)、取り組み姿勢(約50点)などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。発表内容についてはフィードバックとしてコメントを行う。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テーマごとに適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

3年生の演習、4年生の卒業研究に続くテーマが望ましい。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門必修科目であり、演習 ・ 演習 ・ 卒業研究へと続くゼミナール形式の最初の科目である。

##### 科目の概要

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていく科目となる。ゲーム作成を通して設計から開発、テストまでを実際に行う内容と、世の中にある実際のデータを解析し、知識を抽出することの2つのテーマから選んで学んでいく。

2つのテーマに合わせ、ゲーム作成ではプログラミング言語の復習・ゲームの基本的な構造等を学ぶ。データ解析では、基本的な分析ツールを学ぶ。

##### 授業の方法 (ALを含む)

3・4年生を通して研究していく内容の大まかな方向を決め、その目標に向かって自分の研究工程やアプローチを明確にしていくことを到達目標とする。このことによって知識・スキルを深めることができ、また、就職後にも必須な計画の作成・遂行能力を身に着けることができる。【PBL】

##### 学修目標 (到達目標)

1. 自分の研究内容に合わせて、クラスを利用したプログラミングや、主成分分析・クラスター分析等を操作・利用できる。
2. 自分の研究内容を決め、研究計画を立案できる。
3. 自分の研究内容をわかりやすく工夫してプレゼンテーションできる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念
- 2 柔軟性、行動判断
- 2 主体的学修

## 内容

研究内容を決めていない学生にはゲーム作成・データ解析の両方の内容を下記のスケジュールで学ぶ。研究内容が明白な学生は、自分の目的に合わせて必要な内容を増やし集中的に学んでいく。【PBL】【プレゼンテーション】

1	オリエンテーション
2	プログラミング言語の復習（基本構文）
3	プログラミング言語の復習（メソッド）
4	プログラミング言語の復習（クラスの作成）
5	プログラミング言語の復習（継承）
6	中間発表【プレゼンテーション】
7	データマイニングの基礎的知識を獲得する（データの種類）
8	データマイニングの基礎的知識を獲得する（解析手法と使用データ）
9	データマイニングの基礎的知識を獲得する（主成分分析）
10	データマイニングの基礎的知識を獲得する（クラスター分析）
11	練習用データでの解析練習（主成分分析）
12	解析内容の発表【プレゼンテーション】
13	練習用データでの解析練習（クラスター分析）
14	解析内容の発表【プレゼンテーション】
15	総合課題【PBL】

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究計画に従い、事前準備をしておく。（各回60分）

【事後学修】研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。（各回60分）

## 評価方法および評価の基準

自分の研究目標に対しての取り組み（20%）、研究計画に対する達成度合いと発表点（80%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

到達目標 2. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(40%/80%)

到達目標 3. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示に対応し、研究方針を指示する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」のうち2年次後期の必修科目である。3年次の演習、演習、4年次の卒業研究の準備となる。

##### 科目の概要

社会調査や社会経済統計を確認しながら、わが国における生活者をめぐる諸状況を把握する。

##### 授業の方法（ALを含む）

「ゼミ卒研」科目のため、【グループワーク】による【プレゼンテーション】と【討議・討論】によって授業を進める。

##### 到達目標

社会調査や社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を読み解くための基礎的知識を習得し、説明できる。各府省庁で公開している白書等（年次報告書）に掲載されている社会調査や社会経済統計から、生活者のライフスタイルに関わるデータを読み解き、分析・評価したことを文章で表現できる。社会調査や社会経済統計に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1情報収集、判断、 -1興味・関心、主体性、 -3課題発見

#### 内容

社会調査や社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握するゼミナールにおいて、専門的な研究を進める上で前提となる基礎的な知識や技術を学修する。

中央省庁が所管の行政活動の現状、問題、対策そして将来の展望などを国民に知らせるために発行する白書には、政策決定の基礎資料となった社会調査や統計のデータが掲載されている。平成29年度には44種類が刊行されているが、その中から生活者（個人や家族）のライフスタイルに関わる、主として以下9種類の中から、受講生の関心をもとに選び精読する。

内閣府「子ども・若者白書」

内閣府「少子化社会対策白書」  
内閣府「高齢社会白書」  
内閣府「男女共同参画白書」  
消費者庁「消費者白書」  
厚生労働省「厚生労働白書」  
農林水産省「食育白書」  
国土交通省「観光白書」  
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」

第1回 白書の概要を学ぶ

第2回～第5回 各自が関心を持った白書を取り上げてデータを紹介する

第6回～第9回 各自が関心を持ったテーマに即して白書のデータを紹介する

第10回～第13回 白書のデータを使ったライフスタイルの考察（グループワーク）

第14回 白書のデータを使ったライフスタイルの考察（プレゼンテーション）

第15回 白書のデータを使ったライフスタイルの考察（レポートの書き方）

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業時の討論をもとに学期末レポートの準備をする（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

社会調査や社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を読み解くための基礎的知識を習得し、説明できる（平常点20%、レポート20%）。各府省庁で公開している白書等（年次報告書）に掲載されている社会調査や社会経済統計から、生活者のライフスタイルに関わるデータを読み解き、分析・評価したことを文章で表現できる（平常点10%、レポート20%）。社会調査や社会経済統計に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる（平常点10%、レポート20%）。平常点40%、レポート60%で、総合評価60 / 100点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】首相官邸のホームページで公開されている白書を使用する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

連絡なく遅刻・欠席すると、授業時のグループワークやプレゼンテーションが成り立たなくなるので、自覚をもって授業に臨んでください。

学期末レポートについては、Live Campusの授業連絡で通知します。ポータルサイトを使って、期限までにレポートを提出してください。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

バイヤーやマーケティングの実務の経験を有する教員が経験を生かして演習を行っている。主にマーケティングの応用の事例を掘り下げ、理論から実務への展開を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

生活情報学科 2 年次必修科目。

ゼミのメインテーマ (マーケティング、生活経済、ファッション) に関する知識を深めていきます。自主的に調査・研究する 計画的に情報をまとめていく 発表するという 3 つを円環的に行います。また、グループワークを通じて実社会への適応能力を育成することも目的とします。

#### 授業の方法

各自がテキストのまとめから問題及びその解決について発表・議論する。【プレゼンテーション】【討議・討論】

マーケティング理論の理解と商品開発の基礎習得できる。コミュニケーション能力を向上させることができる。情報発信者として生活に関わる様々な問題を把握し、知識獲得することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシー「 -1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念」「 -2柔軟性、行動判断」「 -2主体的学習」を育成することを目的とする。

#### 内容

3年次のゼミ研究に向けて、各自でテーマを選択しディスカッション形式で発表を行う。

課題について現状を調べ、問題点を抽出し、その問題点を解決する仮説を構築し、データを収集して検証を行っていきます。

地域連携として外部への作品提供、外部コンテストへのエントリーなど、プレゼンの機会が増えます。

1回：イントロダクション

2回～3回マーケティングの本質について

4回～6回市場での競争についてマーケティングの考え方の実践を紐解く

7回～10回顧客価値について - 顧客への新しい戦略についての実践から考察

11回～13回顧客価値の説得について、コミュニケーション・ミックスについて考察

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】ポートフォリオ作成を怠らない。(45分)

【事後学修】ポートフォリオ作成を怠らない。(45分)

評価方法および評価の基準

・マーケティング理論の理解と商品開発の基礎習得できる。レポート20%、平常点20%、  
・コミュニケーション能力を向上させることができる。レポート20%平常点10%、  
・情報発信者として生活に関わる様々な問題を把握し、知識獲得  
することができる。レポート20% 平常点10%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントや資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

ゼミ卒研のゼミ領域必修科目であり、卒業研究を進めるための基礎作りとして、問題発見・解決手法の概要を学ぶとともにゼミでの学習姿勢を身に付ける。

##### 科目の概要

データ解析 (統計解析・多変量解析) とオペレーションズリサーチの概要を学ぶとともに、適用事例等を調査する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

ディスカッションをはさみながら、輪講形式で資料を読み進める。【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート (表現)】

##### 到達目標

1. データ解析とオペレーションズリサーチの代表的な手法を理解し、使用することができる
2. 資料を熟読し簡潔にレポートにまとめ分かりやすくプレゼンテーションできる
3. 主体的・積極的な意見交換ができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念    -2 柔軟性、行動判断    -2 主体的学修

#### 内容

データ解析およびオペレーションズリサーチ (OR) について

- ・どのような手法があるのか
- ・どのようなデータが必要なのか
- ・結果はどのように解釈できるのか
- ・どのような問題に適用できるのか など

を学ぶ。授業計画は以下の通り。

- 1,2回：ゼミでの学び方

3,4回：データ解析・オペレーションズリサーチの概要

5-14回：代表的なデータ解析・OR手法（重回帰分析、主成分分析、判別分析、AHPなど）

15回：まとめ

5-14回の授業は輪講形式で行い、担当箇所をレポートにまとめ【レポート（表現）】、発表【プレゼンテーション】、ディスカッション【討議・討論】することにより、レポートの要件・まとめ方とプレゼンテーション技法等、これから卒業研究を進めていくための基礎スキルを身につける。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを精読し、疑問点はリストアップしておく。担当箇所については要点をレポートにまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。（各授業に対して平均90分）

【事後学修】授業内容を復習し、理解を深める。課題が出題された場合は期限までに提出する。（各授業に対して平均30分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. データ解析とオペレーションズリサーチの代表的な手法を理解し、使用することができる

発表：40% + 取り組み：5%

2. 資料を熟読し簡潔にレポートにまとめ分かりやすくプレゼンテーションできる

発表：20% + 取り組み：5%

3. 主体的・積極的な意見交換ができる

発表：10% + 取り組み：20%

発表：70% + 取り組み：30%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表およびそれに関するディスカッションについて授業時間内にコメント・解説するとともに関連論文や参考文献を紹介する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

輪講に用いる文献等は初回授業で指定する。

必要に応じて資料を配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

約40年に及ぶ企業経験（総合商社で、国際貿易実務経験、金融、子会社運営等を経験）に基づき、利益追求組織として成立して来た企業が、ある程度利益を割いても社会的な責任を問われる現代において企業の形態が様々に変化して来た事を実例をあげて教える。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、3年次の演習、4年次の卒業研究に向けての基礎知識の習得との位置づけである。

##### 科目の概要

企業に関する知識は授業と重複しない様に配慮し、主に現代の企業が直面している問題を取り上げます。そして参加者の自由活発な議論を通して、企業現場が抱える問題についての理解を深めます。

授業の方法（ALを含む）資料を基にした講義形式の授業が5回目まで。6回目以降は、整理した知識を基にしたゼミ内部での議論。この議論を通じて他人の意見も参考にした自分なりの考えを構築し、レポートにまとめる。

##### 到達目標

企業は利益を追求する組織として誕生したが、現在は様々な社会的な役割を期待されている事が理解できる。

現在の企業は、必ずしも利益に直結しない事もやらねばならない時代にきている事を理解する事ができる。

米意識の国や欧州では既に展開されているが日本ではまだ1件も実例が無い事業形態すら出現していて、世界の展開の速さを理解できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念 -2柔軟性、行動判断 -2主体的学修。

#### 内容

1回目～5回目までで、株式会社の経営者と株主の関係を組織、法律（会社法）などの側面から知識を整理する。6回目～12回目までは、企業のHN社会的行為と思われる事象につき調べると共に、80年代～90年代に企業の社会的責任が指摘されるに至る過程を議論する。講義に加えて議論形式でも現代企業の利益増加に結び付かない取り組みの実例を調査しながら学ぶ。13回目～15回目は、12回目までの議論を振り返り、株式会社でありながら利益増加に結び付かない取り組みをしたり、更に先を行く、B-CORPORATIONが出現してきた現実について、その背景にある考えを学び、ゼミ員同士で夫々が企業の理想型とは何かにつき議論を行う。議論を通じて他人の意見を頭に入れた上でレポートを作成する。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】配布資料の読み込みを行う（45分）

【事後学修】ゼミでの議論内容を反復し、次回議論にむけ自分の意見を整理する（45分）

#### 評価方法および評価の基準

授業参加度（議論・討論への参加）を40点、期末レポートを60点とし、総合評価60点以上で合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜プリント等を配布する。

参考書籍等については必要に応じて授業内で指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ビジネス関係に興味のある人たちが集まるのだから、是非とも日頃思う事、感じる事を発言し、ゼミ内部での活発な議論を期待します。



科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針1,2,3に該当する。

卒業研究を進めるための基礎作りとして、問題発見・解決手法の概要を学ぶとともにゼミでの学習姿勢を身に付ける

##### 科目の概要

テキストを輪講形式で読み進め、ヒューマンインタフェースとマルチメディアの概要を学ぶとともに、適用事例を調査する。

##### 授業の方法 (ALを含む)

個人ごとにテーマを設定し、研究活動を進める

##### 到達目標

ヒューマンインタフェース, マルチメディアの基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力が習得できる。

ヒューマンインタフェース, マルチメディアの基礎知識把握と発展的拡充ができる。

効果的なプレゼンテーション・スキルを向上するとともに積極的に議論に参加できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 1 問題解決のため基本的な実践方法
- 1 論理的思考
- 1 課題発見

#### 内容

テキストの輪講や事例調査を通して、ヒューマンインタフェースおよびマルチメディアについて

- ・どのような手法があるのか
- ・必要なデータ
- ・結果の解釈のポイント
- ・どのような問題に適用できるのか など

を学ぶ。さらに担当箇所をレポートにまとめ、発表、ディスカッションすることにより、レポートの要件・まとめ方とプレゼンテーション技法等、これから卒業研究を進めていくための基礎スキルを身につける。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを精読し、疑問点はリストアップしておく。担当箇所については要点をレポートにまとめ、プレゼン

テーション資料を作成する。(各授業に対して平均150分)

【事後学修】授業内容を復習し、理解を深める。課題が出題された場合は期限までに提出する。(各授業に対して平均90分)

#### 評価方法および評価の基準

評価 ヒューマンインタフェース, マルチメディアの基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力が習得できる。(レポート20%、平常点20%)

ヒューマンインタフェース, マルチメディアの基礎知識把握と発展的拡充ができる。(レポート20%、平常点10%)

効果的なプレゼンテーション・スキルを向上するとともに積極的に議論に参加できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 発表およびそれに関するディスカッションについて授業時間内にコメント・解説するとともに関連論文や参考文献を紹介する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

テキストは初回授業で指定する。

必要に応じて資料を配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	鹿又 伸夫		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

なし

#### 実務経験および科目との関連性

なし

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 生活情報学科のゼミ卒業研究科目 (必修科目) である。

科目の概要 社会学の基礎的な概念や重要な知見を学修する。授業前半では、日本での結婚をめぐる現状に関する題材を扱う。授業後半では受講生の関心にもとづいた分野・題材を選んで取り上げる。

授業の方法 (ALを含む) 指定したテキストについて、2~3名程度のグループごとに担当した章について概要を説明し、疑問点・問題点・批判点を報告しする。さらに報告にもとづきながらディスカッションする。【グループワーク】【プレゼンテーション】【討議・討論】

到達目標 社会の現状を表すデータや情報を客観的に評価する力をつける。なぜそのような現状が現れているかについて、人々の意識・行動や制度的構造という観点から論理的に推論できる。他の人の意見に耳を傾けて整理しながら、自分の意見を積極的に、フォーマルな話し方で発言できる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 ビジネスと情報に関する基本的理論・概念、 -2 柔軟性、行動判断、 -2 主体的学修

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2回 報告・プレゼンテーションのしかた

第3回~第8回 指定したテキストで、「結婚をめぐる現状」「なぜ結婚が必要なのか」「近代社会と結婚」「戦後日本の結婚状況」「近代的結婚の危機」「結婚困難社会」などについて学修し、討議・議論する。

第9~14回 受講生の関心にしたがってテキストを選択し、報告・プレゼンテーションと、討議・議論を行う。

第15回 まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストを読み、その内容を整理し、自分の意見をまとめる。報告担当のグループは報告内容を検討し、プレゼンテーション用資料を作成する。[60分]

【事後学修】授業で議論された内容、プレゼンテーションの反省点を確認する。[45分]

#### 評価方法および評価の基準

データの客観的評価、論理的推論、積極的発言についてそれぞれ概ね3分の1とし、報告内容(30%)、レポート(報告資料を含む)(30%)、ディスカッションへの参加度(40%)として、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】授業で、報告内容とプレゼンテーションについてコメントする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】山田昌弘『結婚不要社会』朝日新書(750円+税)。他のテキストについては授業で指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	見吉 英彦		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科2年後期の必修科目である。3年次の「演習」、4年次の「卒業研究」につなげるために経営学に関する基本的な知識や理論・考え方を学ぶ。

##### 科目の概要

経営学分野についての理解を深め、自ら課題を発見し、解決する力を身につけていく。

##### 授業の方法

教科書の輪読と教科書の内容に基づくグループでの発表と議論とを中心に進める。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

経営学における基本的な知識や考え方を理解し、説明できる。

自らの興味・関心に基づいて課題を発見し、解決のための方法などを説明できる。。

グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

##### ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2柔軟性、行動判断      -2主体的学修

#### 内容

第1回：オリエンテーション

第2回～第7回：教科書を輪読していく。（内容は、主に経営戦略論）

担当者は各章の内容をまとめ、発表する。発表内容を基にディスカッションを行う。

第8回：中間のまとめ

第9回～第14回：教科書を輪読していく。（内容は、主に組織論）

担当者は各章の内容をまとめ、発表する。発表内容を基にディスカッションを行う。

第15回：全体のまとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】発表担当者：担当の章の内容をまとめ、発表用資料を作成する。

発表担当者以外：教科書を読み、ノートにまとめる。(各授業で60分)

【事後学修】授業で扱った内容やディスカッションについて、ノートにまとめる。(各授業で60分)

## 評価方法および評価の基準

1.経営学における基本的な知識や考え方を理解し、説明できる。

(発表内容；20% 議論への参加度：5% 学習内容をまとめたノート：5%)

2.自らの興味・関心に基づいて課題を発見し、解決のための方法などを説明できる。

(発表内容；15% 議論への参加度：15% 学習内容をまとめたノート：15%)

3.グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

(発表内容；5% 議論への参加度：15% 学習内容をまとめたノート：5%)

発表内容(40%)、議論への参加度(35%)、学習内容をまとめたノート(25%)を評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】議論や提出物に対するフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書については、初回授業時に紹介する。

参考資料等は適宜、紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回授業時に内容等に関する詳細を説明します。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科2年後期の必修科目である。3年次の「演習」、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

##### 科目の概要

カリキュラムで設定されている情報関連分野について理解を深め、自主的に問題解決する力を身につけていく。

##### 授業の方法

グループでの議論を中心に進める。必要に応じてコンピュータの演習を行う。

##### 到達目標

- (1)学修体系を解釈でき、各自で問題点を発見し、述べることができる。
- (2)問題解決に向けて、グループ内でコミュニケーションする。
- (3)解決の手段を選択し応用、工夫することができる。
- (4)問題解決に向け協調できる。

##### ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念    -2柔軟性、行動判断    -2主体的学修

#### 内容

生活情報学科2年後期カリキュラムが網羅する分野において、自分なりの問題点を把握する。それらの問題をグループで共有し、解決法を議論する。議論した解決方法に関する資料を集め、解決方法を実践する。

1週 ゼミ進行を確認する。

2-5週 2年生後期カリキュラムを分析し、各自問題点を把握する

6-7週 各自問題点をゼミメンバーで共有し、解決方法を議論する

8-9週 各自問題解決に向けて、必要な情報を検索、関連書籍を調べる。

10-14週 各自で問題解決に向け学習・作業を進めると同時に、問題解決に向けて適宜ゼミナールの中でコミュニケーションを行う。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前に関連情報を検索する。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った内容について、学習カードにまとめる。(各授業で60分)

#### 評価方法および評価の基準

自分の取り組みを学習カードに記入していく。

到達目標(1) 学習への取り組み(10点/100)

到達目標(2) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(20点/100)

到達目標(3) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(30点/100)

到達目標(4) 議論への参加度(20点/100)

以上の配分で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する。各自のテーマによる。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	演習		
担当教員名	鹿又 伸夫		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

なし

#### 実務経験および科目との関連性

なし

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 生活情報学科のゼミ卒業研究科目 (必修科目) である。

科目の概要 結婚・家族形成・離婚に関する日本の現状そして国際比較を扱うテキストを使用しながら、女性のライフコースを考える。また社会科学の基礎的な概念や重要な知見を学修する。

授業の方法 (ALを含む) 指定したテキストについて、2~3名程度のグループごとに担当した章について概要を説明し、疑問点・問題点・批判点を報告する。さらに報告にもとづきながらディスカッションする。【グループワーク】【プレゼンテーション】【討議・討論】

到達目標 社会の現状を表すデータや情報を客観的に評価する力をつける。なぜそのような現状が現れているかについて、人々の意識・行動や制度的構造という観点から論理的に推論・説明できる。他の人の意見に耳を傾けて整理しながら、自分の意見を積極的に、フォーマルな話し方で発言できる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -4 課題設定・抽出・解決、論理的表現、 -3 論理的思考、 -2 主体的学修

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2回 報告・プレゼンテーションのしかた

第3回~第14回 指定したテキストを使用しながら、「結婚に何を求めているのか/求められるのか」「出会いと結婚相手」「出生体重と子どもの人生」「母乳育児のメリット?」「育児休業制度の国際比較」「育休と子どもの発達」「育休と家族のライフスタイル」「幼児教育の効果」「家庭環境と子どもの発達」「保育園と母親の幸福度」「3組に1組が離婚するのか?」「離婚が子どもにおよぼす影響」などについて学修し、討議・議論する。

第15回 まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】テキストを読み、その内容を整理し、自分の意見をまとめる。報告担当のグループは報告内容を検討し、プレ

ゼンテーション用資料を作成する。[60分]

【事後学修】授業で議論された内容、プレゼンテーションの反省点を確認する。[45分]

#### 評価方法および評価の基準

データの客観的評価、論理的推論、積極的発言のそれぞれについて概ね3分の1とし、報告内容(30%)、レポート(報告資料を含む)(30%)、ディスカッションへの参加度(40%)として、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】授業で、報告内容とプレゼンテーションについてコメントする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書(820円+税)

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	見吉 英彦		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科3年前期の必修科目である。後期の「演習II」、4年次の「卒業研究」につなげるために経営学に関する知識や理論・考え方をより深く学ぶ。

##### 科目の概要

経営学分野についての理解をさらに深め、自ら課題を発見し、解決する力を身につけていく。

##### 授業の方法

グループごとに企業経営に関する課題を自ら設定し、発表してもらう。その内容を基に議論を行う。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

経営学における知識や考え方をより深く理解し、説明できる。

自らの興味・関心に基づいて課題を発見し、解決のための方法などを説明できる。

グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

##### ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2柔軟性、行動判断      -2主体的学修

#### 内容

演習 では、グループごとに企業経営に関する課題を自ら設定し、発表してもらう。

発表内容を基にディスカッションを行う。

第1回：オリエンテーション

第2回～第5回：問題設定と情報収集・分析

第6・7回：発表

第8回：発表 を終えて

第9回～第12回：問題設定と情報収集・分析

第13・14回：発表

第15回：発表 を終えて・全体のまとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】グループごとに集まり、発表用資料を作成する。(各授業で90分以上)

【事後学修】各グループの発表内容やディスカッションについて、ノートにまとめる。(各授業で60分)

#### 評価方法および評価の基準

1.経営学における知識や考え方をより深く理解し、説明できる。

(発表内容：20% 議論への参加度：5% 学習内容をまとめたノート：5%)

2.自らの興味・関心に基づいて課題を発見し、解決のための方法などを説明できる。

(発表内容：15% 議論への参加度：15% 学習内容をまとめたノート：15%)

3.グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

(発表内容：5% 議論への参加度：15% 学習内容をまとめたノート：5%)

発表内容(40%)、議論への参加度(35%)、学習内容をまとめたノート(25%)を評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】議論や提出物に対するフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回授業時に詳細を説明します。

科目名	演習		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業在職時に研究を主体に業務を行ってきた。本科目は4年生の卒業研究につながる内容であり、研究の進め方について実践的に伝えていく。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科のゼミ領域に属する専門科目である。

社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力が求められている。生活情報ゼミで学習した内容を基礎にして、自主的な計画を立てて、演習、4年生の卒業研究につながる研究を行う。

##### 科目の概要

マルチメディアサービス、ゲーム、通信サービス、セキュリティサービス、などをテーマとして、学生が主体的にテーマ設定を行い、研究する手法を体得する。卒業研究に向けた準備として、作品制作等を行う。

##### 授業の方法 (ALを含む)

学生が設定したテーマに基づき主体的に計画を立て、作品制作を進める。

##### 到達目標

- ・研究計画を立案することができる。
- ・研究内容を発表し、他人に研究内容の価値を説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 専門教育で習得した理論、方法を用いて、自らテーマを設定し、課題を抽出・解決し結論を導き、論理的に表現できる。
- 2 新しん知識や技術を自ら学ぶ態度を身につける。

#### 内容

4年生の卒業研究に向けた準備を行う。具体的なテーマは学生の興味に合わせて決定する。設定したテーマについて、研究の目的と位置づけを明確にして、学生が主体的に進める形式で行う。設定するテーマの分野の例として、次のようなものがある。

1. WebページやWebサービス
2. ゲーム (2D, 3D)

### 3. 3Dモデリング

### 4. その他のアプリケーションサービス

1	テーマの設定
2	研究計画の策定
3	予備制作
4	予備制作
5	発表
6	作品制作
7	作品制作
8	作品制作
9	作品制作
10	発表
11	作品制作
12	作品制作
13	作品制作
14	作品制作
15	発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】個々のテーマに合わせて、授業回毎の計画を立てる。（各授業に対して45分）

【事後学修】個々のテーマに合わせて、授業時間内でできなかったことを行う。（各授業に対して90分）

#### 評価方法および評価の基準

進捗報告の発表内容により、研究計画および研究の価値を正しく理解し他人に説明することができるかどうかを評価する。定期的に行う進捗報告会での発表内容を100点満点で評価し、平均点が60点以上を合格とする。発表内容については、フィードバックとしてコメントを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマごとに適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習，卒業研究に続くテーマが望ましい。

科目名	演習		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門必修科目であり、生活情報ゼミで得た知識・技術を発展させ演習 ・卒業研究へと繋げていく科目である。

##### 科目の概要

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていく科目となる。ゲーム作成を通して設計から開発、テストまでを実際に行う内容と、世の中にある実際のデータを解析し、知識を抽出することの2つのテーマから選んで学んでいく。

2つのテーマに合わせ、ゲーム作成ではゲームの基本的な設計を行い作成していく。データ解析では、データの収集・入力から基本的な分析へと進む。

##### 授業の方法 (ALを含む)

自分で建てた研究目標に向かって自分の研究工程を明確にし、それに沿って研究を進めていく。このことによって知識・スキルを深めるとともに自分で考え結果を出していく。【PBL】

##### 学修目標 (到達目標)

1. 自分の研究内容に合わせて、必要な情報を収集し・利用できる。
2. 自分の研究内容で解決すべき問題点を発見し、研究計画の修正が必要な時は計画を修正できる。
3. 自分の研究内容をわかりやすく工夫してプレゼンテーションできる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 4 課題設定・抽出・解決、論理的表現
- 4 創造力
- 2 主体的学修

#### 内容

自分の研究目的に合わせて必要な内容を増やし集中的に学んでいく。特に自分で研究計画を立て、研究計画に沿って進めていく。また、その過程で生じる新たな疑問や興味に対しても積極的に追及する。【PBL】【プレゼンテーション】

1	オリエンテーション
2	各自研究分野の検討【PBL】
3	各自研究分野の現状調査【PBL】
4	各自研究分野の計画検討【PBL】
5	各自研究分野の計画作成【PBL】
6	研究計画発表会【プレゼンテーション】
7	研究計画発表会【プレゼンテーション】
8	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
9	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
10	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
11	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
12	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
13	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
14	研究成果報告会【プレゼンテーション】
15	研究成果報告会【プレゼンテーション】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究計画に従い、事前準備をしておく。（各回60分）

【事後学修】研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。（各回60分）

#### 評価方法および評価の基準

自分の研究目標に対する取り組み（20%）、研究計画に対する達成度合いと発表点（80%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

到達目標 2. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(40%/80%)

到達目標 3. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示に対応し、研究方針を指示する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年		ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

生活情報学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。卒論作成に向けて経済学の基礎を学習する。

科目の概要

基礎的な文献や新聞雑誌などを輪読し、ディスカッションを通して相互理解を深める。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

経済学について基礎的な知識を深め、討論できる能力の養成を図る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

日本経済に関する基本的文献や新聞、雑誌等を通して、討論する。また、日本銀行、東京証券取引所などを通して、現実の経済に触れる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】政治や経済の新聞、テレビなどの報道を調べる。(各授業に対して30分)

【事後学修】演習でのディスカッションを踏まえ、さらに詳しく調査する。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

平常点や授業内討論 (50%)、演習でのプレゼンテーション(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】特に指定しない。

【参考図書】授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

メーカーでのマーケティング実務経験を有する教員がキャリアを生かした視点を交えながら、演習を構築している。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科3年次必修科目。

##### 科目の概要

2年次でのゼミを発展させ、マーケティングに関する実例をテキストと企業訪問などから理解を深めていきます。

##### 授業の方法 (ALを含む)

マーケティングのテキストを輪読しながら、理論と実例をディスカッションしていく。そのうえで、実際のマーケティング戦略に向けた構想をグループで構築していく。

##### 到達目標

商品開発の実例を学ぶことができる。大学マーケティングコンテストなどに応募できる基礎力を構築できる。ゼミ全員のコミュニケーション力を向上させることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシー「 -2ビジネスと情報に関する実践方法」「 -2柔軟性、行動判断」「 -2主体的学習」を目的とする。

#### 内容

ディスカッション形式で学びを深めていく。

1回 イン트로ダクション

2回～3回 文房具メーカーとの商品開発

4回 これまでのアイデアの再検討-文房具メーカー社長との意見交換

5回～7回 アイディアを絞り込んで試作品を決定する。

8回～11回 マーケティング・プロモーションの改善点について考察 アンケート実施

12回～14回 マーケティング・プロモーションのまとめ

## 15回 文房具の合同企画展に参加

### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストに出てきた「学術用語」について調べ、A4・1枚にまとめておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業で学んだ理論を見直し、説明できるようにしておくこと（各授業に対して45分）。

### 評価方法および評価の基準

商品開発の実例を学ぶことができる。レポート20%平常点20%、ゼミ全員のコミュニケーション力を向上させることができる。平常点30% ・大学マーケティングコンテストなどに応募できる基礎力を構築できる。発表20%、平常点10%、

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

前期のテキスト：『1からのマーケティング・デザイン』石井淳蔵他編著、中央経済社

### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

ゼミ卒研のゼミ領域必修科目であり、生活情報ゼミに続く卒業研究の準備段階の科目と位置付けられる。課題解決手法の実践・応用を学修するとともに、卒業研究テーマについて検討する。

##### 科目の概要

生活情報ゼミで概要を学んだデータ解析・オペレーションズリサーチの代表的な手法の実践的な活用方法を演習を通して身に付ける。また、文献調査により応用例事例等の情報を集め、卒業研究のテーマについて検討する。

##### 授業の方法（ALを含む）

予め設定したいくつかの課題について、ディスカッション等しながら適切な手法を選択し、必要なデータ・情報を集め、選択した手法を適用し、その結果をレポートにまとめて発表する。【PBL】【実技】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

##### 到達目標

1. 課題に応じて必要な手法を選択して解決に応用できる
2. 卒業研究を進めるプロセスを経験する
3. 卒業研究テーマについて検討し立案する

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 問題解決への活用      -3 論理的思考      -3 課題発見

#### 内容

生活情報ゼミで学んだ課題解決手法の概要を振り返りながら、代表的な手法について詳細を学ぶとともに、課題演習を通して卒業研究と同じ以下のプロセスを経験し実践力を養う。【PBL】【実技】

- ・仮説の設定
- ・仮説の検証方法と必要なデータの検討
- ・データ収集

- ・仮説検証
- ・考察
- ・レポート作成【レポート（表現）】
- ・発表【プレゼンテーション】

また、卒業研究のテーマについて検討し発表【プレゼンテーション】、ディスカッション【討議・討論】する。授業計画は以下の通り。

- 1,2回：データシートの作成・効率的な集計
- 3-7回：課題演習1：重回帰分析
- 8-12回：課題演習2：主成分分析
- 13-15回：卒業研究テーマの検討

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】各手法の概要について復習しておく（各授業に対して平均45分）
- 【事後学修】課題を提出期限までに提出する（各授業に対して平均90分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 課題に応じて必要な手法を選択して解決に応用できる  
課題・発表：35% + 取り組み：10%
2. 卒業研究を進めるプロセスを経験する  
課題・発表：25% + 取り組み：10%
3. 卒業研究テーマについて検討し立案する  
課題・発表：10% + 取り組み：10%

課題・発表：70%、取り組み：30%とし、総合的評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題・発表・ディスカッションについてコメント・解説するとともに、必要に応じて参考文献の紹介や補習（個別ゼミ）を行う

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科3年前期の必修科目である。後期の「演習II」、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

##### 科目の概要

カリキュラムで設定されている情報関連分野について理解を深め、自主的に問題解決する力を身につけていく。

##### 授業の方法

グループでの議論を中心に進める。必要に応じてコンピュータの演習を行う。

##### 到達目標

問題解決の手段を選択し応用できる。問題解決に必要な情報、書籍等を検索できる。問題解決に向けて関連情報を理解し、それに関してコミュニケーションできる。

##### ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3問題解決への活用    -1情報収集、判断    -2主体的学修

#### 内容

生活情報学科3年前期カリキュラムが網羅する分野において、自分なりの問題点を把握する。それらの問題をグループで共有し、解決法を議論する。議論した解決方法に関する資料を集め、解決方法を実践する。

また、興味ある分野についてより進んだ学修をする。

1週 ゼミ進行を確認する。

2-5週 2年生後期カリキュラムを分析し、各自問題点を把握する

6-7週 各自問題点をゼミメンバーで共有し、解決方法を議論する

8-9週 各自問題解決に向けて、必要な情報を検索、関連書籍を調べる。

10-14週 各自で問題解決に向け学習・作業を進めると同時に、問題解決に向けて適宜ゼミナールの中でコミュニケーションを行う。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前に関連情報を検索する。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った内容について、学習カードにまとめる。(各授業で60分)

## 評価方法および評価の基準

自分の取り組みを学習カードに記入していく。

到達目標(1) 学習への取り組み(10点/100)

到達目標(2) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(20点/100)

到達目標(3) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(30点/100)

到達目標(4) 議論への参加度(20点/100)

以上の配分で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に紹介する。各自のテーマによる。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

##### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

演習Iは、生活情報ゼミに引き続き、ヒューマンインタフェース、マルチメディアの考え方を幅広く検討し、課題発表等を通じて考察力、分析力、さらには問題解決能力等を習得する科目である。また、演習Iは、翌年の卒業研究へのステップとして位置付け、テーマ設定、研究計画等、卒業研究の準備も行う。

##### 科目の概要

生活情報ゼミに引き続き、ヒューマンインタフェース、マルチメディアの基礎力の確認、検討を行う。課題発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して各自、選択可能なテーマの中から発表を行う。課題はヒューマンインタフェース、マルチメディアの範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。

##### 授業の方法 (ALを含む)

個人ごとにテーマを設定し、研究活動を進める。

##### 到達目標

ヒューマンインタフェース、マルチメディアの基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力が習得できる。

ヒューマンインタフェース、マルチメディアの基礎知識把握と発展的拡充ができる。

効果的なプレゼンテーション・スキルを向上するとともに積極的に議論に参加できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 問題解決のため応用的な実践方法
- 2 論理的思考
- 2 課題発見

#### 内容

この授業は発表を中心に、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

演習Iの具体的内容は以下のとおりである。演習Iは生活情報ゼミの内容をさらに発展させヒューマンインタフェース、マルチメディアを想定したテーマを課題に取り組んでいく。課題の発表方法は生活情報ゼミと同様にボリュームにより単独、グループの場合があるが、発表は既定のフォーマットを用いて全員で評価、ディスカッションを行う。ゼミの後半では次年度の卒業研究に向け、テーマ設定や論構成、執筆計画等の卒業研究執筆手順についても指導する。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと。(各授業に対して150分)

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと。(各授業に対して90分)

## 評価方法および評価の基準

評価 ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力が習得できる。(レポート20%、平常点20%)

ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎知識把握と発展的拡充ができる。(レポート20%、平常点10%)

効果的なプレゼンテーション・スキルを向上とともに積極的に議論に参加できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック レポートは翌週以降の授業内で返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

【推薦書】

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」の3年次前期必修科目である。2年次後期の生活情報ゼミでの成果を踏まえ、3年次後期の演習へと発展させる。

##### 科目の概要

社会調査や社会経済統計を使って生活者（個人や家族）の動向を把握する研究書を取り上げて輪読し、実証研究の方法を学習する。これによって、自らの研究関心を明らかにし、実証研究による卒業研究のテーマを策定する。

##### 授業の方法（ALを含む）

「ゼミ卒研」科目のため、【グループワーク】による【プレゼンテーション】と【討議・討論】によって授業を進める。

##### 到達目標

社会調査のデータや社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握し、説明できる。社会調査のデータや社会経済統計を分析して、文章で表現できる。社会調査データや社会経済統計に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4課題設定・抽出・解決、論理的表現、 -1情報収集、判断、 -1興味・関心、主体性

#### 内容

NHK放送文化研究所では、1973年から5年ごとに「日本人の意識」を継続調査しており、2018年には第10回調査が実施された。この45年間の蓄積データから、日本人の意識にみる時代変化、世代変化が読み取れる。本科目では、NHK放送文化研究所編（2020）『現代日本人の意識構造』（第9版）をテキストとし、毎時間レポーターが内容をプレゼンテーションする。レポーター以外の者は問題点を指摘し、ディスカッションに参加する。このテキストの輪読をもとに、各自の卒業研究のテーマを設定する。

スケジュールは、以下のとおりである。

## 第1回 ガイダンス

- 第2回 序章 - 1「日本人の意識」とは / 2「日本人の意識」調査の基本設計 / 3分析方法
- 第3回 男女と家庭のあり方 - 1結婚観 / 2子どもをもつこと / 3婚前交渉について
- 第4回 男女と家庭のあり方 - 4夫婦の姓 / 5理想の家庭 / 6家庭と仕事
- 第5回 男女と家庭のあり方 - 7夫の家事 / 8子どもの教育 / 9父親のあり方 / 10老後の生き方
- 第6回 政治 - 1政治に対する態度 / 2結社・闘争性 / 3政治課題 / 4政党支持態度
- 第7回 国際化・ナショナリズム・宗教 - 1国際化の現状と意識 / 2日本に対する愛着 / 3日本に対する自信
- 第8回 国際化・ナショナリズム・宗教 - 4天皇に対する感情 / 5信仰・信心 / 6宗教的行動
- 第9回 仕事と余暇 - 1理想の仕事 / 2仕事と余暇 / 3余暇の使い方
- 第10回 日常生活 - 1側面別の満足感 / 2生活全体の満足感 / 3生活充実の手段
- 第11回 日常生活 - 4貯蓄・消費態度 / 5欠かせないコミュニケーション行動
- 第12回 生き方・生活目標 - 1人間関係 / 2能率が情緒か / 3生活目標
- 第13回 終章 - 1四五年で変わったこと・変わらなかったこと / 2世代ごとにみた特徴
- 第14回 卒業研究のテーマ設定 1 問題提起
- 第15回 卒業研究のテーマ設定 2 キーワード

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業時の討論の成果を整理する（各授業に対して60分）。

## 評価方法および評価の基準

社会調査のデータや社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握し、説明できる（平常点20%、レポート10%）。社会調査のデータや社会経済統計を分析して、文章で表現できる（平常点10%、レポート20%）。社会調査データや社会経済統計に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる（平常点20%、レポート20%）。平常点50%、レポート50%として、総合評価60 / 100点以上を合格とする。レポートは添削してフィードバックする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】NHK放送文化研究所編（2020）『現代日本人の意識構造』（第9版）NHKブックス（本体1,500円）

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

連絡なく遅刻・欠席すると、授業時のグループワークやプレゼンテーションが成り立たなくなるので、自覚をもって授業に臨んでください。

学期末レポートについては、Live Campusの授業連絡で通知します。ポータルサイトを使って、期限までにレポートを提出してください。

科目名	演習		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

総合商社で約40年の国際貿易実務、事業投資、子会社運営等で幅広い業界との接点があり、事業投資関連では企業分析等も行ってきた。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、4年次の卒業研究に向けてのファーストステップとして、3年次前期に演習として実地調査を含め、卒業研究等に関する基礎能力を育成する科目である。

##### 科目の概要

調査対象業界全般に係る動向調査、決算報告書等の資料収集と実態調査を行い、データの整理を行う。

##### 授業の方法（ALを含む） 討論とプレゼンテーション

##### 到達目標

決算報告書、財務諸表等を読む力をつけられる。

企業の利益の源泉が何処にあるのかを分析する力をつけられる。

企業の発展とは何かについて自己の考えを形成できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念 -1情報収集・判断 -2主体的学修

#### 内容

演習の具体的内容は以下のとおりである。1回目はオリエンテーションとし15回の授業の全般を掴む。2回目～5回目で決算報告書、財務諸表の見方を講義形式で学ぶ。6回目～10回目までが対象業界と対象企業の調査と分析。11回目～14回目が個々の調査・分析結果につき発表と議論をする。15回目は総括とレポート提出。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】配布資料の熟読と自分の意見の整理。（45分）

【事後学修】他人の意見について反芻し、自分の論点を補強する。（45分）

#### 評価方法および評価の基準

ディスカッションにおける論旨の明確さ説得力並びに提出レポートにて評価。提出レポートが60%、ディスカッションが40%の配分。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ、授業内で指示する。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	鹿又 伸夫		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

なし

#### 実務経験および科目との関連性

なし

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 生活情報学科のゼミ卒業研究科目 (必修科目) である。

科目の概要 社会学の幅広い領域について理解を深めながら、卒業研究に向けて自分の関心と研究テーマを絞っていく。また自分の関心と研究テーマに関する論文を調べ、基本的な知見と理論・仮説を学修する。

授業の方法 (ALを含む) 受講生の関心を考慮して選定したテキストについて、2~3名程度のグループごとに担当した章について概要を説明し、疑問点・問題点・批判点を報告する。さらに報告にもとづきながらディスカッションする。  
【グループワーク】【プレゼンテーション】【討議・討論】

到達目標 社会の現状を表すデータや情報を客観的に評価する力をつける。なぜそのような現状が現れているかについて、人々の意識・行動や制度的構造という観点から論理的に推論・説明できる。他の人の意見に耳を傾けて整理しながら、自分の意見を積極的に、フォーマルな話し方で発言できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係 生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。  
。 -4 課題設定・抽出・解決、論理的表現、 -3 論理的思考、 -2 主体的学修

#### 内容

第1回 オリエンテーション

第2回~第14回 受講生の関心と卒業研究の準備を考慮してテキストを選定して、グループごとの報告とそれにもとづいた討議・議論を行う。

第15回 まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】テキストを読み、その内容を整理し、自分の意見をまとめる。報告担当のグループは報告内容を検討し、プレゼンテーション用資料を作成する。[60分]

【事後学修】授業で議論された内容、プレゼンテーションの反省点を確認する。[45分]

#### 評価方法および評価の基準

データの客観的評価、論理的推論、積極的発言のそれぞれについて概ね3分の1とし、報告内容(30%)、レポート(報告資料を含む)(30%)、ディスカッションへの参加度(40%)として、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】授業で、報告内容とプレゼンテーションについてコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは受講生の関心と卒業研究テーマを考慮して授業で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	演習		
担当教員名	見吉 英彦		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科3年後期の必修科目である。4年次の「卒業研究」につなげるために経営学に関する知識や理論・考え方を自らの関心と強く結びつけながら学ぶ。

##### 科目の概要

経営学分野についての理解をさらに深め、自ら課題を発見し、解決する力を身につけていく。

##### 授業の方法

各人が企業経営に関する課題を自ら設定し、発表してもらう。その内容を基に議論を行う。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

経営学における知識や考え方をより深く理解し、説明できる。

自らの興味・関心に基づいて課題を発見し、解決のための方法などを説明できる。

グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

##### ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念      -2柔軟性、行動判断      -2主体的学修

#### 内容

演習 では、卒業研究の内容を意識しながら、企業経営に関する課題を自ら設定し、各自発表してもらう。発表内容を基にディスカッションを行う。

第1回：オリエンテーション

第2回～第5回：問題設定と情報収集・分析

第6・7回：発表

第8回：発表 を終えて

第9回～第12回：問題設定と情報収集・分析

第13・14回：発表

第15回：発表 を終えて・全体のまとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】発表用資料を作成する。(各授業で90分以上)

【事後学修】授業内の発表内容やディスカッションについて、ノートにまとめる。(各授業で60分)

#### 評価方法および評価の基準

1.経営学における知識や考え方をより深く理解し、説明できる。

(発表内容：20% 議論への参加度：5% 学習内容をまとめたノート：5%)

2.自らの興味・関心に基づいて課題を発見し、解決のための方法などを説明できる。

(発表内容：15% 議論への参加度：15% 学習内容をまとめたノート：15%)

3.グループワークやディスカッションを通じて、物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

(発表内容：5% 議論への参加度：15% 学習内容をまとめたノート：5%)

発表内容(40%)、議論への参加度(35%)、学習内容をまとめたノート(25%)を評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】議論や提出物に対するフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回授業時に詳細を説明する。

科目名	演習		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業在職時に研究を主体に業務を行ってきた。本科目は4年生の卒業研究につながる内容であり、研究の進め方について実践的に伝えていく。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科のゼミ領域に属する専門科目である。

社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力が求められている。生活情報ゼミ、演習で学習した内容を基礎にして、自主的な計画を立てて、4年生の卒業研究につながる研究を行う。

##### 科目の概要

マルチメディアサービス、ゲーム、通信サービス、セキュリティサービス、などをテーマとして、学生が主体的にテーマ設定を行い、研究する手法を体得する。卒業研究に向けた準備として、作品制作等を行う。

##### 授業の方法 (ALを含む)

学生が設定したテーマに基づき主体的に計画を立て、作品制作を進める。

##### 到達目標

- ・ 研究計画に沿って研究を遂行することができる。
- ・ 研究内容を発表し、他人に研究内容の価値を説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 専門教育で習得した理論、方法を用いて、自らテーマを設定し、課題を抽出・解決し結論を導き、論理的に表現できる。
- 2 新しん知識や技術を自ら学ぶ態度を身につける。

#### 内容

4年生の卒業研究に向けた準備を行う。具体的なテーマは学生の興味に合わせて決定する。設定したテーマについて、研究の目的と位置づけを明確にして、学生が主体的に進める形式で行う。設定するテーマの分野の例として、次のようなものがある。

1. WebページやWebサービス
2. ゲーム (2D, 3D)

### 3. 3Dモデリング

### 4. その他のアプリケーションサービス

1	作品制作
2	作品制作
3	作品制作
4	作品制作
5	発表
6	作品制作
7	作品制作
8	作品制作
9	作品制作
10	発表
11	作品制作
12	作品制作
13	作品制作
14	作品制作
15	発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】個々のテーマに合わせて、授業回毎の計画を立てる。（各授業に対して45分）

【事後学修】個々のテーマに合わせて、授業時間内でできなかったことを行う。（各授業に対して90分）

#### 評価方法および評価の基準

進捗報告の発表内容により、研究計画および研究の価値を正しく理解し他人説明することができるかどうかを評価する。定期的に行う進捗報告会での発表内容を100点満点で評価し、平均点が60点以上を合格とする。発表内容については、フィードバックとしてコメントを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマごとに適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習，卒業研究に続くテーマが望ましい。

科目名	演習		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門必修科目であり、生活情報ゼミ・演習 で得た知識・技術を発展させ卒業研究へと繋げていく科目である。

##### 科目の概要

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていく科目となる。ゲーム作成を通して設計から開発、テストまでを実際に行う内容と、世の中にある実際のデータを解析し、知識を抽出することの2つのテーマから選んで学んでいく。

2つのテーマに合わせ、ゲーム作成ではゲームの作成・改良を行っていく。データ解析では、基礎的な解析結果から解析目標を絞り込み、より深く解析していく。

##### 授業の方法 (ALを含む)

自分で建てた研究目標に向かって自分の研究工程を明確にし、それに沿って研究を進めていく。このことによって知識・スキルを深めるとともに自分で考え結果を出していく。【PBL】

##### 学修目標 (到達目標)

1. 自分の研究内容に合わせて、必要な情報を収集し・利用できる。
2. 自分の研究内容で解決すべき問題点を発見し、研究計画の修正が必要な時は計画を修正できる。
3. 自分の研究内容をわかりやすく工夫してプレゼンテーションできる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 4 課題設定・抽出・解決、論理的表現
- 4 創造力
- 2 主体的学修

#### 内容

自分の研究目的に合わせて必要な内容を増やし集中的に学んでいく。特に自分で研究計画を立て、研究計画に沿って進めていく。また、その過程で生じる新たな疑問や興味に対しても積極的に追及する。【PBL】【創作、制作】【プレゼンテーション】

1	オリエンテーション
2	各自研究分野の再調査・再検討【PBL】
3	各自研究分野の修正・変更【PBL】
4	各自研究分野の計画再作成【PBL】
5	研究計画発表会【プレゼンテーション】
6	研究計画発表会【プレゼンテーション】
7	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
8	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
9	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
10	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
11	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
12	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
13	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
14	研究成果報告会【プレゼンテーション】
15	研究成果報告会【プレゼンテーション】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究計画に従い、事前準備をしておく。(各回60分)

【事後学修】研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。(各回60分)

#### 評価方法および評価の基準

自分の研究目標に対する取り組み(20%)、研究計画に対する達成度合いと発表点(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

到達目標 2. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(40%/80%)

到達目標 3. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示に対応し、研究方針を指示する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

詳細については、オリエンテーションで指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

生活情報学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。演習 に続いて、卒業研究に向けて基礎的な経済学について学習する。

科目の概要

基礎的な文献と輪読し、共通理解を深める。また、東京証券取引所や日銀などを見学し、より学習を進めていく。

授業の方法 (ALを含む)

学修目標

経済学について基礎的な知識を身につけ、自分で考える力をつける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

日本経済の基礎的な内容を学習する。特に、日本経済や経営に関する問題などを新聞、雑誌などを読みながら進めていく。また、日本銀行、東京証券取引所などを見学するなどして現実の経済の動きを身近に感じられるようにする。さらに、卒業研究のテーマを決め、研究を進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に新聞や雑誌などを読む。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業中に議論した内容をさらに調べる。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

ゼミでの発表(50%)。レポート作成(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	演習		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

メーカーでのマーケティング実務経験を有する教員がキャリアを生かした視点を交えながら、演習を進める。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科3年次の必修科目。

##### 科目の概要

マーケティングについての演習の内容を発展させ、グループで自主的に調査・研究したものをまとめ、プランを構築したものを、対外的に発表することで、実社会への適応能力をパワーアップさせていく。

##### 授業の方法

大学生マーケティング・コンテスト等に向けたマーケティングプランをグループで構築していく。

##### 到達目標

・ゼミ全員で、校外コンクールなどに応募できる力を構築できる。・討議・議論を行い問題解決できる力を構築できる。・4年次にむけた卒業研究をのテーマの方向性を検討できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシー「 -3問題解決への活用」「 -2理論的思考力」「 -3課題発見」を目的とする。

#### 内容

マーケティングコンテストに応募することで、対外的なプレゼンテーション能力を鍛えていきます。後半では、改めて業界研究を行い、卒業研究に向けた個別のテーマも検討していきます。

1回～5回 マーケティングコンテストの課題と問題点抽出

6回～10回 プレゼンテーション内容を構築し、英語表記の確認

11回～12回 プレゼンテーションスピーチの練習

13回 コンテストの反省

14回～15回 就職対策の確認

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業計画に示された「学術用語」について、簡単に調べ、A4・1枚にまとめておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

・ゼミ全員で、校外コンクールなどに応募できる力を構築できる。レポート20%、平常点20% ・討議・議論を行い問題解決できる力を構築できる。レポート20%平常点20%、  
・4年次にむけた卒業研究をのテーマの方向性を検討できる。レポート20%、平常点10%。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指示。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

ゼミ卒研のゼミ領域必修科目であり、生活情報ゼミ・演習 に続く卒業研究準備の最終段階の科目と位置付けられる。卒業研究のテーマを確定し、研究計画をたてる。

##### 科目の概要

演習 で立案した卒業研究テーマ案について検討を進め決定する。さらに、研究背景等に関する情報を収集し、研究に用いる課題解決手法やプログラミングについても学修を深めたうえで研究計画をたて、卒業研究の準備を整える。

##### 授業の方法 (ALを含む)

各自の設定した卒業研究のテーマ案について、ディスカッション等により検討を深めて確定し、研究計画をたてる。その結果をレポートにまとめて発表する。【PBL】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(発表)】

##### 到達目標

1. 背景・目的・方法を明確にしたうえで卒業研究のテーマを決定する
2. 研究計画を立て発表する

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 課題設定・抽出・解決、論理的表現      -3 論理的思考      -3 課題発見

#### 内容

生活情報ゼミ・演習 で学んだことを参考にしながら、資料・文献調査や発表・ディスカッション【討議・討論】を通して、研究の背景や目的を明確にしたうえで、取り上げる問題に対する仮説を設定し、その検証方法や必要なデータについて検討する【PBL】。必要となる手法についてはソフトウェアの利用方法も含めて確認しておく。期末に研究テーマ・計画について発表する【プレゼンテーション】【レポート(発表)】。授業計画は以下の通り。

- 1-6回：卒業研究テーマ・研究計画の検討
- 7,8回：中間報告
- 9-13回：卒業研究テーマ・研究計画の検討

14,15回：テーマ・研究計画発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】ゼミ報告資料をまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】ゼミでのコメントをフォローする。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 背景・目的・方法を明確にしたうえで卒業研究のテーマを決定する

取り組み：25% + 研究計画発表：25%

2. 研究計画を立て発表する

取り組み：15% + 研究計画発表：35%

取り組み：40%、研究計画発表60%とし、総合的評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題・発表・ディスカッションについてコメント・解説するとともに、必要に応じて参考文献の紹介や補習（個別ゼミ）を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科3年後期の必修科目である。4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

##### 科目の概要

カリキュラムで設定されている情報関連分野について理解を深め、自主的に問題解決する力を身につけていく。

##### 授業の方法

グループでの議論を中心に進める。必要に応じてコンピュータの演習を行う。

##### 到達目標

- (1)学修体系を解釈でき、各自で問題点を発見し、述べることができる。
- (2)問題解決に向けて、グループ内でコミュニケーションする。
- (3)解決の手段を選択し応用、工夫することができる。
- (4)問題解決に向け協調できる。

##### ディプロマポリシーとの関連性

この科目は、生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3問題解決への活用 -1情報収集、判断 -2主体的学修

#### 内容

生活情報学科3年後期カリキュラムが網羅する分野において、自分なりの問題点を把握する。それらの問題をグループで共有し、解決法を議論する。議論した解決方法に関する資料を集め、解決方法を実践する。

また、興味ある分野についてより進んだ学修をする。

1週 ゼミ進行を確認する。

2-5週 2年生後期カリキュラムを分析し、各自問題点を把握する

6-7週 各自問題点をゼミメンバーで共有し、解決方法を議論する

8-9週 各自問題解決に向けて、必要な情報を検索、関連書籍を調べる。

10-14週 各自で問題解決に向け学習・作業を進めると同時に、問題解決に向けて適宜ゼミナールの中でコミュニケーションを行う。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前に関連情報を検索する。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った内容について、学習カードにまとめる。(各授業で60分)

#### 評価方法および評価の基準

自分の取り組みを学習カードに記入していく。

到達目標(1) 学習への取り組み(10点/100)

到達目標(2) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(20点/100)

到達目標(3) 議論への参加度(10点/100) 学習カード(30点/100)

到達目標(4) 議論への参加度(20点/100)

以上の配分で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する。各自のテーマによる。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

演習IIは、演習Iに引き続き、ヒューマンインタフェース，マルチメディアの考え方を幅広く検討し、課題発表等を通じて考察力、分析力、さらには問題解決能力等を習得する科目である。また、演習Iは、翌年の卒業研究へのステップとして位置付け、テーマ設定、研究計画等、卒業研究の準備も行う。

##### 科目の概要

演習 に引き続き、ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎力の確認、検討を行う。課題発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して各自、選択可能なテーマの中から発表を行う。課題はヒューマンインタフェース，マルチメディアの範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。

##### 授業の方法（ALを含む）

個人ごとにテーマを設定し，研究活動を進める

##### 到達目標

ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力が習得できる。

ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎知識把握と発展的拡充ができる。

効果的なプレゼンテーション・スキルを向上するとともに積極的に議論に参加できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 3 問題解決のため発展的な実践方法
- 3 論理的思考
- 3 課題発見

#### 内容

この授業は発表を中心に、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

演習 の具体的内容は以下のとおりである。演習 は演習 の内容をさらに発展させヒューマンインタフェース，マルチメディアを想定したテーマを課題に取り組んでいく。課題の発表方法は演習 と同様にボリュームにより単独、グループの場合があるが、発表は既定のフォーマットを用いて全員で評価、ディスカッションを行う。ゼミの後半では次年度の卒業研究に向け、テーマ設定や論構成、執筆計画等の卒業研究執筆手順についても指導する。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと。（各授業に対して150分）

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと。（各授業に対して90分）

## 評価方法および評価の基準

評価 ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力が習得できる。(レポート20%、平常点20%)

ヒューマンインタフェース，マルチメディアの基礎知識把握と発展的拡充ができる。(レポート20%、平常点10%)

効果的なプレゼンテーション・スキルを向上するとともに積極的に議論に参加できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック レポートは翌週以降の授業内で返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

【推薦書】

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」の3年次後期必修科目である。3年次前期必修科目の「演習」の成果を発展させ、4年次に卒業研究に取り組むための準備となる。

##### 科目の概要

3年次前期の演習で選定した参加学生各自の研究テーマについて、実証的にアプローチする方法を学ぶ。社会調査データアーカイブ、官庁統計、新聞記事より先行研究をまとめ、研究テーマに即した研究方法を検討する。

##### 授業の方法（ALを含む）

「ゼミ卒研」科目のため、【グループワーク】による【プレゼンテーション】と【討議・討論】によって授業を進める。

##### 到達目標

社会調査のデータや社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握し、説明できる。社会調査のデータや社会経済統計を分析して、文章で表現できる。社会調査データや社会経済統計に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4課題設定・抽出・解決、論理的表現、 -1情報収集、判断、 -1興味・関心、主体性

#### 内容

卒業研究で取り上げるテーマについて、研究の背景や目的を明確にし、研究を進めるうえで必要な資料収集方法を検討する。

3年次前期の演習で選定した卒業研究のテーマならびにキーワードについて、関連データ、先行研究を収集し、参考文献リストを作成して先行研究をまとめる。あわせて、研究テーマに適した研究方法を検討する。

スケジュールは、以下のとおりである。

第1回 ガイダンス

- 第2回～第4回 日本統計年鑑を使った関連データの収集
- 第5回～第6回 Googleトレンドを使ったキーワード分析
- 第7回～第9回 新聞記事検索による関連記事の収集
- 第10回～第12回 社会調査データアーカイブの先行研究
- 第13回 卒業研究の参考文献リスト
- 第14回 卒業研究の先行研究
- 第15回 卒業研究の研究手法

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業時の討論の成果を整理する（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

社会調査のデータや社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握し、説明できる（平常点20%、レポート10%）。社会調査のデータや社会経済統計を分析して、文章で表現できる（平常点10%、レポート20%）。社会調査データや社会経済統計に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組むことができる（平常点20%、レポート20%）。平常点50%、レポート50%として、総合評価60/100点以上を合格とする。レポートは添削してフィードバックする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】総務省統計局『第六十九回日本統計年鑑』（令和2年）<https://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.html>

【推薦書】参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

連絡なく遅刻・欠席すると、授業時のグループワークやプレゼンテーションが成り立たなくなるので、自覚をもって授業に臨んでください。

学期末レポートについては、Live Campusの授業連絡で通知します。ポータルサイトを使って、期限までにレポートを提出してください。

科目名	演習		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

総合商社の本社勤務、子会社勤務、ファンド経由の事業買収などを経験してきた。業界別に企業の経営状態を分析してきた経験がある。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

演習Iで収集した資料の分析を更に進め、当該業界乃至企業の抱える問題点を探り出す事をもって卒業研究に繋げる。

科目の概要：企業は大なり小なり問題を抱えている。ヒアリングや決算書類、財務諸表等の分析並びに議論を通じて企業或いは業界の抱える問題を見付け、他人との議論を通じて卒業研究に繋がるテーマへと整える。

授業の方法 (ALを含む) 研究対象の企業の決算書、有価証券報告書そのた業界紙などからデータを見つけ、実態を議論を通じて掴む。討論の末に、自ら考える企業の実態につきプレゼンテーションを行う。

#### 到達目標

資料から分かる事を筋道を立てて説明できるようになる。

分かった事を元に他人を納得させられる事が出来る力がつく。

他人の指摘を受けつつ自分の見解をまとめる事が出来る力がつく。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

演習Iでは資料を収集して、自分なりに分析する処まで行う。演習IIでは、それを受けて改めて資料を見直し、自分の着眼点、分析結果につき他学生との討議を行いながら着眼点や論点のブラッシュアップを行い卒業研究の基礎を築く事を目指す。この為、1回目はオリエンテーションとし、2回目～3回目までが自分が演習Iを通じて得た結論の披瀝。4回目～6回目までがグループディスカッション。7回目～10回目までがグループディスカッションで指摘を受けた事を加味して自分の考えの修正を行う。11回目～14回目までが、修正した意見で他生徒への説明と理解を得る。15回目は総括。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前配布された資料を読み込み、自分の考え或いは論点を整理しておく。(45分)

【事後学修】授業中に受けた指摘、反論等を良く反芻し、自論への普遍性付与の糧とする。(45分)

#### 評価方法および評価の基準

課題発表（30%）、レポート作成（30%）、ディスカッション等参画態度（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

各自の選択した分野について、研究テーマを設定し、これまで学んできた知識・技術の集大成としての作品の作成・開発を進めていく。

#### 科目の概要

3年次の演習を基礎として、各自のテーマで研究を進める。本やインターネットの情報を参考にしつつも、単なる作成にとどまらず、各自の工夫点を盛り込み、制作物の意義を発表会で発表していく。

#### 授業の方法 (ALを含む)

#### 到達目標

1. ゼミ担当教員とテーマ選択や実現方法、到達目標等に関して指導・話し合いを通じて、卒業研究テーマ内容を設定する。
2. 随時、研究の内容や方向性および進め方等について指導教員と検討する。
3. 進捗を自己管理し、進捗報告会、中間報告会、卒研発表会で成果をプレゼンテーションする。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

研究テーマの設定や研究スケジュールなどを教員と相談しながら決定し、研究に必要なデータ収集や調査、ツールや素材の作成などを進める。

さらに、具体的な作品を作成しながら、内容の検討やブラッシュアップを進めていく。

進捗報告会や中間報告会では、ゼミ担当教員からアドバイスを受けて追加修正作を行い、完成度を高める。

卒研発表会では研究成果をプレゼンテーションするとともに、全体をまとめたレポートを作成する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】前回の学習内容を再確認し、次回の演習内容との関連性を理解しておく。(60分)

【事後学修】今回の内容を見直し、自己の知識として確実に定着させておく。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

日常の取り組み姿勢(10%)、進捗報告会(10%)、中間報告会(20%)、卒研発表会(30%)、レポート(10%)、成果物(20%)を点数化し、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。授業の中で適宜指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

生活情報学科の学位授与方針1. 2. 3. に該当する。

本科目は教育課程編成・実施方針における「卒業研究」の科目であり、「自らテーマを設定し、テーマに対する目標設定、課題抽出、解決、結論の導出を行い、議論し、作品制作を行う」を求められている。プレゼミ、演習、に続く授業であり、卒業研究と合わせて、卒業研究を進め、最後に発表を行う。

3年生までのコンピュータに関して学んだことを総合的に理解し、調査、研究し、各自の考え方にに基づきソフトウェアの作品制作を行う。ソフトウェア開発では、まず、どのようなソフトウェアを作るかというアイデアをだす「考える力」、そしてチームでの開発作業に必要な「協調性」が求められる。グループで作品を制作する過程で、ツールやプログラミング言語を使えるようにするだけでなく、ソフトウェアの開発工程を体験することにより、「考える力」や周囲とうまく作業を進める「高い協調性」を身に付けることも大切にする。

授業の方法 (ALを含む)

本授業では大学で学んだことの総括として、学んだこととアニメーションに関する知識を基に調査、研究、討論し、グループでの協調作業としてアニメーションを作成に取り掛かることができることを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

内容

まず、ソフトウェア開発のための準備をする。ゼミは基本的に、自分たちで調べたこと、考えたことを発言し、討論する場を多くする。次に、既存のさまざまなアニメーションソフトを使いソフトウェアの比較をし、利点、欠点など批評しあう。既存のゲームソフト、幼児、子供用の学習ソフトを使い、比較することにより、使った人が楽しめるソフト、使いやすいソフトはどのようなソフトか考える。

更に、グループでアニメーションソフトウェアを作る企画を行う。特にFLASHにはこだわらずさまざまなアニメーション作成ツールがあるので、目的にあったツールを使い、アニメーションを作成する。

グループに分かれ、自分たちでどのようなソフトを作るか討論して決め、卒業作品を作成する。

また、アニメーション作成時に体験した問題点を整理し、一般的なソフトウェア作成時の問題点として考えたときどのような問題と解決策があるか整理し、まとめて卒業論文を書くことが望ましい。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】平常時から、各自の卒業研究課題に関連した書籍を読んだり関連したソフトを使ったりして、事前準備することが望ましい。(60分以上)

【事後学修】他の学生の卒業研究関連の発表を聞いたときは、関連した本を読んだり、関連した疑問を考え、次回に質問するよう各自、授業以外で学習することが望ましい。(60分以上)

#### 評価方法および評価の基準

発表態度(30%)、ゼミでの活動状況(30%)、卒業作品(40%)を総合的に判断して評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】定期的に作成した提出物に関する発表を通して、ゼミの中で批評したり、意見を言い合うことにより、個々の学習の理解が深められるようにする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

3年次までに学んだ技術を使い、卒業制作としてデジタル作品を作ってもらいます。



科目名	卒業研究		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業在職時に研究を主体として業務を行ってきた。研究の進め方，成果の出し方，成果の宣伝の仕方を伝える。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科のゼミ領域に属する専門科目である。

演習 の研究内容を発展させ、自主的に進める。社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。

##### 科目の概要

学生が主体的に研究計画を立て、それに基づき各自のテーマに沿って研究を行い、最終的にその成果を卒業論文としてまとめる。これらの活動を通して、社会に出て必要とされる業務遂行能力を身につけることをねらいとする。

##### 授業の方法 (ALを含む)

学生が設定したテーマに基づき主体的に計画を立て、作品制作を進める。制作した作品をもとに卒業論文を執筆し、最終的に卒論販票を行う。【制作】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

- ・学んだ知識や技術を使って作品を制作することができる。
- ・新たに必要となる知識や技術を自ら学んで作品制作に反映することができる。
- ・研究成果を卒業論文としてまとめ発表することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 問題設定・抽出・解決，論理的表現， -1 情報収集，判断， -3 課題発見

#### 内容

下の研究分野を参考に学生が主体的に設定したテーマに沿って、作品等の作成や調査研究を行い、卒業論文の執筆を行う。定期的に進捗報告発表を行う。

1. WebサービスやWebページ
2. ゲーム (2D, 3D)
3. 3Dモデリング

#### 4. その他のアプリケーションサービス

1-4回 作品制作

5回 発表

5-9回 作品制作

10回 発表

11-14回 作品制作

15回 発表

16-19回 作品制作

20回 発表

21-24回 卒論執筆

25回 発表

26 - 29回 卒論発表練習と卒論修正

30回 卒論発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の研究計画に合わせて、事前予習を行う。（各授業に対して45分）

【事後学修】自分の研究計画に合わせて、事後学修を行う。（各授業に対して120分）

#### 評価方法および評価の基準

進捗報告の内容を制作した作品により作品制作技術を評価し、卒業論文により研究成果の発表能力を評価する。定期的に行う進捗報告、卒論発表会での発表内容（50点）、卒業論文（50点）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

進捗報告、発表会の発表についてはフィードバックとしてのコメントを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

作品制作に加えて、新規性や有用性について明確に主張することが大事である。

科目名	卒業研究		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

企業研究所での研究経験と企業でのシステム開発経験がある教員が担当し、プログラムの保守性にも着目した指導と演習を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の専門必修科目であり、生活情報ゼミ・演習 ・ で得た知識・技術を発展させ卒業研究へと繋げていく科目となる。

##### 科目の概要

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていく科目となる。ゲーム作成を通して設計から開発、テストまでを実際に行う内容と、世の中にある実際のデータを解析し、知識を抽出することの2つのテーマから選んで学んでいく。

2つのテーマに合わせ、ゲーム作成ではゲームの作成・改良を行っていく。データ解析では、基礎的な解析結果から解析目標を絞り込み、より深く解析していく。

##### 授業の方法 (ALを含む)

自分で建てた研究目標に向かって自分の研究工程を明確にし、それに沿って研究を進めていく。このことによって知識・スキルを深めるとともに自分で考え結果を出していく。【PBL】【創作、制作】【論文】【プレゼンテーション】

##### 学修目標 (到達目標)

1. 自分の研究内容に合わせて、必要な情報を収集し・利用できる。
2. 自分の研究内容で解決すべき問題点を発見し、研究計画の修正が必要な時は計画を修正できる。
3. 自分の研究内容をわかりやすく工夫してプレゼンテーションできる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 4 課題設定・抽出・解決、論理的表現
- 4 創造力
- 2 主体的学修

#### 内容

1週	オリエンテーション
2週	各自研究分野の再調査・再検討【PBL】
3週	各自研究分野の修正・変更【PBL】
4週	各自研究分野の計画再作成【PBL】
5～6週	研究計画発表会【プレゼンテーション】
7～13週	研究計画に沿って実施【創作、制作】【PBL】
14～15週	研究成果報告会【プレゼンテーション】
16～18週	各自研究内容のまとめ【論文】
19～20週	卒業論文資料作成【論文】
21～25週	卒業論文作成【論文】
26～27週	卒業論文発表会発表資料作成
28週	卒業論文発表会予行【プレゼンテーション】
29～30週	卒業論文発表会【プレゼンテーション】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究計画に従い、事前準備をしておく。（各回60分）

【事後学修】研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。（各回60分）

#### 評価方法および評価の基準

自分の研究目標に対する取り組み（20%）、研究計画に対する達成度合いと発表点（80%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

到達目標 2. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(40%/80%)

到達目標 3. 研究への取り組み(10%/20%) 毎回の達成度と発表・報告等ワーク(20%/80%)

【フィードバック】毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示、発表内容に対応し、研究・まとめ方針を指示する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。演習 に続いて、卒業研究に向けて基礎的な経済学について学習し、卒業論文の作成をすすめる。

##### 科目の概要

基礎的な文献と輪読し、共通理解を深める。また、卒論作成とそれに向けた中間発表を行う。

##### 授業の方法

卒論を作成し、ゼミで発表し質疑応答していく。【論文】

##### 到達目標

1. 卒論を作成することができる。
2. 卒論の内容をまとめることができる。
3. 卒論の発表を行うことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は生活情報学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

思考力・判断力・表現力 1「実社会における問題に対し 正確に情報を集め、判断できる能力を身につける。」 3「データや現象から何が起きているのかを読み解く能力・論理的・思考力を身につける。」 知識・技能 4 専門教育で習得した理論・方法を用いて、自らテーマを設定し、課題を抽出・解決し結論を導き、論理的に表現できる。

#### 内容

日本経済の基礎的な内容を学習する。特に、日本経済や経営に関する問題などを新聞、雑誌などを読みながら進めていく。また、日本銀行、東京証券取引所などを見学するなどして現実の経済の動きを身近に感じられるようにする。さらに、卒業研究のテーマを決め、研究を進めていく。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に新聞や雑誌などを読む。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業中に議論した内容をさらに調べる。（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

ゼミでの発表(50%)。レポート作成(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

卒論は大学生活最後のまとめです。積極的に取り組みましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」の4年次必修科目である。2年次後期の生活情報ゼミ、3年次前期の演習、3年次後期の演習を踏まえ、大学4年間の学修を総括する。

##### 科目の概要

2年次後期の生活情報ゼミ、3年次の演習・演習を通じて絞られた個々の研究テーマについて、社会調査による実証データを収集・分析し、ゼミナールでの中間報告とグループディスカッションを通じて考察を深め、論理性のある研究論文を執筆する。

##### 授業の方法（ALを含む）

「ゼミ卒研」科目のため、【グループワーク】による【プレゼンテーション】や【討議・討論】を通じた【論文】執筆指導によって授業を進める。

##### 到達目標

自らの大学4年間の学修を総括する研究テーマについて、オリジナルなデータに基づいた考察に積極的に取り組むことができる。客観的な論理に基づく新たな知見を提示し、残された課題を説明できる。論理性のある研究論文を執筆できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1情報収集、判断、 -3論理的思考、 -4創造力、 -3課題発見

#### 内容

卒業研究は、次の手順によって進められる。1．研究テーマの設定、2．先行研究の検討、3．独自性・独創性のある理論の展開、4．まとめと今後の課題の提示。

参加学生は、ゼミナールにおいて卒業研究を中間報告し、グループディスカッションすることによって、各自の研究テーマについて理解を深める。

担当教員は、個々の研究課題に対して理論や接近法を助言するとともに、研究論文（本文14,000字から20,000

字)の執筆について技術指導する。

第1回～第4回 先行研究の検討

第5回～第8回 データ収集方法の検討

第9回～第12回 卒業論文の構成検討

第13回～第14回 卒業研究中間報告のプレゼン資料作成

第15回 卒業研究中間報告会

第16回～第17回 卒業論文の概要執筆とプレゼン

第19回～第21回 卒業論文の執筆とプレゼン(第1クール)

第22回～第24回 卒業論文の執筆とプレゼン(第2クール)

第25回～第27日 卒業論文の執筆とプレゼン(第3クール)

第28回 卒業論文の仕上げおよび提出

第29回 卒業研究報告のプレゼン資料作成

第30回 卒業研究報告会

なお、近年の卒業論文のテーマには、以下のものがある。

「男性アイドルグループにみる個の関係性 - 『嵐』の場合より - 」

「新宗教運動の発達の課題 - 世界平和統一家庭連合の事例より - 」

「訪日中国人の通訳ガイド需要」

「中華系ホテルの接客サービス - シャングリラホテルの事例より - 」

「鴻海機械工業によるシャープ株式会社の買収 - その成果と課題 - 」

「性の多様性理解にむけて - 児童を対象とした啓発パンフレットの制作 - 」

「ソーシャルゲームをめぐるトラブルと安全規制 - 消費者保護の視点から - 」

「現代のスピリチュアル・ブーム - 癒し・スピリチュアル系商品・サービスの市場 - 」

「郊外型ショッピングセンターの開発と生活圏の変化 - 埼玉県高坂ニュータウン周辺の場合から - 」

「日本におけるコーヒー文化の新潮流 - 30年間の新聞記事検索を手がかりに - 」

「即席麺の市場拡大とご当地カップ麺の投入」

「母乳育児と人工栄養の普及についての日中比較」

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業時の討論の成果をもとに研究論文を執筆する(各授業に対して60分)。

#### 評価方法および評価の基準

研究テーマについて、オリジナルなデータに基づいた考察に積極的に取り組むことができる(平常点20%、論文20%)。客観的な論理に基づく新たな知見を提示し、残された課題を説明できる(平常点20%、論文20%)。論理性のある研究論文を執筆できる(論文20%)。平常点40%、卒業論文60%として、総合評価60/100点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生個々の研究テーマに応じて、授業時に推薦書を紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

事前予習、事後学修に際して、個別相談を受けるので、オフィスアワーにアポイントを取るようになしてください。



科目名	卒業研究		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

ゼミ卒研の卒業研究領域必修科目であり、生活情報ゼミ・演習 での学修したことをベースに卒業研究を実施する。

##### 科目の概要

各自の設定したテーマについて、研究計画に基づいて卒業研究を遂行し、結果を論文にまとめる。

##### 授業の方法（ALを含む）

途中経過の報告・ディスカッションを重ねながら卒業研究を進め、成果をまとめた卒業論文を発表する。【PBL】【レポート（表現）】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

1. 卒業研究を遂行し、研究成果を卒業論文としてまとめることができる
2. 実践的・総合的な課題解決ができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 課題設定・抽出・解決、論理的表現 -3 論理的思考 -3 課題発見

#### 内容

各自の設定した研究テーマについて、研究計画に基づいてデータ解析・オペレーションズリサーチ等の課題解決手法を用いて仮説の検証を行う【PBL】。これらは報告【レポート（表現）】・ディスカッション【討議・討論】をしながら進め、研究計画は必要に応じて修正する。得られた結果について考察し、卒業論文にまとめる【論文】。期末には卒業論文およびその要旨を提出し、その概要について発表する【プレゼンテーション】。授業計画は以下の通り。

1-7回：各自のテーマに応じたデータ収集・解析など

8回：中間報告

9-14回：各自のテーマに応じたデータ収集・解析など

15回：中間報告

16-21回：研究結果のまとめ・考察など

22回：中間報告

23-28回：論文執筆、発表練習など

29,30回：最終発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】ゼミ報告資料をまとめる。（各授業に対して平均60分）

【事後学修】ゼミでのコメントをフォローし、論文を執筆する。（各授業に対して平均120分）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 卒業研究を遂行し、研究成果を卒業論文にまとめる

卒業論文：50% + プレゼンテーション：10% + 取り組み：10%

2. 実践的・総合的な課題解決を経験する

卒業論文：10% + プレゼンテーション：10% + 取り組み：10%

卒業論文：60%+プレゼンテーション：20%+取り組み：20%とし、総合的評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ゼミでの進捗報告・プレゼンテーションについてコメント・解説するとともに必要に応じて補習（個別ゼミ）を行う。卒業論文については執筆の過程で適宜コメント・添削する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

40年近い企業経験（総合商社）で国際貿易、事業投資、子会社運営等に携わった事より広い業界知識、企業分析等の経験を活かした指導が出来る。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

本科目は、教育課程表における、生活情報学科の必修授業の一つとして位置づけられる。

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させる。

科目の概要：

演習I/IIで学んだ事を基礎に、興味をもつ業界に於け様々な企業の発展と成功の要因を探り纏める。

授業の方法（ALを含む）自らの課題を設定し、設定の理由をプレゼンテーションする。課題が決まったのちは、論文の骨子を討論を通じて掴む。最終的に論文にまとめ上げ発表する。

到達目標

広く社会と企業活動に関心を持ち、現代における企業の在り方や社会の要求に応える事の重要性を理解する事ができる。自分の研究対象業界の企業に関し、企業の活動を通じた社会的価値を理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

-1ビジネスと情報に関する基本的理論・概念 -1情報収集・判断 -1興味・関心主体的学修

#### 内容

1回目～5回目までで、3年生時の研究テーマを踏まえて、討論を通じて卒業研究テーマの設定を行う。6回目～10回目までは、資料の収集と論文骨子の検討を教員との対話を通じて行う。11回目～20回目は論文の執筆と中間口頭報告。21回目～30回目までに論文完成と発表

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業研究の完成へ向けて進めた作業をまとめる。自らの進捗状況を把握する。（90分程度）

【事後学修】授業時に指摘された箇所についてさらに加筆修正し、課題を完成へ向けて作業を進める。（90分程度）

## 評価方法および評価の基準

1回目～5回目まではテーマ設定の議論内容、6回目以降15回目までは、中間口頭発表の内容にて評価する。16回目以降は卒論完成に向けての授業参加度と卒論提出にて評価する。

【フィードバック】質疑には適宜返答し、各自の卒業研究進捗状況に対してフィードバックをし、学習理解を深めながら卒業研究完成を目指す。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各参加学生の研究テーマに応じて、授業時に指示する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

生活情報学科4年次の必修科目。

##### 科目の概要

前半では、各自のテーマの問題意識、仮説、調査研究を明確にし、論文のスケルトンを仕上げる。  
後半からは、調査・分析へ向けて考察と討論を行い、仕上げていく。

##### 授業の方法 (ALを含む)

3年次までのゼミの学習から各自の卒業研究へ発展させていく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

##### 到達目標

データや現象から問題点を見つけて解決法を考えることができる。大学生生活の集大成としての卒業論文を仕上げるができる。学士としての能力の総仕上げをすることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

「 -3問題解決への活用」 「 -4実社会要求される想像力」 「 -3問題点を見つける能力」

#### 内容

1回～8回 先行研究を調べ、そこから問題を追及して、テーマを設定する。

9回～12回 論文構成を練り上げる。

13回～18回 調査・分析の総仕上げを行っていく。

19回～22回 論文形式のチェック。

23回～24回 発表の準備

25回 発表

9月下旬に中間報告を提出し、最終的な提出期限は12月中旬。

卒論発表を1月中旬する。

A4で20枚以上。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】卒業論文のテーマを各自考察し、A4・1枚にまとめておくこと（各授業に対して45分）。

【事後学修】前期は卒業論文のスケルトンと概要を仕上げる。後期は卒論完成（各授業に対して45分）。

#### 評価方法および評価の基準

・データや現象から問題点を見つけて解決法を考えることができる。レポート20%平常点10%、  
・大学生生活の集大成としての卒業論文を仕上げるができる。レポート20%、平常点10%  
・学士としての能力の総仕上げをすることができる。平常点30%、

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

生活情報学科の学位授与方針1.2.3.に該当する。

卒業研究は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、必修である卒業研究論文を作成する科目である。

#### 科目の概要

具体的には、演習 で学修した会計学、税制の基礎力の確認を行った後、各自の卒業研究テーマを確定し、研究作業に入る。進捗状況に応じた数回の卒業研究発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して発表を行う。卒論テーマは会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。発表におけるプレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

#### 授業の方法（ALを含む）

#### 到達目標

- 1．早期卒論テーマの確定。
- 2．基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
- 3．研究に関する基礎能力の育成。
- 4．効果的なプレゼンテーションスキルの向上。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、生活情報学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

#### 内容

この授業は発表を中心に、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

具体的な卒業研究の内容は以下のとおりである。初回はオリエンテーションを行うが、翌週からは各自1年間の卒業研究計画の策定、卒業研究論文の方法論の確認等を経てテーマ設定に入る。前期の卒業研究ゼミでは、卒論のメインテーマ、サブテーマ、章構成等の検討後、パワーポイント等のソフトを用いて進捗状況に応じ、各自数回の発表報告を行う。夏季休暇における合宿では、卒論のテーマ、構成等の最終的な報告会を行い、後期の本論文作成に備える。また前期では必要に応じて、日商簿記検定試験やFP等の資格試験対策、グループディスカッションや模擬面接等の就活対策等も行う。後期の卒業研究ゼミでは、前期の合宿による卒論の最終発表報告を受けて本論文の作成が中心となる。後期のオリエンテーション後、速やかに本論文の作成に入り、翌年1月末の卒業研究論文集の完成のため、12月中のファイナルドラフトの終了を目指す。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

卒論発表（50%）、レポート・ホームワーク等の作成（20%）、ディスカッション等ゼミナール参画態度（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポート等は翌週以降の授業内で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料・参考書等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

【推薦書】川田剛著『国際課税の基礎知識』税務経理協会

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など